



平成23年度  
学社融合実践集録



平成24年 3月

田辺市教育委員会

## 目 次

### [小学校]

田辺第一小学校	1
田辺第二小学校	3
田辺第三小学校	5
芳養小学校	7
大坊小学校	9
新庄小学校	11
新庄第二小学校	13
稲成小学校	15
田辺東部小学校	17
会津小学校	19
上芳養小学校	21
中芳養小学校	23
上秋津小学校	25
秋津川小学校	27
三栖小学校	29
長野小学校	31
伏菟野小学校	33
咲楽小学校	35
中山路小学校	37
上山路小学校	39
龍神小学校	41
栗栖川小学校	43
二川小学校	45
近野小学校	47
鮎川小学校	49
三川小学校	51
富里小学校	53
本宮小学校	55
三里小学校	57

### [中学校]

東陽中学校	59
明洋中学校	61
高雄中学校	63
新庄中学校	65
上芳養中学校	67
中芳養中学校	69
上秋津中学校	71
秋津川中学校	73
衣笠中学校	75
長野中学校	77
龍神中学校	79
中辺路中学校	81
近野中学校	83
大塔中学校	85
三里中学校	87
本宮中学校	89

### [幼稚園]

新庄幼稚園	91
三栖幼稚園	93
上秋津幼稚園	95
中芳養幼稚園	97

[講評]	99
(学社融合研究所 越田 幸洋 先生)	

平成23年度

# 学社融合 実践集録

学社融合活動実施報告

学校名		田辺第一小学校	公民館名	中部公民館
学社融合における学校・地域の様子 本校の校区は、城下町としての名残を示す地名や伝統産業である「かまぼこ店」があり、田辺祭や湊祭があるなど、歴史と伝統にあふれる地域である。加えて、田辺の中心として商店街が栄え、現在も商店の再生・活性化をはかる人々が様々な取り組みを進めている。また、南方熊楠や片山哲などゆかりの偉人も多く、学校教育活動を支援してくれる人材も多い。これらの地域の人材や資源を生かし本校では、従来から、教科・総合的な学習の時間・クラブ活動などに地域の方をゲストティーチャーに招いた活動を取り入れている。さらに、平成21年度から「地域の教育力を生かした学社融合事業の推進」をテーマに教育委員会指定研究に取り組んでいる。				
活動名		俳句づくりを楽しもう	学年・教科・領域等	4年・国語
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方とふれあいながら、俳句の創作活動を楽しむことができる。</li> <li>・創作した俳句を互いに読み合い、季節を感じる表現や俳句の決まりに気づくことができる。</li> <li>・見つけたことや感じたことが伝わるように俳句を作ることができる。</li> <li>・季節の風景や様子に関わる言葉を地域の方と一緒に集めることができる。</li> </ul>		
	公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちと一緒に俳句を作り、交流を楽しむことができる。</li> <li>・地域の大人の今後の学習につながるヒントを子どもたちから得て、大人の学びにも繋がる活動とする。</li> <li>・学校と地域がより一層の親近感・一体感を持てるような活動とする。</li> </ul>		
支援者及び支援組織 田辺第一小学校・中部公民館学社融合研究推進本部授業研究部、俳句サークル貝寄風				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
日時	ねらい	活動内容	参加人数	
5月上旬	学校と公民館で「俳句づくりを楽しもう」の授業の趣旨について共通理解を図る。	授業内容、参加者等について学校、公民館で打ち合わせを行う。	2名	
5月11日	地域の参加者と、授業展開及び学習目的・内容について共通理解を図る。	学習指導案を示しながら、授業に参加していただける俳句サークルの方々と打ち合わせを行う。	5名	
5月18日	学習指導案に示した学校・地域それぞれの目標を達成する。1時間目	言葉のもつ季節感をつかむため、子どもと地域の方々が共に初夏に関する言葉集めをする。地域の方々には、次時までには、俳句作成をお願いする。	8名	
5月20日	学習指導案に示した学校・地域それぞれの目標を達成する。2時間目	子どもと地域の方々が一緒に俳句作りを楽しむ。創作した俳句をグループで読み合い、良いところを見つけ合う。地域の方の俳句を紹介し、大人の作品の豊かな表現に触れる。	8名	
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>地域の方と一緒にグループ協議</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>地域の参加者も自作の俳句を発表</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>最後に各グループの思いを伝え合う</p> </div> </div>				

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のサークル活動と国語の授業を融合させたことにより、子どもと大人が共に俳句の創作活動を楽しむことができた。</li> <li>・地域の方々が創作した俳句は、身近な自然や風景などを題材としたものであるため、子どもは親しみやすく、俳句の学習の導入として有意義な取り組みとなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・俳句を学習し始めた時期でもあるので、地域の方と一緒に「子ども歳時記」をつくる活動を取り入れることも考えられる。</li> <li>・日程の都合上、サークル代表の方々と事前打ち合わせになってしまった。授業に参加していただく方全員が出席できるよう打ち合わせの時間をどう捻出するか一考を要する。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方々が子どもの意見に対して和やかな雰囲気でのコミュニケーションを図ってくださったため、季語を意識して見つけたことや感じたことを五七五のリズムを感じながら、俳句を作ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の俳句の良いところを見つけ合う活動の中で、俳句を作った背景や思いを伝え合う時間を多くすればよかった。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の大人が授業に参加することで、子どもたちに、よりきめ細やかな学習指導を行うことができた。</li> <li>・子どもたちが、大人に対する接し方を意識しながら授業に取り組むことができ、より広い社会性を身につけることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもと地域の大人との関わりが、一過性のものでなく、より連綿とした活動となるよう検討していく必要がある。</li> </ul>
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちと活動を進めることで、子どもたちの新鮮な言葉から今後の文化活動に対するさまざまなヒントを得て、大人の学びにも繋がった。</li> <li>・授業において学校・地域が融合した活動を進めたことで、地域の大人が地域を振り返る機会となり、「地域の中の学校」、「地域の中の子どもたち」という意識がより明確となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も地域の人材や資源把握に努め、学校と公民館との情報共有を進める必要がある。</li> <li>・活動に参加するにあたり、地域の大人にしてもらいたい内容、また、その際の留意事項などについて、学校・公民館・地域の参加者三者が、より共通理解を深めておく必要がある。</li> </ul>
<p>評価及び次年度に向けての取り組みの方向</p> <p>○評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの実生活を見てみると、疑似的・間接的な体験が増え、人やもの、自然に直接触れるという体験活動の機会が少なくなってきた。そのような子どもが俳句サークルの方々と俳句の創作活動に取り組むことで、言葉を通して、季節の変化や自然の美しいものに感動するよい機会となった。俳句サークルの方々も、子どもの質問や意見に対して、「歳時記」を片手に和やかな雰囲気でのコミュニケーションを図ることができた。参加いただいた方からは、子どもとの交流が楽しく、元気をもらえてうれしいという言葉を受けた。子どもも大人も共に俳句の創作活動を楽しみ、学び合うことができた。</li> </ul> <p>○次年度に向けての取り組みの方向</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この取り組みの後、4年生は地域のコーラスサークルと音楽科で融合授業を実施した。また、夏休み前にも同じ俳句サークルの方に俳句作りのコツを教わった。このように地域で行われている学習と学校の学習を融合させ、子どもと大人が共に学ぶ取り組みを今後も模索していきたい。</li> <li>・3年間取り組んだ研究を通して地域と学校のネットワークが広がっている。このネットワークと研究を進めるにあたり組織した推進体制を生かし、研究で生まれた実践をさらに発展・進化させることで、学校・公民館が地域の交流拠点となり、より一層一体感が生まれる活動にしていきたいと考える。</li> </ul>		

学社融合活動実施報告

学校名	田辺第二小学校	公民館名	東部・南部公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>本校の校区には、東部公民館と南部公民館の2つの公民館が設置されており、それぞれの施設で公民館活動が行われている。学社融合における本校とのつながりは、第2・4土曜日に実施している「いけばな子ども教室」や公民館の文化展に子どもたちの作品を出品するなど多くの活動を通して連携を進めている。</p> <p>さらに、子ども会の活動も盛んで、ソフト・キックボール大会、市・郡主催のドッジボール大会、市内バスピン大会等に積極的に参加している。</p>			
地震・津波避難訓練		学年・教科・領域等	学校行事
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校で授業中に地震があった場合を想定し、その時はどうしたらいいのかを考え、適切な行動ができるようにする。</li> <li>・地震発生の後、大津波警報が発令されたことを想定し、二次避難を安全かつ適切に実施できるようにする。</li> </ul>	
	公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域にある学校として、学校の避難計画や避難経路等を地域としても把握しておくようにする。</li> <li>・子どもが避難訓練を行うことで、子どもから親への家庭での防災意識の向上に繋げる。</li> </ul>	
支援者及び支援組織			
田辺第二小学校・田辺第二小学校育友会・公民館・交通指導員・田辺市消防本部・ファミリーヴィラ自治会・みどり保育所・あゆみ保育所・紀南幼稚園・立正幼稚園・東陽中学校・紀南看護専門学校・各町内会			
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)			
<p>○5月6日(金) 校区内の教育施設(保育所・幼稚園・小学校・中学校・看護専門学校)と合同避難訓練についての第1回打合せ会議を実施。</p> <p>○5月20日(金) 合同避難訓練についての第2回打合せ会議を実施。</p> <p>○6月8日(水) 第1回合同避難訓練の実施。 【潮岬沖を震源地とする震度6強の地震の発生と和歌山県沿岸部に大津波警報が発令されたと想定】 午前9時30分:緊急放送で机の下に待機後、運動場へ避難 午前9時45分:ファミリー・ヴィラ自治会の広場へ避難開始 午前9時55分:避難場所に全員到着(安全確保)</p> <p>○7月4日(月) 第1回合同避難訓練の反省会の実施。</p> <p>○10月7日(金) ファミリー・ヴィラ自治会と避難場所の使用に関する協定を結ぶ。</p> <p>○12月9日(金) 第2回地震・大津波避難訓練の実施。</p> <p>○2月10日(金) 第3回地震・火災・大津波避難訓練として校区内の11町内会合同防災訓練「大津波避難訓練」に参加。</p>			
			
			

	成 果	課 題
学 校	東日本大震災の教訓から、第二小学校区も津波による被害を受けると想定される。そのため、地域全体の防災意識を高めるために、校区内の教育施設が連携し、公民館や地域の自治会等の協力を得て、同じ日に合同で避難訓練を行った。その結果、津波が起こった場合、すぐに高台に避難しなければならないという危機管理の徹底と防災意識の向上に繋がった。	・今後も継続して、避難訓練を実施していく必要がある。 ・実際に大地震が発生し避難する際、想定している避難経路が通れない場合も考えられる為、複数の避難経路を検討・想定しておく必要がある。
* 子どもにとって	避難訓練を実施することで、大きな地震が発生し、大津波警報が発令されたときは、高台に避難しなければならないという子どもの防災意識の向上に繋がった。	学校が休みで外で遊んでいた場合、自ら高台へ避難できるかどうか心配である。その為にも、子ども用の校区の避難マップなどを作成し、一番近い場所に避難できるよう指導していく必要がある。
* 子どもにとって	地域住民が訓練の様子を見守ることで、子どもたちにも緊張感が生まれ、真剣に避難訓練に取り組むことができた。	地域で実施されている防災訓練に、子どもたちの参加がないため、学校の授業だけでなく、放課後や休日にも子ども自身が対応できるような防災意識の向上が必要である。
地 域 (公民館)	・学校の外へ出る避難訓練である為、地域住民が訓練の様子を見守ることで、道中の危険性が回避され、スムーズに避難訓練を実施できた。 ・地域の防災意識に繋がった。	・地域の防災訓練での子育て世代の参加率から、家庭の防災意識が全体に低いように思われる。今回の取り組みをきっかけに、保護者も巻き込んだ取り組みへと発展させ、学校・家庭・地域の三者が連携することで、各世代の防災意識を高め、地域の防災力向上に繋げていく必要がある。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

・一つの教育施設が単独で避難訓練を行ったのではなく、校区の教育施設が連携・協力し、同じ日に合同の避難訓練を実施できたことは、非常に意義深いものであったと考える。また、本校が避難場所として定めているファミリー・ヴィラ自治会と避難場所の使用協定を結び、いつでも避難場所として活用できるようになったことは大きな成果と言える。

・今後も継続して実施し、必ず年3回(学期に一回)実施できるよう努めていきたい。

・次年度に向けては、周辺の町内会とも協力し、一緒に避難訓練を実施していけるようにしていきたい。

・次年度は、避難経路を工夫しながら、子どもたちが自分の命を守る意識をさらに高めていく必要がある。



学社融合活動実施報告

学校名	田辺第三小学校	公民館名	西部公民館
-----	---------	------	-------

学社融合における学校・地域の様子  
 ○本校は、西部センターや天神児童館と共同・連携しながら、各種事業や行事を行っている。地域社会の中で児童を育成していく事が本校にとっての大きな課題であり、学社融合及び西部地域共育コミュニティ本部事業(学校支援地域本部事業)の取り組みをその課題の中心に位置づけている。  
 ○本校は、地域とともに同和教育、人権教育に取り組み、続けて、西部センターとは「天神町の教育を進める会」で、天神児童館とは「西部子どもエンパワーメント支援事業」などで連携し行動してきた。西部公民館とは、昨年より公民館と学校を結ぶ事業や取り組みについて協議し、昨年度からは特に西部公民館主催で本校での「西部公民館・明洋中学校作品展コーナー」を実施してきた。本年度は、加えて西部地域共育コミュニティ本部事業に関わった取り組みが始まっている。

活動	西部地域共育コミュニティ本部事業から「防災学習」への取り組み	学年・教科・領域等	主に6年生・総合的な学習の時間
----	--------------------------------	-----------	-----------------

目標	学校	○自分の命を守るために、地震や津波についてどの様に対応するかに気づく。また、マップづくりを通して、実際に避難経路を選択したり、注意するところを見つける。 ○地域防災にくわしい方々の意見を聞いたり、地域の防災活動に参加したりすることで、地域の方々との繋がりを強化し、公民館との連携を強化する。
	公民館(地域)・地	○子どもたちに助言をしたり、子どものポスターセッションを聞いたりする事で、地域の方々と子どもたちが交流する機会やつながりを強化することができ、コミュニティ活動の活性化を図る。

支援者及び支援組織  
 西部公民館および西部地域自主防災協議会

取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)

月(月日)	取り組み(活動内容及びめあて)
5月8日	阿倍野防災センター 見学
8月28日	田辺市防災訓練に参加する。6年女子「炊き出し体験」
9月	総合的な学習「ぼく・わたしの家の防災計画」始まる。
10月4日	自分の家から避難場所までの経路をたどり、危険箇所を見つける。
10月13日	社会見学(和大大防災研究教育センター・稲むらの火の館)
11月8日	前田重美さん(西部地区自主防災連絡協議会委員長)の話(昭和の南海地震について)を聞き、防災マップを見てもらう。
11月12日	学校開放週間で、防災マップを保護者にポスターセッションで聞いていただく。
1月17日	森川輝彦さん(西部地区自主防災連絡協議会副委員長)の話を聞き、防災倉庫を見せていただく。
1月26日	育成会講演会「防災学習会」で、ポスターセッションをする。
3月	紀伊民報に「田辺第三小 防災新聞」を掲載。(予定)



8月  
田辺市防災訓練への参加



11月  
前田重美さんに防災マップの不備な部分を教えていただく。



10月  
防災マップを作るために避難経路をたどる



1月  
全校参観日で防災学習のポスターセッションをおこなう。

	成 果	課 題
学 校	自分の住む地域から避難場所までの経路の安全性を調べることで、防災学習を自分の問題と捉え、生きた防災学習となってきた。また、自分たちのつくった防災マップを保護者や地域の方々に説明することで、子どもたちのコミュニケーション能力を高める学習ともなり、改めて保護者や地域の方々が、防災について見つめ直す機会を提供できたと考える。	マップ作りのための校外活動にも時間的に制限があるため、グループでの活動はできても、各個人の活動にはなっていない。(それぞれの児童の避難経路の安全性を調べる方がより良い。)また、防災マップのポスターセッションについても、広報活動を大規模にすることで、より多くの方々に聞いていただく機会を作っていきたい。
* 子どもにとって	子どもたちは、地域の方々に教えてもらったり、一緒に活動したりすることで、地域の防災活動にも関心を持って取り組めるようになってきた。また、自分たちの活動が地域の方々の役に立っているという実感を得ることが、自信と誇りにつながっている。	地域の方々に感謝する心や、この取り組みが自分たちの命を守るためのものであると実感させたい。
* 子どもにとって	・この防災に関する学習を通して、子どもたちが、地域の方々とふれあい、交流を持つことができた。また、今後来るであろう、東海・東南海・南海地震の発生時に必ず、役立つものと思われる。	・地域の催しは勿論のこと、防災訓練にも積極的に参加し、故郷の一員であるという自覚をもってもらいたい。
地 域 (公民館)	○昨年度は、東日本大震災や台風12号といった災害があり、当地方にも甚大な被害があった。子どもたちも自分たちの住んでいる西部地域の危険箇所や避難場所がどこにあるのか、どのように逃げればよいか。地域の方々にご意見を聞きながら、自分たちの足で町歩きをし、防災マップ作りに取り組んだ。また、地域と学校が連携を図り、西部地域の地震、津波を想定した防災訓練も実施した。	・沿岸部の多い西部地域は、今後の災害に備え防災に対する意識をもたなければならない。しかし、防災訓練の参加者は、30歳から50歳の方々の防災意識が薄いことから、今後は、こういった方々を勢力的に巻き込むかたちで、取り組みを進めて行かなければならない。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

○本年度から「西部地域共育コミュニティ本部」の1つの事業として防災学習を充実させてきた。6年生が、総合的な学習で「自分の命は自分で守る」を意識し、自分の家からの避難経路に焦点を当てた学習は、子どもたちにとって身近で現実的な防災学習であるため進んで取り組むことができた。また、ポスターセッションをすることで、自分の得た知識をより深いものにできたこととともに、地域の方々に防災について考えるきっかけを作ることになったことも意義があった。田辺市防災訓練に参加して、地域の方々といっしょに「炊き出し」をした経験は、子どもたちが、地域社会の中で役に立つ存在であるという自己有用感を感じ取る契機となった。また、地域の方々と共助の精神で活動できたことから自分たちも地域住民であるという一体感も感じ取ったものと思われる。

○次年度は、今年度の防災マップ(避難経路地図)の学習をふまえて、現5年生が6年生の学習を引き継ぎ「防災マップ」の質の向上を図る。また、防災訓練については、西部地区13町内会長及び西部地区自主防災連絡協議会の提案により、今後毎年防災訓練を行うこととなった。小学校もその一員として、地域で期待される役割を果たしていくために、防災・減災学習を深めていく。

学社融合活動実施報告

学校名	芳養小学校	公民館名	芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>本校では、「芳養共育コミュニティー本部」を学社融合の基盤とし、学校と地域とが結びついた様々な活動に取り組むことで、地域の活性化や伝統文化の継承、子どもの健全育成を図っている。地域の方々がSP（スクールパートナー）として授業に参画してくれることで、「地域の教育力を生かした授業」にも積極的に取り組んでいる。地域の方々の専門的な指導により、子どもたちは、より確かな知識や実践力を得ることができている。また、地域の大人との出会いや、多くの感動的体験も味わうことができている。学校と公民館が協力して進めている、学社融合活動の取り組みに対しても大変協力的で、常に学校を見守ってくれている。</p>			
地域・教育	芳養の産業大調査	学年・教科・領域等	5年生 社会、総合的な学習、家庭、国語
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の産業について学び、地域の人々の思いや願いを理解する。</li> <li>・地域の教育力を生かし、体験的活動を積極的に行う。</li> </ul>	
	公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方々に学校や子どもたちの様子を知ってもらうことで、今後の地域づくりに生かしてもらう。</li> <li>・子どもたちと交流しつながりを作ることで、学校外においても地域と子どもたちが交流できるようになる。</li> </ul>	
支援者及び支援組織			
保護者、地域の方々、公民館、田辺市産業部水産課			
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)			
4月25日	「田植え体験」の依頼と打ち合わせをする。		
5月23日	<p>「田植え体験」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の農家(保護者)の方に田植をさせてもらい、お米がどのように作られているのかを実際に体験させてもらう。</li> </ul>		
9月2日	「稲刈り体験」の依頼と打ち合わせをする。		
9月5日	<p>「水産体験教室及び稚魚放流体験」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・稚魚の放流体験を通して、水産資源の保全活動について学習する。</li> </ul>		
9月12日	<p>「稲刈り体験」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の農家(保護者)の方に稲刈りの体験をさせてもらい、収穫の喜びを味わわせる。</li> </ul>		
11月22日	<p>「ご飯を炊こう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちが収穫した「芳養米」でご飯を炊こう。</li> </ul>		
2月頃	<p>「自分たちにできることを考え、伝えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・芳養の産業について、地域の方々(スクールパートナー)に質問をしたり、解説してもらったりする。</li> </ul>		

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方々の専門的な指導により、芳養の産業の様子や工夫・苦労などが、子どもたちにより一層伝わった。</li> <li>・地域の方々と交流することができ、お互いによく知る機会になった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・田植え、稲刈り、稚魚放流体験などは、時期的なことや日程の調整が難しい。また、天候にも左右されるため計画通りに実施できないことがある。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな体験を通して知識や経験が広がり、考えを深めることができた。</li> <li>・地域の方々の仕事に対する思いや苦労を知ることができた。</li> <li>・地域を知る視野が広がった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの興味関心が広がり、地域の方々に教えてもらった専門的な知識や情報をすべて理解することが難しい。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの地域でどのような仕事があるのか、また、地域の人や自分と関わりのある人たちがどのような仕事をしているのかを知ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一部だけの体験では、子どもたちも分からないことが多いため、作業を一通り体験をさせたいが、そのための時間がとり難い。</li> </ul>
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業や水産業の学習を通じ、子どもたちが地域の方々と交流したことで、よりつながりが強くなった。</li> <li>・衰退していく農業、水産業を次世代の担い手でもある子どもたちに知ってもらうことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と子どもたちのつながりを強化する、また、後継者育成の足掛かりにするためにも、今後10年、20年先も継続して続けていくことが必要。</li> </ul>

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

- ・地域の産業について学習や体験などをする事により、地元の産業の様子がよくわかり理解を深めることができた。
- ・保護者や地域の方々に、SP(スクールパートナー)として授業に参画してもらい話を聞くことで、子どもたちが持つ疑問を解決することができた。また、今の自分たちができることについて考えるよい機会にもなった。
- ・「地域の教育力を生かした授業」で育まれた、地域の方々と子どもたちとのつながりを継続して取り組み、更に新たな取り組みを進めていきたい。



学校名	大坊小学校		公民館名	芳養公民館	
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校区内には文化施設や商店はなく、学校は地域の文化・教育・厚生のための唯一の場所であり、地域住民のセンター的役割を果たしている。そのため、地域住民は学校への愛着も強く、学校行事等の児童活動にあたっては、全地区あげての協力体制が得られている。</li> <li>・地域の人々には、地域に伝わる文化や習わしを受け継いでもらいたいという思いが強く、子ども達が地域行事に参加することを大変喜んでくれる</li> </ul>					
活動名	ふるさと学習1. 2. 3		学年・教科・領域等	全学年の児童 生活科・総合的な学習の時間・特別活動	
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・祇園神社や大坊の歴史、地域に伝わる文化を学び、ふるさとを愛する心を育てる。</li> <li>・地域の人々と共に活動し、交流する中で、先人の努力や知恵を知ると共に敬愛する心を育てる。</li> </ul>			
	公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒と地域が交流を深めることで、繋がりを強化し、については、地域の行事に積極的に参加したいという気持ちを育む。</li> <li>・地域の伝統的な行事を生徒達に伝えることにより、その歴史・文化を次世代へと受け継いでいく。</li> </ul>			
<p>支援者及び支援組織</p> <p>白楽会(大坊・団栗 老人会) 大坊小育友会</p>					
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p><b>ふるさと学習1(祇園神社)</b> (ねらい)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・祇園神社の歴史やそこに伝わる踊りを学び踊れるようにする。</li> <li>・お祭りに備え、地域の人々と共に地域に役立つよう清掃活動をする。</li> </ul> <p>(活動内容)</p> <p>6/2 踊りの伝承者(松下氏)と打ち合わせ 7/1 踊りを地域の方から学ぶ 7/7 祇園神社祭りに参加(課外) 7/12 祇園神社清掃 7/14 祇園神社で踊りの奉納に参加(課外)</p> <p><b>ふるさと学習2(しめなわ作り)</b> (ねらい)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・しめ縄作りを教えてもらいながら、白楽会の方々と交流を深める。</li> </ul> <p>(活動内容)</p> <p>11/8 しめ縄作りを学び、お年寄りとの交流を深める。</p> <p><b>ふるさと学習3(学校の歴史を学ぼう)</b> (ねらい)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大坊小学校の歴史を学び、地域の人々の学校を愛する気持ちに触れ、学校や郷土を愛する心を育てる。</li> </ul> <p>12/1 育友会を中心に世代別に講師をお願いできるよう相談する。 2/3 子どもの頃のお話を聞く形で、大坊小学校の歴史について学ぶ。</p>					
<p>留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・白楽会の方と連絡を取り合い、事前の準備をする。</li> <li>・ふるさと学習1では、地域行事と合うように日程を調整する。</li> <li>・校外での活動では児童の安全に特に気をつける。</li> </ul>					



	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・祇園神社に伝わる踊りを学ぶ場を学校で作ることにより、少しではあるが文化継承の一役を担えている。また、保護者にも呼びかけることで、子どもと一緒に踊りを学ぶ場になり、地域内での踊り手を増やす事につながっている。</li> <li>・1年に1回ではあるが、しめ縄作りをすることで、高学年は縄をなう事ができるようになってきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の高齢化が進んでいるので、歌い手、踊り手の講師をしてくださる方がこれまで通りいるかやや不安がある。</li> <li>・しめ縄作りでは、縄をなうことだけに夢中になって、しめ縄を作ることから、やや離れた児童がいた。交流を大切にしながらも、めあてをもっと意識させ取り組ませるように事前の打ち合わせで地域の方にも理解してもらっておく。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと学習として位置づけることで、「踊り」「しめ縄作り」とも高学年になるにつれ身につけ、地域の一員として役割が担えるように育っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・育友会の方々だけでなく、地域のお年寄りとも関わりを深め、高齢者の方に対する畏敬の念を深める機会にしていきたい。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最近ではなかなか触れあう機会の少ない、地元の文化に触れあうことができ、地域への関心が強まった。また、同時に大坊の歴史も感じる事ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校外でも、地域と一体となっていくよう、より深く、より親しくかかわっていけるようにしたい。</li> <li>・児童たちが学んだことを、今後、どう生かしていくべきなのか考えるよう支援する必要がある。</li> </ul>
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在問題となっている後継者不足の課題解決の足掛かりとなった。</li> <li>・授業に参加することで、今の子ども達の状況が分かり、子ども達・学校との繋がりが、より強くなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、より多くの子ども達に歴史、文化を伝えるためにも、地域の若者にも伝え、後継者の育成に努めていきたい。</li> <li>・ただ歴史や文化を伝えて交流するだけでなく、毎回、事前に内容等の打ち合わせをより密にして、授業のねらいを共通理解できるようにする。</li> </ul>

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

《評価》

- ・「祇園祭に関する取り組み」と「しめ縄作り」はここ数年同じ取り組みを行っているが、くり返すことで児童の興味が深まり、技術は向上している。
- ・ふるさと学習を積み上げていくことで、地域を知り、地域を愛する心が育っている。

《次年度に向けての方向性》

- ・ふるさと学習1. 2については、繰り返し取り組むことに意義があるので、今後も同様に続けていく。その際、講師として参加していただける方を確保できるよう、つながりを大切にしていく。
- ・ふるさと学習3については、内容を柔軟に考え、産業(みかん作り)を取り上げたり学校の歴史を取り上げたりしながら、児童の心に残り郷土愛につながるような取り組みを工夫していきたい。

学社融合活動実施報告

学校名	新庄小学校	公民館名	新庄公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>新庄小学校では、「地域と連携し、地域を知り、地域を学び、地域を愛する児童を育成すること」を目標に、農業、伝統的な祭りや行事、福祉、地震や津波等について学習する機会を設け取り組んでいる。</p> <p>新庄地域は、県指定無形民族文化財の祇園祭の夜見世を始めとする伝統的な行事も多く、地域の方々各種団体の方々も学校教育活動にたいへん協力的である。</p> <p>また、新庄公民館・新庄幼・新庄小・新庄二小・新庄中の担当者が定期的に集まり情報交換をしている。そこで、年に一度当番校が公開授業を行う合同研修会を開催し、全職員が共に研修をしている。</p>			
活動名	福祉体験学習	学年・教科・領域等	2年学校行事 3・4・5・6年総合的な学習の時間
目標	学校	福祉に関する調べ学習・体験学習を通して、障害者や高齢者に対する理解を深めると共に、地域の様子を知り、地域の一員としての自覚を持った、心豊かな子どもを育てる。	
	公民館 (地域)	公民館教室やサークル参加者をはじめとし、地域の方々を学校教育活動の講師等に派遣するといった形で地域の教育力を生かし、同時に学校へ足を運んでもらう機会をつくり学校での子ども達の様子を知ってもらう。また、子ども達が現地に赴くことで学校での取り組みのようすを見聞きし、学校や地域の様子に改めて関心を持ってもらい、地域づくりに生かしてもらう。	
支援者及び支援組織			
地域の方々 新庄地区老人会 真寿会 ふたば福祉会 南紀のぞみ会 社会福祉協議会			
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)			
<p>2年2学期&lt;運動会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 運動会の玉入れを、おじいちゃんおばあちゃんといっしょにする。</li> </ul> <p>3年2学期&lt;『新庄ウオッチング(2)』～地域の公共施設を探ろう～&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 新庄地区には、様々な公共施設があることを知り、体験を中心とした活動を通して自分たちの住む新庄地区を理解する。</li> <li>・真寿苑を訪問し、出し物を披露したり、ゲームをしたりしてお年寄りと交流する。</li> </ul> <p>3年3学期&lt;『昔へタイムスリップ』&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 昔の生活の仕方を調べ、今の生活と比べる。</li> <li>* おじいちゃんやおばあちゃんから話を聞いたり、交流したりする中で、思いやりやいたわりの心を育てる。</li> <li>・お年寄りや地域の人々に、むかしの生活や遊びについてのお話を聞いてまとめる。</li> </ul> <p>4年2学期&lt;『バリアフリーな社会をめざして』～視覚聴覚障害者理解～&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* アイマスク体験、無音体験や障害を持つ人たちから話を聞いたりすることによって、障害者の気持ちを理解し、バリアフリーな社会に向けて自分たちにできることを考える。</li> <li>・自分たちができるバリアフリーや、地域のバリアフリーについて話し合う。</li> </ul> <p>5年2学期&lt;『ともに生きる』～肢体不自由者理解～&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 障害者の方の気持ちや思いを理解し、バリアフリーな社会が大切であることに気付く。</li> <li>* 自分なりのバリアフリーが実践できる。</li> <li>・車椅子体験をして、自分たちにできることを考える。</li> </ul> <p>6年2学期&lt;『ともに生きる』～高齢者・障害者とともに～&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 高齢者が今まで社会に貢献してきたことに対し尊敬や感謝の気持ちを持ち、温かい心で接する態度を養う。</li> <li>* 知的障害者に対する理解を深め、温かい心で接する態度を養う。</li> <li>* 福祉施設を訪問し、利用している人、介護している人のことを理解し、ともに生きるということについて考える。</li> <li>・社会福祉施設を訪問し、交流から自分たちにできることを考え実践する。</li> </ul> <p>6年2学期&lt;新庄地区敬老会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 敬老会に参加し、歌や演奏を披露することにより、お年寄りと交流する。</li> </ul>			

	成 果	課 題
学 校	<p>学校や子どものことを知ってもらうことにより、「地域の学校」ということが広がってきた。</p> <p>教室だけでは教えられないことを学ばせることができた。</p> <p>地域の方に、福祉体験等の依頼をしたり共に活動したりする中で、地域の人々との距離が近くなり、話もしやすくなってきた。</p>	<p>児童が地域の役に立つようなものや、学校の教育力を地域に生かすことのできるような活動を取り入れ、地域の人に教えてもらう、地域に出かけて体験するというようなことばかりにならないようにする。</p>
* 子どもにとって	<p>地域へ出向き、地域の人に教えてもらうことにより、地域のことを知ることができた。</p> <p>いろいろな体験を通して知識や経験が広がり、福祉のことや地域のことを学習し、考えることができた。</p>	<p>児童は意欲的に活動しているが、積極的にならない児童も見られ、個人差が見られる。しかし、そのような児童にこそ必要な活動である。</p>
* 子どもにとって	<p>・現場・現地に赴き、直にその場の環境(人・モノ)に接することでより多くの刺激を受けたことと思う。</p>	<p>・現地に赴くことが目的となってしまうことがあるのではないだろうか。</p>
地 域 (公民館)	<p>・子ども達が参加することで、受け入れ側の意識も変化し、子育て世代では勿論、子育て終了世代に於いても学校のことがなにかと話題になるようである。</p>	<p>・受け入れ側の姿勢・体制に斑は無いただろうか。またそのことで子どもたちに与える印象も異なると考えられるので、受け入れ側が必要以上に気負っている事が無いかや受け入れ自体が負担になっていないかなどの検証が必要。</p>

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

評価

- ・福祉に関する体験や、地域のお年寄りの話を聞くことにより、理解を深めることができた。
- ・地域の人と接することにより、自分たちの暮らす地域のことがわかり、地域を想う心を育てる一助となった。
- ・総合的な学習に位置づけ、活動を継続していることから、系統立った取り組みができています。
- ・協力してくれた地域の方は、子ども達と接することを楽しみにしてくれている。

次年度に向けて

- ・新学習指導要領での1年目を終えたことから、年間計画の点検を行い、さらに充実した活動になるようにする。
- ・学校の特長を生かして、児童が地域の役に立つような活動を考える。
- ・花植えや昔の道具の使い方の指導など、少しの活動でも手伝っていただけるような取り組みをしたい。



学校名		田辺市立新庄第二小学校	公民館名	新庄公民館
学社融合における学校・地域の様子 本校は、他地域から移住してきた世帯が多く、昔からこの地域に住んでいる世帯が少ない地域である。また、移住してきた世帯は比較的若い世代が多く、昔からの世帯は年齢層が高い。また、感覚の違いはあるが、学校に対する関心はたいへん高いように感じる。保護者の構成はほとんどが他地域からの世帯であるが、一方、新二祭り(文化祭)やサークル活動などでは、昔からこの地域に住んでいる方が担っている実態がある。 しかし、昨年度の獅子舞の取り組みのように、機会があれば保護者層の世代の方も、地域の方と共に参画できる雰囲気はある。したがって、地域・家庭が共に子どもを育てることに参画できる仕組みを作ることが本校の学社融合のニーズであると感じる。				
活動名		学校図書館サロン		学年・教科・領域等
目標	学校・地域	学校に向けては学力形成につながることで、家庭に向けては保護者同士のつながり作りになること、地域に向けては生きがい作りになることを共同で企画し、実行していく。		
		趣旨のイメージについては、下図の通り。		
支援者及び支援組織 地域の方、読み聞かせボランティア、保護者、市立図書館、公民館				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
<p>(ねらい)          本校では本年度、学社融合の拠点として「学校図書室」をサロン化し、地域や保護者に開放する。          そして、そこに集まる人々と、学校からは地域連携担当、社会教育からは地域共育コーディネーターを合わせ、コミュニティを組織する。          そのコミュニティが、学校に向けては学力形成につながることで、家庭に向けては保護者同士のつながり作りになること、地域に向けては生きがい作りになることを、共同で企画し、実行していく。</p> <p>(経過)          5月 (学校) 昨年度まで学校で行っていた、読み聞かせボランティアの代表者と図書館サロンの趣旨、展望について打ち合わせた。          (地域) 読み聞かせボランティアが8名で再スタート。          (地域) 学校図書館サロン構想実現を目指して、図書室の環境整備に取りかかる。          (学地) 市立図書館の仲司書を講師に招き、本の補修・読み聞かせ講習会を開催する。          6月 (地域) 図書室の清掃と整備について検討          読書環境を整える意味でも、まずは清掃から始めることにする。          夏の全校奉仕作業時に図書室も清掃箇所に入れてもらうように育友会に申し入れる。          (学校) 第1回 ボランティア連携会議(校長・図書担当・地域連携担当・ボランティア2名)          学校とボランティアで行うことの範囲を確認。          8月 (学校) 夏の全校奉仕作業(図書ボランティア4名を含め9名が担当で清掃)          10月(学校) 図書室整備ボランティア募集の案内を学校から配布。          (公民館) 学校図書館サロンに定期的に参加し、公民館との連携も探ることにした。          (地域) 図書室整備ボランティアグループができる。          12月(地域) 読み聞かせボランティアに合わせて、整備ボランティアが年末まで週1回の活動を行う。</p>				
		<p>The diagram illustrates the 'School Library Salon' as a central hub for school-community integration. At the center is a circle labeled '学校図書館サロン' (School Library Salon) with the text '学社融合の拠点としての' (As a hub for school-community integration) and 'ここに来れば何かが生まれる そんな期待感のある居場所' (A place where something is born when you come here, a place with such expectations). Three arrows point outwards from the center: one upwards to '学校' (School) labeled '学力形成' (Learning formation), one to the right to '家庭' (Family) labeled 'つながり作り' (Building connections), and one to the left to '地域' (Community) labeled '生きがい作り' (Creating a sense of purpose).</p>		

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書室の環境がとても整った。これは、学校だけでは実現できなかったことである。</li> <li>・学校に足を運んでくれる保護者も増えたので、学校活動に対する理解も高まっている。</li> <li>・調理実習の授業等で、保護者やボランティアの方をお願いして、手伝ってもらうこともあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書室の環境が整ったので、次は、そこに読み聞かせや整備だけでなく、他のボランティアをしている方も集まることができるような仕組みを考えたい。</li> <li>・また、このサロンから発展的に、児童の学習支援を行うようなグループができるようにするために、もう少し定期的に運営会議のようなものを開催できればと思う。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館の環境が整い、昼休みに図書室を利用する児童が増えた。</li> <li>・国語で学習したことを生かし、本の紹介POPを図書室に掲示した学年もあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童とボランティアが共同して、授業を進めるような活動を行ってみたい。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアが勧めた本を手にとって読んでいる児童がいるなど、コミュニケーションの機会が増えている。</li> <li>・顔見知りの方が増えることで、校外での安全に多少なりとも寄与しているのではないだろうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような人がボランティアに参加してくれているか、知って欲しい。</li> </ul>
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加しているボランティアそれぞれの持ち味(得意分野)を生かし作業を進め、図書室の環境整備が整ってきた。</li> <li>・手作りの本立て、本の紹介POPなど、自宅で作成して持ち寄るなど、取り組みに盛り上がりが見られる。</li> <li>・参加者同士が楽しみながら、作業を進めることができ、会話も弾んでいるようである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館サロンを、もっと多くの方に関わってもらうようにしていきたい。</li> <li>・このサロンを核とした新たなグループの取り組みを始められるようにしたい。</li> </ul>

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

・学校図書館サロンによって、図書室に集まるボランティアの輪が徐々に広がっていることから、まずは家庭(保護者)のつながり作りの場ができたといえるだろう。また、調理実習等の手伝いや、本の紹介POPなど、保護者と児童のつながりもそれに派生してできたところもあるようだ。

・これらのことから、本年度は、サロンを通じた組織作りができたといえる一年であった。

・次年度に向けて、この組織をもとにして、学力形成、生きがい作り、つながり作りになるような、さまざまな事業が生まれてくることを期待したい。

学社融合活動実施報告

学校名	稲成小学校	公民館名	稲成公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の諸団体で実行委員会を組織し、子どもたちの居場所作りとして、稲成ふれあいスクールを定期的に開催している。その中で、地域の方々を講師としてお招きし、スポーツ活動(卓球・グラウンドゴルフ等)や文化活動(将棋・料理等)を行っている。</li> <li>・学校は、地域の農業従事者の指導のもと、総合的な学習の一環として、野菜作り・梅取り・米作りなどを行っている。</li> <li>・グラウンドゴルフや清掃活動を通し、地域の老人会と児童との交流を行っている。</li> <li>・公民館のコーディネートのもと、地域の方々に指導者として、絵画や書道、伝統文化の学習を深めている。</li> <li>・地域の諸団体・公民館・学校の連携のもと、町民運動会やふれあい文化祭などの行事を行っている。</li> <li>・地域の方を講師としたクラブ活動を展開している。(合気道クラブ・伝統文化クラブ)</li> </ul>			
活動名	稲成・むつみふれあい文化祭	学年・教科・領域等	全学年(生活科・総合的な学習・児童会・学校行事)
学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方々に学校にお越し頂くことで、学校での子どもの様子を知って頂くとともに、子どもたちと地域の方々とのふれあいを深める。</li> <li>・郷土の文化・伝統にふれ、ふるさとを愛する心を育てるとともに、それらを継承し、守っていかうとする態度を育てる。</li> </ul>		
公民館(地域)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会の中で、地域住民と子どもたちの交流を深めることにより、コミュニティー活動の活性化を図る。</li> </ul>		
<p><b>支援者及び支援組織</b></p> <p>稲成公民館、稲成町内会、むつみ町内会、愛郷会、小学校、小学校PTA・子ども会、保育所、老人会、消防分団、青年グループ、市議会議員、地域住民</p>			
<p><b>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</b></p> <p>○平成23年10月20日 第3回運営協力委員会          内容:運営要項・趣旨説明・予算(案)・役割分担          その他、駐車場、一般作品、唄と踊りの祭典に係る各部役割の決定、準備物、当日までのスケジュール、チラシ(案)          ※文化祭の全ての行事を体育館で行うことに決定。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・唄と踊りの祭典出演者募集(締め切り日10月27日)</li> <li>・一般作品募集 (締め切り日10月27日)</li> </ul>		<p>&lt;生活科・総合的な学習での学習活動の流れ&gt;          ~4月より~</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1・2年生 キッズソーランの練習 法被の作成</li> <li>2年生 さつまいも作り</li> <li>3年生 野菜作り 梅取り</li> <li>4年生 リサイクル活動 環境学習</li> <li>5年生 荒光の獅子舞の実演</li> <li>6年生 福祉体験学習</li> </ul>	
<p><b>平成23年度 稲成・むつみふれあい文化祭</b></p>			
<p>○平成23年11月5日(土) (1日目)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般作品展(受付、作品搬入、展示、ラベル貼り) 午前9時~</li> <li>・唄と踊りの祭典 午後2時~</li> <li>・祭典終了後、おかしまき大会</li> </ul> <p>○平成24年3月中旬予定 第4回運営協力委員会          内容:決算報告及び反省と課題</p>		<p>○平成23年11月6日(日) (2日目)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表準備</li> <li>・開会</li> <li>・オープニングセレモニー(於:体育館)              高雄中学校吹奏楽部演奏</li> <li>・学習発表会</li> <li>・公開授業(各教室)</li> <li>・作品鑑賞(体育館)</li> <li>・閉会</li> </ul>	

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度初めて学校の日曜参観との合同開催であったが、保護者をはじめ多くの地域の方々に、子どもたちの学習の様子や成果を見て頂くことができた。</li> <li>・地域の方々に子どもたちの学習の成果を見て頂くことで、子どもたちの地域に対する愛情を、より育むことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな行事がある時だけでなく、普段からより多くの地域の方々に学校に来て頂けるような手立てをどのようにしていくか。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちが学んだことを、地域の方々に向けて発信できる良い場となった。</li> <li>・地域の伝統文化を学ぶことで、地域の方々の思いや願いを感じる事ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上学年から下学年への取り組みの継承。</li> <li>・地域の方々に育てられているという意識をもち、感謝の気持ちを忘れないようにする。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この文化祭を通して、子どもたちが、地域の方々とふれあい、交流を持つことで、地域住民と子どもの関係が、より深まった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で活動している住民や団体とのコミュニケーションをより一層深め、地域の催し(祭りや行事)に積極的に参加できるよう手立てをしていく。</li> </ul>
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館が主催する文化祭は、地域の行事として根付いている。本年度から、地域と学校が互いに歩み寄ったかたちで、地域の文化祭と学校の総合的な学習発表会を統合した。その結果、学校・家庭・地域住民の世代間交流が生まれ、学校への理解が深まるとともに関心が深まった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の中には、積極的に行事に参加してくれる人、参加してくれない人がいる。もう少し、多くの地域の方々を巻き込んだ活動となるようにしていかなければならない。</li> <li>・今後、この取り組みを地域に向けて発信することで、より多くの住民に関心をもってもらえるよう努める。</li> </ul>

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

本年度から公民館主催(稲成・むつみふれあい文化祭)と小学校学習発表会を共同に開催した。主会場で行われた、小学校体育館には、地域住民・小学生・中学生・保育園児の作品全てを展示し、来場していただいた方々の目に止まるよう工夫を凝らした。子どもたちも地域の人たちとの距離感が縮まり、今まで以上に触れ合うことができ、郷土を愛する心が育ったように思う。



学社融合活動実施報告

学校名		田辺東部小学校	公民館名	ひがし公民館
学社融合における学校・地域の様子				
趣旨 本校は平成7年度に敷地内にひがしコミュニティーセンターが併設されて以来、「開かれた学校」を目指し、公民館と協力して学社融合の取組を進めてきた。今年度も公民館と地域の4町内会及び学校・地域のボランティア団体が協力して、地域の祭り「ひがしふれあい秋祭り」を実施した。今年でこの祭りも第4回となり、祭りのあり方を見直し、継承・発展させていくことを再確認し、公民館が中心となり、4町内会が1つになって地域を盛り上げる祭りにしたいと考えた。祭りを企画・運営することで、地域の人々のつながりを深めながら、子どもたちを地域で育ていこうとする機運が高まる行事になることを願うものである。				
活動名		ひがしふれあい秋祭り	学年・教科・領域等	特別活動
目標	学校	「ひがしふれあい秋祭り」の実施、並びに低学年の生活科の「あきまつり」や中・高学年の日曜参観などを通して、地域の方々に学校の取組の一端を知ってもらうとともに、地域の多くの方々と触れ合う機会をつくることで、子どもたちに地域の一員としての自覚を育てる。		
	公民館（地域）	核家族化や高度情報化、価値観の多様化などが進み、地域への関心が薄れつつあるなか、4つの町内会と地域の各種団体、学校、公民館が合同で、年に1度、地域の方々が集う催しを開催することで、幅広い世代が知り合い触れ合えるきっかけをつくり、近隣住民の交流の促進を図ると共に、地域の連帯感を深めることを目標とする。		
支援者及び支援組織 ひがしふれあい秋祭り実行委員会（ひがし公民館・田辺東部小学校・朝日ヶ丘町内会・あけぼの町内会・新万町内会・南新万町内会・子どもクラブ・育友会・とうぶのおやじ会）				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
6月24日(金)平成23年度 ひがし公民館協力委員会		・事業経過報告・会計報告・事業計画・会計予算等について協議した。		
7月14日(木)第1回「ひがしふれあい秋祭り」実行委員会		・自己紹介・開催日時・内容の検討等を行った。		
9月8日(水)第2回「ひがしふれあい秋祭り」実行委員会		・開催日確認・ステージイベントの確認・予算について・体験コーナー等について検討。		
10月6日(木)第3回「ひがしふれあい秋祭り」実行委員会		・各催し物の確認(予算ほか)・準備物・当日の運営等の検討(人員・準備物の確認)		
11月12日(土)13日(日)・「ひがしふれあい秋祭り」開催		<p>・初日は、ひがしコミュニティーセンターにおいて文化作品展が開かれた。二日目は、午前中に田辺東部小学校低学年による生活科の「あきまつり」が開かれた。保護者を中心に出し物のよさこいキッズソーランのあと、お店屋さんやゲーム屋さんでにぎわった。午後からは、「女太鼓桂組」による和太鼓のオープニングから始まり、バルーンアートのショーや地域の皆さんや保護者・職員による出店やチャレンジゲームも行われた。午後2時から、コミュニティーセンター大集会室において大正琴や手話コーラス、東陽中学校合唱部のステージ発表が行われた。その後、サブグラウンドでは、近野獅子舞団による「野中の獅子舞」が披露された。続いて、「お楽しみ抽選会」、最後にお餅撒きが盛大に行われた。</p>		
12月6日(火)第4回「ひがしふれあい秋祭り」実行委員会		・各催し物についての反省・課題について、ステージ発表・各ブース・抽選会・餅投げなどについて、来年度へ向けて反省と課題を話し合った。		



	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大勢の地域の方々に学校へ来ていただき、職員も子どもも地域の方々と触れ合う機会を持つことができた。同時に、子どもたちにとっては、大人との接し方を学ぶ機会ともなった。</li> <li>・日曜日の午後の開始時間を30分あとにもらったので、児童が帰宅して再度登校する時間が確保できた。</li> <li>・職員は保護者にも物品提供を呼びかけてリサイクルバザーを行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方々と一緒に活動できる機会を増やしていくことで、子どもたちに、地域の一員としての自覚を高めるとともに、地域に見守られているという認識をより一層高めること。</li> <li>・調理しながら販売する出店の希望が強く求められてきており、授業との兼ね合いが課題となっている。学校としては、学校開放月間を念頭に置きながら、別の日に参観日を兼ねた行事の設定も検討していく。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低学年の秋祭りや中・高学年の日曜参観を地域や保護者の方々にも見てもらうことができた。</li> <li>・東陽中学校の合唱部の演奏を聞くことで先輩のがんばる姿を見ることにもなり、中学校への希望を与えられる機会となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の一員としての自覚を持ち、自分の行動に責任を持たせること。</li> <li>・合唱部などのステージを見る児童が少ないので、出店やブースの活動時間をあとにまわす等の工夫も必要である。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な形で地域の方々と触れ合う機会を持つことができた。</li> <li>・文化作品展では地域の方々の様々な作品を鑑賞するとともに、「いけばな子ども教室」や学校から児童の作品等も展示してもらえる機会となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方々に感謝し、素直で親しみを持った接し方ができるようにすること。</li> <li>・自分の食べたお菓子のごみは、ゴミ袋へ捨てて帰ること。</li> </ul>
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4つの町内会が合同で行事を行うことで、地域の連帯感を深めることができた。</li> <li>・公民館・学校・町内会・育友会・とうぶのおやじ会などの各種団体が4回の実行委員会をもって、それぞれができることを出し合い、協力して祭りを作り上げることで、地域活動を盛り上げ、子どもを育てていくという機運を高めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ひがしふれあい秋祭り」をきっかけとして、地域の人々が直接触れ合う機会を今後も模索していく必要がある。</li> <li>・今後も公民館・4町内会・学校が中心となって取組を継続させていくことが課題である。</li> </ul>
<p>評価及び次年度に向けての取り組みの方向</p> <p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館・学校・4つの町内会・ボランティア団体が協力して行事を行うことができたことが、まず評価できる。</li> <li>・公民館が中心となって運営することが定着してきて、4つの町内会も協力しやすい形ができたこと。</li> <li>・児童の保護者はもとより、校区内の4町内全戸に案内を配布するとともに、児童の絵をポスターにして地域に貼るなど、広報活動が充実したこと。</li> <li>・低学年のあきまつり、中・高学年の日曜参観、東陽中学校の合唱部や野中の獅子舞などのステージ、各種団体による出店(町内会・子どもクラブ・学校職員等)・抽選会や餅まきなどの多彩な内容で多くの来場者を迎えることができたこと。</li> </ul> <p>次年度に向けての取り組みの方向</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も継続して「ひがしふれあい秋祭り」などの学社融合の取り組みを行うために、公民館と学校が主体となって4町内会が協力する形をとっていくことが必要である。</li> <li>・校区内の参加できる団体を広く募集していく。</li> <li>・団体間の意思疎通を密にして、「ひがしふれあい秋祭り」のあり方を考えていくことも必要である。</li> <li>・今後、共育コミュニティの形成を目指す中で、地域コーディネーターの活用や人材バンクの新設、校報や館報での呼びかけ等、取り組みを工夫していく必要がある。</li> </ul>		

学社融合活動実施報告

学校名	会津小学校	公民館名	秋津・万呂公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子  「会津さわやかコンサート」や「麦の収穫体験」をはじめ、学校が保護者や校区協議会、公民館、NPO等地域の各種団体と密接な連携・協力体制を図りながら、様々な地域活動・学校教育活動を展開している。現在市内最多の児童が通学しており、校区協議会の登下校の見守り活動や、公民館での子ども向け教室などをはじめ、地域で子どもたちを見守る活動にも積極的に力が注がれている。</p>			
活動名	熊野古道－秋津・万呂－夢・あんどん祭り	学年・教科・領域等	全学年 図工・総合的な学習 等
目標	学校	「あんどん祭り」を通して地域活性化推進団体・公民館などの諸活動と学校教育との融合を深める。子どもたちに、地域行事への積極的な参加を促し、地域の一員としての自覚を育てる。	
	公民館	大人と子ども双方にまちづくり行事に積極的に参画してもらい、参加者相互の交流を通じて、地域社会の一員としての意識を高めてもらう。また秋津・万呂両地域間のつながりを深め、地域外からも広く多くの方に参加していただくことで地域活性化へと繋げる。	
<p>支援者及び支援組織  熊野古道－秋津・万呂－夢・あんどん祭り実行委員会(町内会、老人会、子ども会、小中学校など計11団体で構成)</p>			
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>◆夢あんどん祭りの開催 【 8月20日(土) 会場:紀菜柑、会津小学校 】  第4回目となった今回は紀菜柑、会津小学校の両会場と会津川の両岸に前年度までに作製したものと合わせ計1500余りの「あんどん」を並べ点灯しました。会津小グラウンドに「日本にえがお」という文字の形に並べられた約500のあんどんには「祈り」をテーマに様々なメッセージや絵が描かれており、先般の大災害を受けて、皆で慎んで復興へと祈る時間をつくるとともに、あんどんの灯り以外を消灯する時間を設け節電への喚起を行いました。紀菜柑会場では地元中高生によるグループはじめ地域の各種団体による出店、盆踊りも開催され地域内外からたくさんの来場をいただき盛況の中終了することができました。</p> <p>◆あんどん作り 【 7月25日(月)～8月4日(木) 会場:秋津公民館・万呂公民館 】  【 7月中の各クラス図工の授業 会場:会津小学校 】  7月より小学生を対象に参加者を募集し、秋津・万呂公民館を会場に計8日間にわたりあんどん作り教室を開催。両老人会のご協力もいただき、大人からの指導・補助のもと、子どもたちは木枠を組み立て約500個のあんどんを作りました。会津小学校では全校児童が参加して、授業の中で「祈り」のメッセージ・絵の作製に一人一人が取り組みました。</p> <p>◆実行委員会会議 【 7月7日(木)、8月5日(金) 会場:万呂公民館 】  町内会、公民館、学校、老人会、育友会、子ども会、会津スポーツクラブ、とんぼクラブなど両地域の各団体代表が集まって祭りの実施内容について協議・確認を行いました。</p> <p>◆市内各行事への参加 【扇ヶ浜の夕べ 8月10日(水)～14日(日) 会場:扇ヶ浜海水浴場 】  【八咫の火祭り 8月27(土) 会場:本宮町大高原 】  作製したあんどんは、「扇ヶ浜の夕べ」に約1000個、本宮「八咫の火祭り」にも約500個が並べられ、田辺市内のイベントを彩りました。今回は初めての試みとして、あんどん祭りの取組を地域外の方に広く知っていただくことができ、今後の様々な展開や発展に繋がるよいきっかけとなりました。</p>			

	成 果	課 題
学 校	児童があんどん作りに取り組み、出来上がった1つ1つのあんどんを並べ、今年は「祈り」をテーマにした作品を運動場に完成させることができた。祭り当日、子どもたちは、自分たち一人ひとりの作品に灯りが点り、全体で1つの大きな作品が出来上がっていることに感動し保護者や地域の方々と一緒に、満足気に見入っていた。地域の一員としての自覚を育てる上で、意義深いものとなった。	今後とも、さらに地域の特色を活かした学習課題を追求していきたい。また、公民館との連携に関しては諸活動の取り組みは不可欠で、地域の方々との協力体制構築の上で、連携体制をさらに推進・充実させていきたい。
* 子どもにとって	あんどん作りに取り組み、作品を完成させたことで、成就感を味わうことができた。また、作業過程で、多くの地域の方々と触れ合うことで、改めて、守り支えられて生活していることに気づくことができた。	家庭や地域での社会体験や自然体験、伝統文化に触れる機会をより多く持てる活動が、今後とも必要である。
* 子どもにとって	・自分が作ったあんどんが、市内の各行事に飾られたたくさんの人の目に触れることで、子どもたちのやりがいや達成感へとつながった。	・発表の場など、子どもたちが受動的ではなく主体的に参加できるような場所づくりを工夫していきたい。
地 域 (公民館)	・中高生グループの参画もあり、若い世代が地域活動へ参加してもらえるきっかけを作ることができた。 ・秋津・万呂地域から地域内外へ取り組みを大きく発信することができた。	・会場や予算の面などいつまで現行の形で実施できるかわからない中で、内容や実施体制を含め、今後どのような方向性で進めていくのか地域全体で考えていく必要がある。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

今回テーマを「祈り」に設定したことで、子どもにとっても行事全体にとっても1つ1つの持つ意味が大きくなったように思う。次年度以降も、ただ漠然と開催するのではなく、コンセプトをしっかりと設定し開催できるようにしたい。

また、今回は市内の行事にあんどんが並べられる機会があったが、今後も積極的な他事業との関わりの中で様々な展開や発展に繋げていけるようにしたい。



学社融合活動実施報告

学校名 上芳養小学校		公民館名 上芳養公民館	
学社融合における学校・地域の様子			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加、引率された保護者の方々に、事業の中身を見てもらい、学社融合の必要性、さらには地域ぐるみでの子育ての重要性を理解してもらう。</li> <li>・各種の行事を通じ、地域の方々に学校への関心をより高めてもらう。</li> </ul>			
活動名 体験教室		学年・教科・領域等 4・5・6年生の希望者(カヌー教室は4年生を除く)	
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域行事への積極的な参加をすることで校外生活の充実を図る。</li> <li>・体験活動や物づくりを通して、地域の方や子ども同士交流し社会性を育む。</li> </ul>	
	(公民館 地域館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習の成果活用を提供し、地域の教育力の活性化を図る。</li> <li>・学校と公民館の教育機能を十分に発揮し、様々な体験学習を展開することにより、地域の教育力向上を推進する。</li> </ul>	
支援者及び支援組織 上芳養小学校、上芳養公民館			
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初に小学校と公民館で協議し、今年度の体験教室を確定する。</li> <li>・小学校でのチラシ配付や、公民館報への記事掲載を通じて参加を呼びかける。</li> <li>・参加人数等が確定後、講師の方や関係機関と細かい打合せをおこなう。</li> </ul>			
乗馬体験教室		カヌー体験教室	
			
☆日時: 7月10日(日) 9時～12時 ☆場所: 印南町 ☆参加人数: 10名 ☆講師: 印南町ラグレース乗馬倶楽部 ☆内容: 乗馬教室の先生に手綱を引いてもらったの乗馬と、馬への餌やり		☆日時: 8月23日(火) 10時～14時30分 ☆場所: 三川合川ダム付近の「前の川」 ☆参加人数: 20名 ☆講師: 丸山誓子さん ☆内容: 川でのカヌー体験と、宝探しなどのレ	
焦がし絵体験教室			
			
☆日時: 12月26日(月) 9時～12時 ☆場所: 上芳養小学校図工室 ☆参加人数: 16名 ☆講師: 井本公民館長 ☆内容: 先生に教わりながら、ハガキサイズの板に電熱ペンで絵を描く			

	成 果	課 題
学 校	・取り組みを通して、学校全体の地域や公民館の距離が近くなってきたように感じる。	・地域の特色を活かした学習課題を取り入れた活動やその他の諸活動の取り組みを通して、公民館・地域との連携をさらに推進できればと考える。
* 子どもにとって	・活動の過程を通して、学校以外での達成感を得ることができた。 ・学校生活では得られないような実体験を提供していただき、公民館をより意識する機会となった。	・様々な体験(社会体験・自然体験)や伝統文化などに触れる機会が少なくなっている今の子どもたちにとって、今後も公民館や地域の方との触れ合いや体験活動が必要だと感じる。
* 子どもにとって	・普段、日常では経験できないような、創造的な取り組みを体験する良い機会である。 ・子ども達に、公民館活動に目を向けさせるいいきっかけづくりになった。	・作業中にも関わらず、騒がしかったり、私語が目立つ場面もあった。本事業を通して規範意識も高めていく必要がある。
地 域 (公民館)	・地域にある豊かな教育資源、人的資源を活用し、公民館との連携により相乗的な地域教育活性化、ひいては地域活性化の一助となることができた。	・今後は、家庭を巻き込んだ事業展開を図り、保護者からもボランティアスタッフとしてお手伝いいただけるようにする。 ・学校、公民館、地域のスケジュールを考慮した中での日程調整が困難だった。

#### 評価及び次年度に向けての取り組みの方向

本年度の学社融合事業は、昨年度のカヌー、焦がし絵体験教室に加え、乗馬体験教室を実施した。上芳養地域には、11月に芳養八幡神社の例祭があり、馬引きや、かけ馬が行われる。子ども達が、馬に慣れ、地域の祭りに積極的に参加できるようにと、新たに乗馬教室を実施した。

子ども達には、「自ら学び・考え・行動する」をし、そこで得た記憶、知識は今後生きていくうえにおいて、必ず役に立つという主催者側の共通理解を図ることができた。また、子ども達にとっては、本年度の学社融合事業である「乗馬、カヌー、焦がし絵」の3体験教室を通し、何かしらの思い、感情を抱き、それが地域への関心、愛着に繋がるきっかけとなってくれればと思う。

次年度においても、家庭を巻き込んだ事業展開を図ることで、一層の地域ぐるみでの子育てを行っていき、小学校と公民館においては、より連携を密にし、調整を図っていきたい。

学社融合活動実施報告

学校名	中芳養小学校	公民館名	中芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>地域住民の教育に対する関心は高く、特に学校教育に関しては熱心であり、常に協力的である。教室の窓からは四季折々の花々や山の緑が変化する様を見渡すことができる。そんな自然環境に恵まれた里で育つ子どもたちの姿は、明るく素直であり、男女の仲も、異学年間の仲も概ね良好である。</p> <p>本来は農村地帯であり、昔ながらの人間関係が色濃く残り、各字(あざ)内のつながりが強かった。そこへ、新しく団地や宅地がつくられ人口が増加、今では新しく入居してきた住民の児童の方が多くなっている。</p> <p>地域としては、旧住民と新住民の交流・融和が課題であるが、小学校における学社融合の取り組みは、子どもの教育活動や様々な行事を通して住民間の交流・融和を図る重要な役割を果たしている。</p>			
活動名	中芳養敬老会への出演	学年・教科・領域等	1、2年生・総合的な学習
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敬老会へ出演することを通して、敬老精神を養うとともに人前で発表する力の向上につなげる。</li> <li>・この出演をきっかけとして、地域のお年寄りの方々に今の小学生を身近に感じてもらい、地域内で見守ってもらえるようにする。</li> <li>・出演演目の練習を通して、チームワークの大切さや思いやり、助け合いの精神を涵養する。</li> </ul>	
	公民館(地域)・地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人と人、子どもたちをつなぐ場を設け、郷土を愛する心を培い、連帯感を高める。</li> <li>・地域と学校が連携・協力して行事をつくり、中芳養地域の活性化に寄与する。</li> <li>・地域住民全体に、子どもたちの活動に目を向けてもらい、地域として子どもたちの健全育成に取り組もうとする機運を高める。</li> </ul>	
支援者及び支援組織			
中芳養公民館、芳寿会(中芳養老人会)、JA紀南 等			
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)			
<p>○8月19日(金) 平成23年度中芳養敬老会会議  出席者;中芳養公民館、芳寿会、JA紀南、郷友会、消防団、民生委員  中芳養幼稚園職員・PTA役員、中芳養小中学校職員・PTA役員  議案;①敬老行事の内容確定  (余興プログラム、出演順番及び持ち時間の決定、練習時間の割振り 等)  ②敬老行事の予算確定</p> <p>○8月下旬 中芳養小学校出演演目の決定  (祖父母への作文、演劇、歌の発表)</p> <p>○9月6日(火) 出演に向け、練習開始(台風のため、開始が遅れる。)</p> <p>○9月15日(木)、16日(金)会場(中芳養公民館)での練習</p> <p>○9月18日(日) 中芳養敬老会当日  演目;①1年、2年代表児童による作文発表  ②演劇;「ないたあかおに」  ③歌;「ドレミの歌」</p>			
			

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の教育活動の一端を、地域のお年寄りの方々に知ってもらい良い機会であった。</li> <li>・地域のお年寄りの方々に、本校児童を知ってもらい良い機会であり、小学生に目を向けてもらう良い機会となった。</li> <li>・この行事が子どもたちとお年寄りとの接点となり、作文を書いたりする教育活動を通して敬老精神を養うのに役立った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の教育活動の中でも、もっとお年寄りの方々と触れあう機会がもてれば良いと思う。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演劇等の発表には、全員のチームワークを必要とするため、それぞれの責任と相手を思いやる気持ちを育てることができた。</li> <li>・大勢の人前で発表できる貴重な体験の場であり、出演するまでの緊張感、発表後の達成感を味わう良い機会であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この活動を通して、相手を思いやる気持ちを育てることができたが、もっと献身的にお手伝いしようとする精神が育てば良いと思う。また、長年地域を支え発展させてくださったお年寄りの方々に對して、もっと感謝する気持ちを育てたい。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の祖父母についても、また、ご近所のお年寄りについても考えてみる良い機会であった。</li> <li>・地域のお年寄りの方々が一堂に会する機会であり、地域を身近に意識するきっかけとなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中芳養地域では、電車やバスなど公共の場でお年寄りと接する機会が少ないため、公共のマナーをもっと実体験させる必要がある。</li> </ul>
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のお年寄りと子どもたちとのつながりをより一層強めることができた。</li> <li>・地域の子どもたちを、お年寄りが関心をもって見守る機運ができた。</li> <li>・この行事は多くの諸団体の協力で実施しているが、それぞれの団体をつなぐ良い機会となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段からお年寄りとの交流が図られる場が必要で、公民館としても多様な場面づくりを考えていく必要がある。</li> </ul>

#### 評価及び次年度に向けての取り組みの方向

- ・これまで長く実施してきた経験があり、多くの団体が関係しているにもかかわらず、公民館主導のもと、役割分担、余興プログラムの構成等スムーズに運営することができていた。
- ・今年度も1,2年生が出演したのだが、出演に際して1,2年の担任は、企画から練習等、全てを引き受けて指導してくれた。これまでの経験もあるからできたのだろうが、今後はもう少し、学校全体でフォローしていく体制を考える方が良いだろう。その際、運動会の練習が関係してくるため、運動会の日程もいっしょに考慮しながら考える必要がある。
- ・出演した小学生もそれを指導した教員も、一生懸命に取り組み、一定の成果を収めることができたので、達成感を感じる事ができた。さらに、子ども達が出演するという事で、父母の方々も大勢観に来てくださって、保護者間の交流にも役立った。ただし、実際のお年寄りの方々からの声あまり聞こえず、実際どのように捉えてくださっているのか、来年度に向けて知っておきたいところである。
- ・発表行事は、練習等を通じてクラスの結束力を強くする効果がある。また、人前に立つことにより人から見られる緊張感や成功したときの達成感等、普段では味わえない経験をする貴重な場である。今後、マンネリ化に気をつけながら地域行事へは前向きに取り組んでいく。

学社融合活動実施報告

学校名		田辺市立 上秋津小学校	公民館名	上秋津公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>当地域は農村地域であるが、最近、宅地造成が進み農業以外に従事する人も増えつつある。そこで、地場産業である「農業」とりわけ、梅(6年)、みかん(5年)、野菜について1年間を通して体験学習に取り組むことにより、収穫の喜びを味わったり、農業に携わって額に汗して一生懸命働いている人々の苦労や工夫、抱えている問題点に気づいたり、地域の人々の願いや食文化、地域の特色やよさを理解し、地域を考え、ともに歩む子どもを育てることを目標に学社融合を推進する。</p> <p>地域としては、子どもたちの座学・体験学習を通して、子どもたちはもとより保護者の方々にも地場産業である農業について知ってもらおう。また、ボランティアとして参加していくことにより、「人づくり」ひいては「地域づくり」に結び付けていくことを目指す。</p>				
活動名			学年・教科・領域等	5・6年 総合的な学習の時間
目標	学校	「知・徳・体の調和がとれ、心身ともにたくましく生きぬく児童の育成(本校教育方針)」を目指し、地域の地場産業である農業を学校教育に取り入れ、自然や生命の大切さに触れさせながら、生き方指導につなげていくことを目標とする。		
	公民館(地域)	上秋津の地場産業である農業(みかん、梅、野菜)を題材とすることにより、上秋津の農業について知ってもらおう。 農業を通じて、地域として児童の育成に携わり、「人づくり」ひいては「地域づくり」につなげていくことを目標とする。		
<p>支援者及び支援組織</p> <p>農業体験学習支援委員会(JA紀南青年部上秋津支部、JA紀南生産販売委員、JA紀南、上秋津公民館、老人会)</p>				
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>○年度初めに支援委員会を開催し、学校と公民館、その他協力機関との共通理解を図る。 1～4年生は上秋津老人会、5、6年生はJA紀南青年部、上秋津支部の支援により実施した。 ○趣旨にのっとり、子どもが自ら調べたり考えたりして答えを見つけていけるような場面を設定する。また子どもが主体的に活動できるように工夫する。</p>				
<p>5年 上秋津のみかん(年間行事)</p> <p>4月 みかん畑の観察(座学と試食会)</p> <p>5月 みかん畑の観察(各自、学習課題の設定)</p> <p>6月 みかんの摘果(座学と体験作業)</p> <p>9月 みかん畑の観察(課題の追究)</p> <p>10月 みかん畑の観察(課題のまとめ、発表)</p> <p>11月 みかんの収穫、選果場見学、味見選果体験</p> <p>11月 愛知県・小清水小へみかんを贈る(みかん交流)</p>				
<p>6年 上秋津の梅</p> <p>4月 梅学習の課題決定と活動計画</p> <p>5月 梅の観察と肥大調査</p> <p>5月 課題追究</p> <p>6月 収穫・加工(ジュース)</p> <p>7月 加工(梅干づくり)</p> <p>9月 調べ発表</p> <p>10月 まとめ(地域の方へ)</p>				
<p>(児童の感想) 梅の選果では、よい梅の順番に選果するそうです。一番目は秀、二番目は優、三番目は良、四番目は外、最後はG(ジュース)の順番になります。私の家では、優と良が多かったそうです。また、落ち梅より手取り青梅のほうがよく売れるそうです。落ち梅の使い道は、つけ梅にすることで、手取り梅の使い道は梅酒だそうです。梅はたくさん食べると長生きすると言われていました。おべんとうに入れるときんを増やしにくいということが言われています。梅はすごくすっぱかったけど、自分たちで作った梅なので、がんばって食べました。</p>				



	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に畑を借りて、農業体験できたこと。</li> <li>・みかん作りに対する園主の熱い思いを知ることができた。</li> <li>・登下校時や普段の生活であいさつや話をするなど地域の方々との関わりを深めることができた。</li> <li>・座学などを通して、みかんや梅の詳しい知識や普段できない体験ができ、地場産業の奥深さを知ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みかんや梅の畑は、個人所有のものをお借りしているので、園主様への連絡等を密にしておく必要がある。</li> <li>・5年みかん、6年梅と決まっているので、計画や活動がマンネリにならないようにすることが必要である。</li> <li>・上秋津中学校も農事体験を行っているので、活動のつながりなど、連携を図っていく。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みかん作りの仕事内容・農家の苦労や悩み・工夫などが知れた。</li> <li>・地域に対する愛情と誇りが徐々に育ってきた。</li> <li>・挨拶や礼儀正しい態度行動がとれるようになってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みかんや梅の学習で身につけた知識や経験を多くの人に発表する機会があまりない。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通して地域の産業である梅やみかんについて学習することができ、果樹農業が盛んな地域への関心が高まった。</li> <li>・働くことの意義や大変さを感じることができた。また、生き方について考える良い機会となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業のほか、歴史や伝統文化にも目を向け、ふるさとへの関心と理解をさらに深めてほしい。</li> </ul>
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元の若者にとって、後輩の子どもたちに地場産業について教えることで、生きがいと自信に繋がっている。</li> <li>・子どもたちの学習を通じて、保護者の方々の地域理解にも繋がっている。</li> <li>・地域と公民館、そして学校との連携でスムーズに活動を進めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで、特に協力していただいているJA紀南青年部のメンバーが年々減少しつつあるとのこと、今後も継続していけるよう、新たな協力者も見つけていきたい。</li> <li>・学校や支援者により連携を密にして、学習内容や方法についても考えてみたい。</li> </ul>

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

・梅畑の所有者やJA紀南(青年部を中心に)の方々の指導を受け、梅の観察・収穫・梅ジュース作りなどができている。学校としては、児童のコミュニケーション能力、優しさや豊かな心などが育まれ、「人格形成」に大きな成果をもたらすとともに地域作りに貢献できている。

・地域で梅作り、みかん作りに携わっている方々との自然な形での交流により、地域の方々に対する敬愛の念や感謝の気持ちをもつとともに働くことの厳しさを感じ取るなど「生き方」を考えることにつながっている。

・梅やみかんの体験学習は、総合的な学習の時間の中で行ってきた。総合的な学習の時間の一部を外国語活動の時間に割り振っているため、これまでの取り組みの質を落とさず、より意義深いものにするために他の学習活動を合わせ、総合的な学習の時間の内容や配分に検討を加えていかなければならない。

他の活動について

・児童が栽培した野菜と一緒に料理している家庭もあり、自然に「食育」が実践されるようになってきている。

・今後は、現在の取り組みを継続するとともに、旧校舎を利用し地域で取り組んでいる「秋津野ガルテン」(滞在型の農業体験学習・農家レストランなどの「地産地消」を進めている)との連携を進めていきたい。

学社融合活動実施報告

学校名	秋津川小学校	公民館名	秋津川公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>・学校、地域、社会教育関係者が一体となり、地域や家庭の教育力を向上させ、子どもの健全育成のため連携を進めている。</p> <p>・学校は、地域の人々と交流を深めることによって地域の文化を知り、子どもたちの学ぶ意欲やコミュニケーション能力の向上にもつながってきている。</p> <p>・地域の方々は、行事を通して子どもたちと関わることを楽しみにしており、参加にも協力的である。</p>			
活動名	地域の世代間の交流	学年・教科・領域等	全学年(生活科・総合的な学習)
目 標	学 校	「秋津川に生きる豊かな子」を目標に、地域の高齢者の方々(春秋会)、保護者の方々との交流を通して、秋津川の先人の知恵と文化を受け継ぎ、地域の良さを発見することで、地域や学校を大切に作る心を育てる。	
	公 民 館 ( 地 域 )	異世代間の交流を通して、次世代へ伝統文化を伝承し、郷土愛を育むとともに、人と人との絆づくりにつなげていく。 高齢者や保護者をはじめとする地域の方々に、地域・学校行事や子どもたちの健全育成に積極的に関わっていただき、ひいては地域の活性化を図る。	
支援者及び支援組織 秋津川小中学校育友会・秋津川公民館・秋津川町内会・秋津川振興会・JA紀南秋津川店・JA女性会・秋津川婦人会・秋津川保育所			
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)			
◎取り組みのねらい			
【学校】 地域の世代間の交流を通して、秋津川の先人の知恵と文化を受け継ぎ、地域の良さを発見することで、地域や学校を大切に作る心を育てる。			
【公民館】 世代間の交流を通して、ふるさと文化等の伝承を進め、住民相互の絆づくりと地域の活性化を図る。			
◎活動内容			
①秋津川音頭練習(9月22日・28日)町民運動会の種目として秋津川公民館長に指導をうけた。			
②町民運動会(10月2日)・・・秋津川町内会・秋津川小学校・秋津川中学校・秋津川公民館共催。玉入れで春秋会の方々小学生が対戦し、盛り上がった。			
③地域清掃作業(10月28日)・・・小学校高学年と中学生、春秋会の方々が共に地域清掃を行い、秋津川の町をきれいにした。			
④敬老行事(11月6日)に高学年が参加し、「おるい音頭」を発表した。秋津川公民館長と地域の方による指導(10月27日・11月4日)を受けた。			
⑤秋小祭り(11月8日) 午前中は、高学年と学級保護者と中心に地域の方に道具を借りて、高学年が収穫した餅米で餅つき・餅にぎりを行った。他学年も一部餅つきを体験した。午後は、児童会主催で、高齢者(春秋会)の方々に招待して、昔遊びを教えていただいたり、一緒に歌を歌ったりして高齢者・保護者・児童の3世代の交流を深めた。お土産として、ついた餅を贈った。			
⑥ふるさと祭り(11月20日) 1・2限は全学級で公開授業をした。3・4限は小中学校で「ふるさと祭り」に参加し、音楽会にむけて練習してきた歌や炭琴演奏を披露した。また、工作や絵画、地域連携での取り組みのパネル等を掲示した。昼食は婦人会の方々が作ったまぜずしとおにぎりをいただいた。午後は参観日として、5限も公開授業を行い、その後は学級懇談会を行った。			
⑦年賀状での交流(12月)・・・小中学生が地域の高齢者に年賀状を書いて送った。			
【今後の予定】			
⑧保育所との交流(2月)・・・低学年の児童が、保育所園児を小学校に招待し、小学校の学習や行事について説明したり、遊んだりして小学校の楽しさを伝える。			

	成 果	課 題
学 校	地域の異世代間との交流行事を通して、秋津川の文化を体験し、秋津川の特徴を知ることができた。 地域の方が子どもをよく知ってくれ、声をかけてくれるようになったことで、子どもの活動意欲につながり、地域に根ざした取り組みを行うことの大切さを感じた。	児童数減少にともない、活動の企画や運営が難しくなっている。同時に家庭数も減少しているため、協力していただける方も減っている。今後も活動が継続できるように、地域との連携を深めていきたい。
* 子どもにとって	地域の方々から教わったり、共に活動したりすることで、秋津川の文化を知ることができた。自分たちも地域の一員であることを実感することができた。	高学年を中心に活動しているため、児童数減少の中、一人ひとりへの負担が大きい。活動内容の工夫が必要である。
* 子どもにとって	高齢者や保護者から伝統文化を教えていただき、ふるさとでの長い歴史と良さを感じることができた。一方、自分たちの取り組みを地域に披露することもできた。また、活動を共にすることで、保護者以外の方々との絆が深まった。	今後も各種行事や活動に積極的に関わり、住民との交流を深め、社会性を育み、ふるさとや周りの方々を大切にする優しい心をより一層養っていただきたい。
地 域 (公民館)	異世代間の交流が地域の活性化につながった。 高齢者や保護者の方々に、子どもたちの取り組みや様子を見ていただくことができた。また、行事に参加し、子どもたちと協働することで、刺激を受け、精神面や身体面にも良い効果があったと思われる。	少子高齢化・過疎化の進む地域ではあるが、今後も住民の方々に広く声をかけ、協力者を発掘し、継続できるよう、学校とも連携しながら取り組んでいきたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

- ・おるり音頭の継承  
参加される高齢者はとても楽しみにしており、子どもにとっても秋津川の伝統文化を学ぶ良い機会であるので、継続していきたい。
- ・秋津川町民運動会  
地域が一体となって取り組む活気ある運動会である。今後も継続していきたい。
- ・地域清掃作業  
環境について考えるよい機会となっている。
- ・秋小祭り  
児童数減少、協力者の減少にともない、今後の参加へのあり方も工夫・改善しながら継続していきたい。
- ・ふるさと祭り  
地域外の方々も多く来校し、大変盛り上がった。
- ・年賀状での交流  
地域の高齢者に喜んでいただき、返事もたくさんきた。

どれも学校教育と地域の行事を一体化させた取り組みであるので、さらに教育効果を高めるための取り組みを考えていきたい。また、もっと多くの地域の方に参加していただくために教科学習にも取り入れ、地域に出向く活動も計画しているところである。

学社融合活動実施報告

学校名		三栖小学校	公民館名	三栖公民館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>本校は「三栖を美しくする運動」や「梅干しづくり体験」、「三栖の史跡巡り」、「梅農家の仕事」など総合的な学習や社会科などの教科学習また学校行事などに地域の方や保護者の方などが大変協力的である。本年度よりクラブ活動に地域の方を講師として招き、4つのクラブ(茶道、タグラグビー、絵手紙、手芸)で指導していただいた。</p>				
茶道・タグラグビー・絵手紙・手芸クラブ			学年・教科・領域等	5・6年
目 標	学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人々の知識や経験を生かし、積極的に他者と関わろうとする態度を育てる。</li> <li>・体験やものづくり活動を通して、コミュニケーションを図ると共に自他に関心を持つ。</li> </ul>		
	公 民 館 ( 地 域 )	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校との連携を図ることにより、地域で子どもたちを育てようとする気持ちを高める。</li> <li>・学校との組織的な支援体制の確立を目指す。</li> </ul>		
支援者及び支援組織 三栖公民館 保護者 婦人会 JA三栖支所				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
3月29日(火)		クラブ打ち合わせ 三栖公民館にて		
5月24日(火)		クラブ活動		
14:50~15:35				
6月21日(火)		クラブ活動		
14:50~15:35				
10月11日(火)		クラブ活動		
14:50~15:35				
11月15日(火)		クラブ活動		
14:50~15:35				
1月24日(火)		クラブ活動		
14:50~15:35				
2月21日(火)		クラブ活動		
14:50~15:35				
  				

	成 果	課 題
学 校	職員では指導することができない専門的な技術指導ができ、クラブ活動に幅ができた。 地域や保護者の方に直接指導していただくことで、学校の児童の様子を知っていただいた。	年度当初、年間計画に日程を組んでいたが、学校行事や講師の方の都合により、日程調整が大変なときがあった。 1つのクラブに複数の講師体制をとって、日程調整をスムーズにできるようにする。
* 子どもにとって	今まで体験したことのないものに、触れる機会ができた。 地域の方に接することで広がりがでた。	この取組に協力していただいた方に感謝の気持ちをもてるようにする。
* 子どもにとって	学校の職員だけでなく、地域や保護者の方に指導していただき、緊張感を持って取り組み、礼儀を学べた。	この活動を通して、学んだことをこれからの実生活に生かす。また公民館活動への積極的な参加へつなげていく。
地 域 (公民館)	地域の方の持っている知識や経験を生かすことができた。 地域の方に児童の様子や学校の様子をわかっていただけた。 茶道クラブに、公民館施設を利用してもらうことにより、公民館の役割の一部を知ってもらうこととなった。	これからも公民館と連携し、新しいクラブなどの創設にむけて、新たな協力者を見つけていく。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

- ・今まで体験したことのないクラブをすることができた。
- ・地域や保護者の持つ技術や知識を直接教わることができた。
- ・年間計画の中に位置づけ活動できた。
- ・来年度も引き続きこれらの活動を行っていきたい。
- ・公民館と連携して、新たなクラブの創設についても考えていく。

学社融合活動実施報告

学校名		長野小学校	公民館名		長野公民館
学社融合における学校・地域の様子					
<p>長野地区は、学校と地域が互いに協力し合って行事を行っている。学校は長野地区の各諸団体との関係を密にし一体となって教育に取り組んでいる。地域の教育力を相互に活用し合い、子どもから高齢者まで共に学び合う環境をつくっている。</p>					
活動名		地域学習「ながのまちたんけん」「大好きふるさと長野」「長野の自然(野鳥)について」	学年・教科・領域等		全学年 生活科・総合的な学習
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の各種団体との連絡を密にする中で、学校と地域の教育力を育てる。</li> <li>・地域の方々との交流でコミュニケーション能力を深め、地域を大切にする気持ちを育てる。</li> <li>・地域に貢献している人々の生き方を通し、自分の生き方や進路を考える力を育てる。</li> </ul>			
	公民館(地域)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や公民館が学校行事を支援し、地域と学校との関係を密にして児童の健全育成を図る。</li> </ul>			
支援者及び支援組織					
<p style="text-align: center;">長野公民館      長野区老人会      JA紀南長野店      長野小育友会</p>					
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>本年度の学社融合の取組は、地域に住む多くの人とふれあい、地域の様子や人々の願いを学び、学んだことを地域に発信していくことを目標に取り組んだ。地域に出向いて話を聞いたりゲストティーチャーを招聘したりして多くの人から学ぶことができた。</p> <p>各学級での取り組みの経過は下記の通りである。</p>					
<p><b>【1・2年生】</b></p> <p>◇テーマ:「ながのまちたんけん」</p> <p>◇ねらい:地域の人々の仕事やその苦勞、願いを知り地域を大切にする心を育てる。</p> <p>◇活動内容:生活科の学習として、地域の商店や仕事を訪れ、仕事について質問したりお話を聞いて苦勞や願いを学び、学習発表会で劇にして発表した。</p> <p>◇主なゲスト:ミカン農家(森さん) JA紀南農協(山本さん・岩本さん)      木工職人(大島さん)          長野連絡所(佐向さん) 郵便局(上地さん) お寺(西田さん)      結び絵作家(大野さん)</p>					
<p><b>【3・4年生】</b></p> <p>◇テーマ:「大好き ふるさと長野 ～ぼくたち わたしたちの自慢」</p> <p>◇ねらい:郷土を大切にする気持ちを学び、郷土愛を育てる。</p> <p>◇活動内容:3、4年生は地域を支える仕事や郷土の歴史や行事を中心にゲストティーチャーを招き学習し学んだことを新聞にして地域に配布した。</p> <p>◇主なゲスト:八幡神社の秋祭り(笠松さん)      長野の農家の仕事(森さん)          住吉踊り(那須さん、峰さん、芝崎さん)      長野の歴史(西田さん)</p>					
<p><b>【5・6年生】</b></p> <p>◇テーマ:「長野の自然(野鳥)について調べよう」</p> <p>◇ねらい:地域の自然を通して、郷土を見直し環境を大切にしようとする態度を育てる。</p> <p>◇活動内容:1学期から地域の野鳥を観察した結果を、環境との関連で発表した。特に地域のフィールド学習を継続して取り組み、野鳥の生態を観察記録し変化等を考察した。</p> <p>◇主なゲスト:野鳥の観察(津村さん)</p>					

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人々と交流する機会の少ない児童にとって地域を巡る活動はよい経験となった。</li> <li>・地域に根ざした生き方を学ぶことで、社会の一員としての自覚を育てるよい機会となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も地域学習に取り組んでいきたいが、内容を継続するか刷新するかについてはじっくり検討しながら、よりよいものをつくっていきたい。そのためにも公民館や地域の団体と連携して企画立案したい。</li> <li>・将来的には学習発表会を子どもだけでなく地域の方々にも出演していただける場として、文化活動を通してふれあいを深めていけたらと願っている。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人たちの仕事や生き方を学ぶことにより地域の人々の苦労を知ることができた。</li> <li>・地域学習を進めることにより社会への関心やより深く学ぼうとする意欲が高まってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の行事に積極的に参加し、地域のすばらしさや暮らす人の願いを学ぶ学習を展開していきたい。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人を知らない児童がふれあいの中で自分たちが大切にされていることを実感できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちと地域を結ぶ行事を企画し、地域とのふれあいを深めたい。</li> </ul>
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に出て地域の人たちから学ぶことや講師を招いて学ぶことなど積極的な取り組みができています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師として交流していただける地域の人を確保し、学校と公民館が連携した取り組みができるようにしていきたい。</li> </ul>

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

(評価)

- ・地域の方々との交流の中で、学校と地域とのつながりが深くなり今後の協力体制の素地ができた。
- ・訪問した方々や学校に来ていただいた方々はどの方も大変協力的で地域ぐるみで子どもを育てていく長野の良さを実感できた。
- ・地域の人から学ぶことでより深く地域への関心を高めていけた。
- ・講師に来ていただいた方々にお礼として自分たちが種から育てた花を送り喜んでいただけた。

(次年度に向けて)

- ・地域の方々が気軽に学校に来ていただける体制や行事づくりを行い、学校と地域が一体となった取組を展開していきたい。



1・2年生  
木工の仕事・・・大島さん



1・2年生  
ミカンの仕事・・・森さん



3・4年生  
長野の歴史・・・西田さん



5・6年生  
野鳥の観察・・・津村さん

学社融合活動実施報告

学校名		伏菟野小学校	公民館名	長野公民館
学社融合における学校・地域の様子				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・伏菟野小学校は、平成23年度全校児童7名の小規模校で、保護者世帯数も少なく、地域の方が育友会準会員という形で会費の面でも援助を頂き、児童の見学や遠足等の活動の面で助けられている。</li> <li>・地域の人々は協力的で、校内環境整備作業やクリーン作戦は伏菟野区と学校の共催という形をとっている。</li> <li>・運動会は学校と伏菟野区との共催で実行委員会を組織し、例年多くの方が来校し、にぎわっている。平成23年度は台風12号による地域の甚大な被害のため運動会は中止となった。</li> <li>・ホタル学習は、地元のシニアマイスター 谷口 昌氏に指導頂き、年間5回の学習計画で実施している。</li> </ul>				
活動名		ふれあい交流会	学年・教科・領域等	生活科・総合的な学習の時間
目 標	学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域に開かれた学校」を推進し、「学校と地域が共に児童を育てる」という理想を実現する。</li> <li>・学習発表会を計画し、児童のがんばりを保護者、地域の方々に見ていただく。</li> <li>・地域の方を講師に、地域の方々と児童が活動を通して交流する。</li> </ul>		
	(公民館 地域)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台風12号により、今年は運動会ができなかったため、ふれあい交流会を行い、地域の方と児童との交流、また、地域の方同士の交流を促進する。</li> </ul>		
支援者及び支援組織				
お話・読み聞かせのみなさん(竹中しづ子様他)			西村修次様(やきもの教室)	
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふれあい交流会」は、従来からの学習発表会に他の活動を組み合わせて、平成21年度より毎年、学校開放月間である11月の日曜日に、児童と地域の方々が交流できる中味になるよう工夫して実施している。</li> <li>・平成23年度は運動会が中止になったことから、例年運動会の種目になっている「新入児おみやげ」と児童の「一輪車」の演技を交流会の中で実施するため、レクリエーションの時間を設定した。レクリエーションは、練習無しでもできるものとして、グラウンドゴルフをすることにした。児童と地域の方が混成でグループになり、交流を図った。</li> <li>・学習発表会の劇の脚本選びは、職員で夏休みから始め、9月初旬に決定した。そのため、児童の劇練習は早い時期から取り組んだ。</li> </ul>				
「ふれあい交流会」日程・活動内容				
・日 時 平成23年11月27日(日) 8:30~15:30				
・日 程				
時 間	内 容			場 所
8:30 ┆ 9:30	お話・読み聞かせ (講師 竹中しづ子様他)			理科室
9:40 ┆ 10:40	学習発表会 ①校歌斉唱 ②・斉唱「とどけようこの歌を」「ドレミの歌」 ・合奏「いつも何度でも」「ジュピター」「愛のテーマ」 ③劇「金のおの 銀のおの」 ④地域の方と合唱「もみじ」「ふるさと」			体育館
10:50 ┆ 12:00	レクリエーション ①新入児おみやげ ②児童による「一輪車」演技 ③グラウンドゴルフ			運動場
12:00~13:00	昼休憩			
13:00 ┆ 15:30	やきもの教室(講師先生の制作実演も見せて頂く) (講師 西村修次様)			理科室

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあい交流会に向けて2ヵ月以上に亘り児童・教職員全員が協力しあったことは貴重な体験となった。</li> <li>・劇の脚本選びを早めにしたことで、練習期間が充分あり、せりふ覚えは大変だったが、児童は大きな不安なく当日を迎えることができた。</li> <li>・地域の方と「もみじ」「ふるさと」を合唱し、感動を共有しあうことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度、全校児童7名で、5・6年生が0名という状況をふまえた内容を考え、なるべく早く取り組むことが課題でもある。</li> <li>・劇をする場合、1～4年生で計7名の児童にふさわしい脚本選びを早くから取りかかる必要がある。</li> <li>・レクリエーションの雨天時の中味を、人数と場所(スペース)を考えながら決める必要がある。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習発表会の歌、合奏、劇、一輪車の演技等どれも練習の成果を出し、多くの方に見て頂き、達成感を感じられたと思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度は5・6年生が0名の見込みなので、1～4年生の児童7名が、チームワークを大切にしながら、発表会に向けてがんばること。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあい交流会で行う歌や劇の発表に向けて練習してきた成果を十分発揮していた。運動会で披露することができなかった一輪車も皆の息が合っていてすばらしかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達は、元気いっぱいはこちらまで元気をもらうことができた。この元気を保ち続けてほしい。</li> </ul>
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台風12号により、被災地となった伏菟野地区において、学校を核として、地域の住民が集まり、合唱やグラウンドゴルフ、やきもの教室を行い、お互いの交流を深めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台風12号の経験から、常日頃から、地域での支えあい、絆作りをしていく必要がある。今後も学校を核として、地域の方々が交流できる事業、人と人とのつながりができる事業を行っていく。</li> </ul>

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

<評価>

- ・台風で地域は大きな被害を受けたが、多くの方が交流会に集い、劇を見たり、児童と合唱やレクリエーションをしたりして、楽しく1日を過ごし交流できた。
- ・運動会が中止となったが、交流会の中で、「新入児おみやげ」と「一輪車」の演技を実施し、地域の方に見て頂けた。

<次年度の取り組みの方向>

- ・今年度の成果を生かした交流会を実施する。特に「学習発表会」と「やきもの教室」は多くの方の楽しみにもなっているため、次年度も続ける。
- ・学校と公民館の協力をより密にするため、取り組みについての話し合いを早めを持つ。

お話・読み聞かせ



グラウンドゴルフ



やきもの教室



学社融合活動実施報告

学校名		田辺市立咲楽小学校	公民館名	龍神公民館福井分館・甲斐ノ川分館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>地域の教育に対する関心は高く、学校教育充実のための協力を得やすい地域である。特に、咲楽小学校地域連携推進会議を中心に学校と学区民が連携を図り、地域全体で子どもの健やかな成長を担う環境づくりに寄与することを目的に様々な活動に取り組んでいる。</p>				
活動名		福江夏まつり	学年・教科・領域等	全学年
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を通して、学校・家庭・地域が一体となって児童を育てる雰囲気づくりに取り組む。</li> <li>・児童が、ふるさとを大切にする心情や地域の一員としての自覚がもてるように育む。</li> </ul>		
	公民館（地域）	<p>地域社会の中で、子どもたちが心豊かに育まれるよう、勉強やスポーツ、文化活動、地域住民との交流等に取り組む。</p>		
支援者及び支援組織 公民館福井分館運営委員会・福江夏まつり実行委員会				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
<p>5月13日(金) 公民館福井分館運営委員会 ・年間の取り組みについて 昨年度までの「福井盆踊り大会」を今年度は子どもが楽しめる内容を加え、「福江夏まつり」として実施することになった。</p>				
<p>7月11日(月) 公民館福井分館運営委員会及び福江夏まつり実行委員会 ・福江夏まつり実施計画について 日時・会場・内容・役割・準備・片付けなどについて協議 盆踊りの前に、子どもたちを対象にした「つきでっぽう作り」「わりばしでっぽう作り」を計画</p>				
<p>7月中旬 学校でのPR ・保護者全体会 ・全校児童集会 ・校報への掲載</p>				
<p>7月下旬 地域へのPR ・龍神公民館だよりへの掲載 ・校区内へのチラシ全戸配布</p>				
<p>8月20日(土) 午前中 会場設営など 午後6時 開催</p>				
<p>1月27日(金) 公民館福井分館運営委員会 ・福江夏まつりの反省と課題</p>				



	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の伝統や行事にふれる、良い機会となった。</li> <li>・地域の行事への協力ができ、地域との距離がまた近く感じられるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に「盆踊り」の練習を行うなど、参加体制の充実を図る。</li> <li>・当日の役割分担など、学校として積極的に関わっていくことが必要。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方々との交流することで、コミュニケーション能力の向上につながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の行事などへ積極的に参加すること。</li> <li>・世話をして下さる地域の方々に、感謝の心を持つこと。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の伝統や文化への関心を高めることができた。</li> <li>・普段接することが少ない地域の方々との交流することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より多くの地域の方々とふれあうことで、社会性を高めたい。</li> <li>・様々な活動を通して、ふるさとを大切にすることを育てたい。</li> </ul>
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の子どもたちの様子がよく分かった。</li> <li>・地域の方々の交流を深めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さらに、多くの地域の方々が交流を深められるよう、周知の方法など考えたい。</li> <li>・地域と学校が、ともに協力して子どもを育てるという意識を一層広げたい。</li> </ul>

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

(評価)

- ・子どもたちを対象にした内容を加えたことで、引率してきた保護者の参加もあり、昨年度よりは盛り上がった活動となった。
- ・子どもたちを対象にした内容は、地域の方による昔の遊び道具づくりと遊び方の指導ということで、より交流を深めることができた。

(次年度へ向けて)

- ・夏休み中の行事であるため、児童への周知を図る手だてなど工夫する必要がある。
- ・今後、たくさん子どもたちや保護者、地域の方々を巻き込んだ活動にしたい。



学社融合活動実施報告

学校名	中山路小学校	公民館名	龍神公民館 中山路分館				
学社融合における学校・地域の様子							
<p>本校は、地域の諸団体や地域住民との交流、地域人材や施設の活用、また、地域の活動への参加をとおして、教育目標の達成に努めている。年々の取り組みにより、学校に対する協力や支援体制にも広がりが見られるようになってきた。専門性を生かしつつ、学校が地域住民の活動の場となり生き甲斐の場となるよう公民館ともタイアップして様々な活動に取り組んでいる。</p>							
活動名	水辺の学習「あまごの一生」 地区別対抗玉入れ	学年・教科・領域等	全校児童・特別活動・学校行事他				
目標	<table border="1"> <tr> <td>学校</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方を招聘し、その専門性を生かして身近な日高川の様子を知り、環境についての関心を高める。</li> <li>・地域住民に活動の場を提供すると共に、地域住民と子ども達や教職員との交流を深める機会とする。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>公民館（地域）</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と地域を結ぶ手段として、地域人材や地域諸団体の情報を学校に提供し、地域の教育力を学校の教育活動に生かす。</li> <li>・学校と地域、また、地域住民同士のつながりを深める活動や生き甲斐づくりを支援する。</li> </ul> </td> </tr> </table>	学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方を招聘し、その専門性を生かして身近な日高川の様子を知り、環境についての関心を高める。</li> <li>・地域住民に活動の場を提供すると共に、地域住民と子ども達や教職員との交流を深める機会とする。</li> </ul>	公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と地域を結ぶ手段として、地域人材や地域諸団体の情報を学校に提供し、地域の教育力を学校の教育活動に生かす。</li> <li>・学校と地域、また、地域住民同士のつながりを深める活動や生き甲斐づくりを支援する。</li> </ul>		
学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方を招聘し、その専門性を生かして身近な日高川の様子を知り、環境についての関心を高める。</li> <li>・地域住民に活動の場を提供すると共に、地域住民と子ども達や教職員との交流を深める機会とする。</li> </ul>						
公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と地域を結ぶ手段として、地域人材や地域諸団体の情報を学校に提供し、地域の教育力を学校の教育活動に生かす。</li> <li>・学校と地域、また、地域住民同士のつながりを深める活動や生き甲斐づくりを支援する。</li> </ul>						
支援者及び支援組織 龍神公民館中山路分館・日高川漁業協同組合							
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)							
<p>本年度の学社融合の取り組みとしては、豊かな自然に囲まれて育っている本校の児童ではあるが、以前と比べて自然体験が乏しいという実態や教育目標と照らし合わせ、地域の方を講師に招き自然や環境への関心を高める取り組みを行った。また、学校の専門性を生かしながら地域の方々に活動の場を提供することで、地域に貢献できる「地域の学校」となるよう理解と協力を得るため、運動会で龍神公民館中山路分館との協力による種目を取り入れた。</p> <p>8月3日(水) 水辺の学習「あまごの一生」 (対象)全校児童 (ねらい)日高川に住むあまごや川魚の生態を知ることで、身近な自然へ目を向けさせ、環境への関心を高めることをねらいとする。 (活動内容) 日高川に住むあまごや他の川魚の生態と川の環境についての学習 鮎の試食 (支援者) 日高川漁業協同組合</p> <p>9月25日(日) 小学校・中山路分館共催「三地区対抗玉入れ」 (対象)全校児童・中学生・地域住民 (ねらい)過疎化・高齢化により一人暮らしの方も多くなるなか、公民館と協力して地域住民に活動の場を提供し、地域住民同士・地域と学校の交流をねらいとして、子どもからお年寄りまで幅広く参加できる三地区対抗玉入れに取り組んだ。 (活動内容) 小学生・中学生・保護者・地域住民による三地区対抗玉入れ (支援者)龍神公民館中山路分館</p>							
							

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あまごの生態や川魚の種類について専門的な観点からの説明を受けることで、教師の知識の向上になった。</li> <li>・自然体験が乏しいという児童の実態を知り、今後の取り組みの参考になった。</li> <li>・打ち合わせを通して漁協の方々の日高川の環境を守る取り組みを知ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思った以上に川魚の種類や川に住む生物を知らない、見たことがないという児童が多く、自然体験や社会体験が乏しいという児童の実態が明らかとなった。</li> <li>・自然体験や社会体験などの取り組みや保護者への啓発など、今後必要を感じる。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日高川に住む生き物の種類や生態について知ることができた。</li> <li>・日高川の環境を守る取り組みについて知ることができた。</li> <li>・清流に住む鮎の試食を通して、地域の自然の恵みを感じることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識としてだけではなく、安全に留意しながらつりや川水泳などの遊びを通して自然体験の機会を増やすことが必要だと考える。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方々との交流を通して、地域の方を知る機会となった。</li> <li>・地域の方々と協力することで、地域の一員としての自覚を持つことができた。</li> <li>・常に地域の方々に支えられていることを感じる事ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校に来ていただくばかりではなく、地域に出かけ発達段階に応じて地域を知り地域の方々と交流の場を持つ取り組みを企画したい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館が講師を紹介したり、学校行事に参画することで、学校との協力関係が密になった。</li> <li>・つながりを持つことで地域の行事に学校職員が参加し、地域の方々と交流する機会が増えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も公民館との協力体制をとり、地域の方々の意見や願いを知るとともに地域の人材を確保し、連携した取り組みを行いたい。</li> </ul>

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

(評価)

- ・公民館に講師を紹介していただいたり、学校行事に参画していただくことにより、公民館とのつながりや地域との交流が深まり、また、子ども達の地域を大切にする心を育て、学校や保護者と地域の方々との交流の場となったと考える。
- ・日高川に住む生物という身近な自然について専門的な立場から話を聞くことで、日高川への親しみが強くなり、自然や環境に対する関心が高くなったと考える。

(次年度に向けての取り組みの方向)

- ・自然体験や社会体験が乏しいという児童の生活面を考慮し、家庭や地域と連携した活動を続ける必要がある。
- ・学校の専門性を生かしながら、公民館と協力して地域住民の活動の場を提供し、地域に貢献できる「地域の学校」となるよう取り組みを進めていきたい。
- ・地域を知り、地域人材を活用した取り組みが行えるよう、地域に積極的に出かけ、地域学習を行っていきたい。

学社融合活動実施報告

学校名		田辺市立上山路小学校		公民館名		龍神公民館丹生ノ川殿原分館・東西分館・宮代分館	
学社融合における学校・地域の様子							
<p>統合で広がった校区であるが、地域は学校教育に大変協力的で、6つの区、3つの公民館分館、3つの婦人会、そして多くの高齢者学級や老人クラブ、自主団体等に支持され本校は学社融合を図っている。統合して1年目は旧3校の実践を引き継いだ取組を展開し、2年目はそれらを継承しながら整理、3年目を向かえた今年度は、生まれてきた課題に対応しつつ取組の合理化を図ってきた。学校地域連絡協議会という組織を母体にして、強い地域との絆を継承していくために上山路小学校としての学社融合に取り組んでいるところである。</p>							
活動名				高齢者交流		学年・教科・領域等	
						全学年 生活科・総合的な学習	
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に生きる伝統的な文化や技術を学ぶ。</li> <li>・高齢者との交流を図りながら、コミュニケーション能力を高める。</li> <li>・地域やそこに住む人々、自然等に関心をもつ。</li> <li>・植物を育てることで、思いやりの心や命の大切さを学ぶ。</li> </ul>					
	公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校と交流することにより、地域として学校教育を支えていく。</li> <li>・子ども達との活動を通して、地域団体の活性化を図り、生きがいを見出す。</li> <li>・児童に作業の仕方や方法などの知恵を教えることで、文化の伝承を果たす。</li> </ul>					
<p>支援者及び支援組織 丹生ノ川はてなしクラブ・殿原老人クラブ・あけぼの学級・せいじゅ学級・宮代学級・下宮代老人クラブ・宮代ふれあいクラブ・宮代和の会</p>							
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)							
10月18日	藁ぞうり作り体験	5・6年	宮代地区の「和の会」に「藁ぞうり作り」を指導して頂く。作業自体が難しく殆ど1対1で対応して頂き、作品が出来上がった後は交流会を行う。				
10月20日	地域巡り 昔の遊び体験	1・2年	午前中は宮代地区を巡りながら、史跡(東光寺・紋殿さん等)を浦氏に丁寧な解説して頂く。午後は、宮代きずな館を会場として「昔の遊び体験」を宮代学級に指導頂く。ウラジロ飛ばし・お手玉・パチンコ・ケン打ちを順に体験し、その後交流会を行う。				
11月18日	干し柿作り体験	3・4年	殿原ささやか館で丹生ノ川はてなしクラブ・殿原老人クラブに「干し柿作り」を指導頂き、全員分の干柿を作成する。体験後は交流会を行う。				
12月5日	花の苗植え作業	1・2年	東西地区のあけぼの学級・せいじゅ学級の協力により、学校の花壇にパンジーやビオラの苗植え作業を、1・2年生と共に行う。その後、田辺市人権擁護委員会から頂いたチューリップの球根植えも行い、作業後は本校の人権についての学習会を参観頂く。				

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校開放月間に合わせて行った取組で、地域の方々との交流が、子ども達の様子や学校教育を知って頂く機会となった。</li> <li>・担任や主任を中心として企画運営でき、学校の組織化を進めることができた。</li> <li>・学校の環境美化が図れた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者に高齢者学級・老人クラブといった団体が多く、責任者との事前の連絡調整が煩雑である。</li> <li>・教員が地域と交わり、地域への働きかけをより充実していく必要がある。</li> <li>・イベント的な行事でなく積み上げのある取組を計画しているが、時数確保が難しくなってくる。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の方々との交流を通して、道徳性や規範意識が高められた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が主体的に活動できる計画を立案する。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校区の高齢者の方々とはふれ合うことで、地域や地域に住む方々への関心が高められた。</li> <li>・体験を通して、高齢者の理解が深まり、高齢者に対する感謝の心を養うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校で取り組んだ交流を地域での生活につなげ、挨拶等実践できる態度を育成する。</li> <li>・児童の関心をより高め、地域の行事等へも積極的に参加していこうとする意欲を養う。</li> </ul>
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流学习に参加し、子ども達との結びつきが深まった。</li> <li>・高齢者の授業参観も行い、学校の様子を分かって頂いた。</li> <li>・高齢者学級や老人クラブの年間計画に位置づけられた取組として頂いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育に支援・協力する時間の確保と、学校(現場)までの交通手段を考慮する必要がある。</li> <li>・教員以外の者が地域コーディネーターを務めることができれば、学校教育を支える体制がより強固なものになる。</li> <li>・取組がマンネリ化してくると、私がいなくてもという意識が先に立ち、参加して頂ける方が少なくなってくる。</li> </ul>

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

統合前から行われていた高齢者との交流体験学習を統合後も継承していくために、低・中・高学年の交流をそれぞれ宮代地区、丹生ノ川殿原地区、東西地区に分けて行ってきた。交流が1つのイベントに終わらないように、子ども達に目標とする力を念頭に置きながら、生活科・総合学習の1つの単元の中の発展として学習を展開してきた。高齢者との交流は学校と区・公民館等で組織される学校地域連絡協議会でまず話し合わせ計画されていくのであるが、3年目を迎えて取組が定着する中、地域によっては負担が大きいとのご意見も出された。そこで今年度は交流を編成し直し、高齢者が指導者としての交流ばかりでなく、人権教育の取組と合わせて花の苗植え作業を低学年と一緒に行って頂いた。学校側としては交流を行いながら環境の美化が図られ、高齢者学級側としては、地域の子どもと親しみながら、学校教育を支えるという会の計画を遂行できたとの言葉を頂いた。

本地区では地域コーディネーターは存在せず、学校側が積極的に働きかけながら学社融合を進めている。以前と比べ、一教師が苦勞するのではなく組織立てて動ける取組となってきたが、次年度に向けても、年度始めから計画を整理しより深く結びついた取組としたい。

さらに、今年度から始まった図書ボランティア、ミシンボランティア等を発展させながら、より開かれた学校を目指したいと考える。



学社融合活動実施報告

学校名		龍神小学校	公民館名	龍神公民館 龍神分館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>子どもたちの自然体験・社会体験・生活体験の充実をはかるために、保護者や地域と連携して、地域の豊かな自然・文化やすぐれた人材を活用し、生きた教育活動の展開に努めている。</p> <p>運動会、学習発表会などの行事を通して、学校・児童と地域の方との交流を深め、思いやりや地域・人への感謝の気持ちの育成を図っている。また学校を地域に開き、学習や行事等に参加してもらうことにより、子どもの様子や教育課程の実施状況について知ってもらえるように努めている。</p> <p>特に今年度は、地域の方をゲストティーチャーとして迎え、藍染めやわらぞうりづくり、陸上競技、手打ちうどんづくり、楽器演奏、森林・林業等について学習を深めた。</p>				
地域ふれあい活動：作物編			学年・教科・領域等	全学年・生活科・総合的な学習の時間
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の豊かな自然にふれ、作物を作り、収穫し、料理等を作るたのしさやよろこびを味わう。</li> <li>・収穫した作物を使って、児童が料理を作り、保護者や地域の方に食べていただくことでお互いのふれあいを深める。</li> </ul>		
	公民館（地域）（地）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の風土に適した作物を収穫し、昔ながらのお茶づくりや梅干しづくりを通して、地域の自然や食文化にふれる。</li> <li>・地域の特産物にも目を向け、ふるさとへの愛着を育む。</li> </ul>		
支援者及び支援組織				
保護者・地域の方々				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
<p>①お茶づくり体験          地域の方(大碓真一様)の茶畑で茶葉を摘み、学校で茶葉を蒸し、もんでむしろに干し乾燥させた。できたお茶は、一部は家庭に持ち帰り、残りはいもまつりでお茶を出したり、機会あるごとに学校でいただいた。          ・茶摘み・お茶づくり 5月29日</p> <p>②梅体験          学校近くの地域の方(中沢次男様)の梅畑で梅を収穫し、梅干しや梅ジュースなど作った。梅干しは給食で、梅ジュースは運動会の練習の後や運動のあとにいただいた。          ・梅採り(5・6年生) 6月27日          ・梅ジュース(1・2年) 6月28日          ・梅つけ(3・4年) 6月30日          ・梅干し(3・4年) 10月7日</p> <p>③いもづくり・いもまつり(収穫祭)          学校園でさつまいもを育て、さつまいも料理をつくり、いもまつりに保護者や地域の方を招いて、児童といっしょに食べていただいた。          ・いも苗植え 5月25日          ・いもほり 10月18日          総量22Kgのさつまいもを収穫          ・さつまいも料理作り(いもまつり) 11月8日          いもプリン、スイートポテト、いもぎょうざ、いもコロッケを作り、いもまつりを開催し、保護者・地域の方々を招き、作った料理をふるまった。</p>				
				
				

	成 果	課 題
学 校	<p>地域の自然にふれ、子どもたちは生き生き活動することができた。自然が与えてくれる恵みを満喫することができた。</p> <p>いもまつりの食事会では、茶話会的な要素もあり、楽しく保護者や地域の方と交流することができた。また職員も地域のみなさんと話す機会に恵まれた。</p> <p>縦割り班活動で取り組んだので上級生が下級生に指導する微笑ましい場面もみられた。</p>	<p>今回のテーマでの取り組みは、地域の人との関わりが少なかった。お茶づくりや梅体験の場面では、地域の人と関わりを設けることは大切であると考えます。</p> <p>いもまつりの食事会には、評議員さんや普段お世話になっている区長さんにも学校に来ていただけるように働きかけ、さらに取り組みを深めたい。(子どもたちが招待状を書くのも一方法である。)</p>
* 子どもにとって	<p>作物の収穫の喜びや料理をつくるたのしさを味わうことができた。</p> <p>また保護者や地域の方に食べていただき、「おいしい」とほめてもらえることが活動への意欲づけとなっている。</p>	<p>梅づくりでは、上級生を中心に、できた梅干しに味をつけ、子どもたちが作った手作りのラベルをはり、パックづめにし、学校に来てくださった保護者や地域の方に手渡すのもおもしろい取り組みの一つだと考える。マンネリ化を防ぐためにもさらに意欲のわく活動が必要である。</p>
* 子どもにとって	<p>昔ながらのお茶づくりや梅干しづくりを学ぶことができた。</p> <p>農産物の収穫や加工の体験を通して、地域の特性やよさを感じることができた。</p>	<p>お茶づくりや梅づくりに携わっている人の苦労や工夫などについて話を聞く機会を設けることが必要である。</p>
地 域 (公民館)	<p>寒暖の差が激しく、空気や水のきれいな龍神村で収穫するおいしいお茶や龍神梅は、地域の特産品のひとつになっている。それを知ってもらえる機会になっている。</p> <p>体験して身に付けた知識・知恵・情報は、今後に生かされ、他の人にも加工方法や地域のことをPRできる体験となっている。</p>	<p>お茶作りに携わり、産直店に出品している農家の人の話や産直店の人から龍神のお茶についてお客さまの評判を直接聞くことは、龍神地域のよさを再確認することになる。そうした機会を持つことも大切なことである。</p>

#### 評価及び次年度に向けての取り組みの方向

お茶づくり体験や梅体験、いもまつりは、本校の伝統的な取り組みのひとつになっている。取り組み当初、分からないところは地域の方に聞きながら、お茶作りや梅加工を行ってきた。作業のノウハウを地域の方から教員が学び、それを教員同士が学び合い、伝えあうことで現在に至っている。いも栽培においては、最近多くなってきたシカやサルなどの害獣被害予防についても地域の方から学びながら取り組んできた。畑の一部をお借りすることで貴重な体験をすることができている。地域の自然にふれ、子どもたちが生き生き活動できていることは、豊かな情操を築く礎になっている。

今後は、活動を継続させるとともに、さらに踏み込んだ活動になるような取り組みにしていきたい。できれば、作ったお茶は、機会あるごとに学校に来てくださった方々に子どもたちがつくったお茶を出して飲んでいただきたい。また、梅干しについては、味付けなどを施し、パックづめにし、学校に来てくださった方にお土産として渡したい。パックには、手作りのラベルをはり、子どもたちが書いた手紙を添えたい。

いもまつりの食事会においては、子どもたちが招待状を書くなどして多くの方に学校に来てもらい、子ども、職員、保護者、地域の方の交流の場としたい。

学社融合活動実施報告

学校名		田辺市立 栗栖川小学校	公民館名	中辺路拠点公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさとの良さを受け継ぐ「栗栖川らしい子」の育成に向けて、学校・保護者・地域が一体となった学びの町作りを目指し活動を行っている。</li> <li>・開かれた学校を心がけ、様々な行事を通して地域の方々に学校を訪れていただき、子どもたちが頑張っている姿を見ていただけるよう努めている。</li> <li>・6年間の栗栖川の学びを策定し、地域の支援を受ける学びの体制作りに取り組んでいる。</li> <li>・中辺路公民館を始め、社会福祉協議会や関係諸機関も大変協力的である</li> </ul>				
活動名		わたしたちの中辺路(稲作と1年)	学年・教科・領域等	5年(社会科・道徳・家庭科・総合的な学習の時間)
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が地域の産業について理解を深める。</li> <li>・社会科の学習を通し、稲作への体験へと広がり、学びを深める。</li> <li>・地域の方々に協力参加していただくことにより、学校と地域の関係を密にしていく</li> </ul>		
	公民館(地域)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びの支援者として、地域の教育人材の発掘と学校支援の拡大を進める。</li> <li>・地域の子を学校と共に見守り育てる教育の基盤を深めていく。</li> </ul>		
<p>支援者及び支援組織</p> <p>稲作支援者・調理実習支援者・郷土史支援者等</p>				
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>・1学期社会科の学習で1次産業について学ぶ。これと平行し、5月中旬より学習支援者の地域の方より田の提供を受け、実地にて稲作学習を開始する。さらに地元JAの支援を受けバケツ苗の実施や、道徳に於いて現在と昔のふるさとの変遷をふるさと支援者より学ぶ。2学期の稲の刈り入れにはじまり、この収穫米を活用し、10月には、地元JA女性会の方々に支援により、合同調理実習を実施する。11名の児童に、10名の支援者が入り、充実した家庭科学習を進めることができた。</p>				
				

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通して、社会科学習の郷土を軸に、支援者とともに発展的に深めることができた。</li> <li>・先人の苦労や、食への意識を高め、道徳の挿入などにより感謝の心を一層深めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回、支援していただいた10名の方々が、さらに呼びかけを広めていただき、地域全体に広がる支援者の参加体制を構築したい。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの食材を使い調理する喜びを味わうことや、学習支援者のおかげで、全ての子どもが調理実習を効率よくでき充実した学びができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習では、細かな指導を受けることができ、教科書以上の高まりのある学習になった。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近所のおばあちゃんが分かり易いアドバイスをくれることにより、より身近な存在となり、地域の先生を一層実感できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの視野の広がりを、この学びを通して、どう拡大していくのか。町に向かった目を、しっかりと育てていきたい。</li> </ul>
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に眠る教育資源を学校という場を共有し、効果的に活用できた。また、教育資源の意味(この地で培った経験)を発信できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加された支援者に、一層のやりがいと満足感を持っていただき、再び学校へ向かうエネルギーに変えていただけるか。また、次の人へとネットワークを広げていただくことが大きな課題である。</li> </ul>

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

- ・地域の人々の学びの深さを実感でき、郷土について再認識できた。
- ・食に対する見方を深めることができた。
- ・年間を通した取り組み提示や支援者希望の学校発信をしっかりと行い、公民館と一層のつながりを深める。
- ・今後の取り組みの方向として、できるだけ長く継続維持できるようにし、学校や児童たちが地域の力になれるようにしたい。

学社融合活動実施報告

学校名		田辺市立二川小学校	公民館名	中辺路公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>核家族の増加や情報社会の浸透など社会の急激な変化の中で、生活のゆとりや、人と人との心のつながりが希薄になってきている。私たちの地域でも、過疎化、高齢化、少子化が進んでいる。そうした中でも、学校の運動会や文化祭は地域ぐるみの取組みとして、地域の各団体の協力を得て毎年行っている。</p>				
活動名		クラブ 運動会、文化祭	学年・教科・領域等	全校・特別活動
目標	学校	<p>1 芝生化された運動場で競技や演技を行う。また、運動会、文化祭を通じて技能を高めていく。</p> <p>2 クラブにゲストティーチャーとして来ていただき、地域の方に指導していただくことで、新しい体験をする。</p> <p>3 地域の方と一緒に作業したり、交流する中で、地域の伝統や文化について学ぶ。</p>		
	公民館（地域）	<p>1 地域の多くの人々との作業やふれあいを通して相互理解を深める。</p> <p>2 子どもたちとの交流を通じて、地域の子どもの素地をつくる。</p>		
<p>支援者及び支援組織</p> <p>二川小学校教育後援会、二川地区老人会、二川女性会、川合町内会、大川区、福定区、内井川区、小松原町内会、温川区、高原町内会、二川子どもクラブ、公民館二川分館</p>				
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>【運動会】 9月18日(日)</p> <p>7月25日(月) 二川地区運動会実行委員会 運動会の日程、内容、分担などについて協議 (二川小学校、育友会、公民館分館、公民館協力委員、二川女性会、二川地区町内会・各区・老人会)</p> <p>9月18日 運動会</p> <p>【文化祭】 11月6日(日)</p> <p>9月30日(金) 文化祭実行委員会 文化祭の日程、内容などについて協議 (二川小学校、育友会、公民館分館、公民館協力委員、二川女性会、二川地区町内会・各区・老人会)</p> <p>11月6日(日) 文化祭</p> <p>開会式 保護者によるリサイクルバザー 餅つき(児童が餅つき体験) 児童のコーナー 地域の方の作品を展示 学習発表(児童による地域の民話読み聞かせ、劇、歌やダンス) 育友会によるビンゴゲーム、閉会式・餅まき</p> <p>【クラブ】 11月15日(火)</p> <p>ゲストティーチャー 文化クラブ、茶道 体育クラブ、太極拳を指導</p>				

	成 果	課 題
学 校	<p>児童数が少ない中で、運動会や文化祭は地域の協力を得て実行委員会形式で行っている(運動会は地区運動会として実施)。</p> <p>文化祭では、地域の方々の作品出品や保護者によるリサイクルバザーも開催できた。児童のコーナーで、ペン立てづくりやゲームなどを子どもたちが自主的に計画、運営できた。</p> <p>本年度は、運動会や文化祭だけでなく、クラブにもゲストティーチャーに来ていただいて、指導していただいた。</p>	<p>子どもたちの活動を進めていくための、時間確保(時数確保)や準備などの工夫が必要。</p> <p>地域の方々の高齢化が進み、文化祭での「野菜の朝市」や「作品展」については、開催が難しくなっている。</p> <p>地域ネットワークを活用した取組みを継続させていくことが、今後の課題である。</p>
* 子どもにとって	<p>子どもたちは、芝生の上で裸足になったり転んだり、草の感触を味わいながらのびのび活動している。運動会・文化祭ともに、普段の練習の成果を十分に発揮できた。また、地域の方と一緒に活動したり、交流することによって、地域の方々とのつながりをさらに深めることができた。</p>	<p>子どもたちの自主的な活動や地域と結びついた学習活動をもっと進められるよう工夫していくこと。また、ゲストティーチャーの利用等、地域を活用した学習を考えていくこと。</p>
* 子どもにとって	<p>子どもたちが地域の方々と一緒に作業をしたり、ふれあい、交流を持つことで、地域と子どもの関係を深め、地域の中の子どもたちを見守る目を増やすことができた。</p>	<p>子どもたちが、地域の方とのふれあいや交流をさらにすすめるための場について、コーディネートすることも考えたい。</p>
地 域 (公民館)	<p>二川小の運動会や文化祭は、地域の中の行事として根付いている。公民館分館だけでなく各区、町内会、女性会、老人会などで協力して行う行事であるため、地域の連帯感を感じることができた。また、普段出会わない方々の交流の場としても、意義深い。また、クラブにゲストティーチャーとして来ていただいたり、伝統芸能を教えていただくことで、子どもたちとふれあい、地域ぐるみで子どもを育てていくことにつながっている。</p>	<p>高齢化が進み、地域ぐるみの参加が難しくなってきた中で、地域ネットワークを活用した取組みを今後も進めていくことが必要である。</p>
<p>評価及び次年度に向けての取組みの方向</p> <p>運動会や文化祭は、地域ぐるみの行事として定着してきている。本年度も、公民館分館をはじめ、地域の様々な団体の連携で、開催できた。</p> <p>こうした取組みを進めてきたことで、学校が地域の中の学校として位置づけられている。また、文化祭は、地域の方々も参加して、作品展やリサイクルバザー、発表など様々な文化的活動を行うことができ、大変有意義でもある。</p> <p>運動会や文化祭が学校と地域、あるいは子どもたちと地域をつなぐ行事であるとともに、地域の方々の交流の場としても大きな意義を持っている。</p> <p>児童数の減少や地域の方々の高齢化が進む中で、運動会や文化祭は従来どおりの形での開催が難しくなっている。内容を工夫し精選していくとともに、地域ネットワークの活用をさらに進め、学社融合の取組を深めたい。</p>		

学社融合活動実施報告

学校名		田辺市立近野小学校	公民館名	中辺路公民館 近野分館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>年間を通しての諸行事の中で、保育所、小中学校、公民館、校区の諸団体との連携を図るため、代表者による実行委員会を設置し、諸行事を運営していくことで学社融合の取り組みを進めている。地域の方々は大変協力的で、子どもたちとも積極的に触れあってくれ、その触れあいを喜んでくれている。さらに、地域や公民館との連携を充実させ、学社融合をめざして取り組みを進めていきたい。</p>				
活動名		地域の人々との交流学习		学年・教科・領域等 全学年 生活科・総合的な学習等・学校行事
目標	学校	<p>自然や人々とのふれあいを深める。          ・自然に親しみ、体験することで自然の偉大さを知り、自然環境の保全を学ばせる。          ・地域学習を通して、地域の産業や文化・伝統にふれ、郷土に誇りを持つ児童を育てる。          ・学社融合を推進して、学校・家庭・地域の教育力の向上を図り、特色ある教育づくりに努める。          ・学校の様子を保護者や地域に広く公開し、意見を聞き、開かれた学校づくりを行う。</p>		
	公民館（地域）	<p>・地域の伝統や文化、風俗、温かい人情そして豊かな自然環境を大切にし、学校、地域の各種団体と連携しながら、子どもを通して地域住民の交流を深め、地域の活性化を図る。</p>		
支援者及び支援組織				
保育所、中学校、PTA、JA女性会、地域住民				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
<p>① 学校行事と地域との関係          児童会が主体的に計画・運営し、地域の方々に招待し集会を開催。          七夕集会(7月7日 13:40~14:40) クリスマス集会(12月20日 13:40~14:40) 節分集会(2月実施予定)</p> <p>② 郷土文化に親しむ          近野獅子舞団の方々に講師を依頼し、全児童が県指定無形文化財「野中の獅子舞」の笛・太鼓を練習する。          近野フェスティバルのアトラクションとして、獅子舞団と児童が共演する。</p> <p>③ ふるさと学習          生活科・総合的な学習に体系化されたふるさと学習の推進。</p> <p>④ 近野区民体育祭          実行委員会の結成(7月19日)、9月18日(8:30~15:00)実施          保育所、小中学校、保護者、7地区の住民、JA女性会の参加</p> <p>⑤ 近野フェスティバル・文化祭          第14回近野フェスティバル・文化祭を11月27日(日曜日9:00~15:30)に実施          実行委員会を設置し、小中学校が主体的に取り組む。地域住民の方々に協力・支援を依頼する。          学校開放月間に係る学校開放行事の一つに位置づけ、保護者・地域住民が集う学校づくりを推進する。          小中学校の音楽・学習発表、保護者・地域の方々との交流ゲーム(小学校)、餅つき大会(中学校)          近野獅子舞団の演舞披露、保護者による昼食提供、JA女性会の野菜即売会及びバザー開催          地域住民の方々に作品を依頼し、同会場で文化祭を開催。</p> <p>⑥ 第38回近野山間マラソン大会          社会体育活動の一環として、実行委員会主催による地域ぐるみで取り組むマラソン大会を3月20日に予定。</p>				

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に住む多くの方々が様々な行事に参加してくれたことは、より一層の学校理解につながった。</li> <li>・郷土の文化「野中の獅子舞」を支える近野獅子舞団の方々から実際の指導を受け、笛・太鼓の練習を重ねることは、I(アイ)ターン者の割合が増えつつある現状において、地域の文化の継承を支える大事な取り組みとなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フェスティバルでは、高学年が9名で満足のできる演奏ができたが、来年度は高学年が5名となり、現状の取り組みでは十分な成果が期待できないと予想される。全国へき地研究大会へのアトラクション出演の依頼もあり、練習計画の見直しも課題である。</li> <li>・行事の運営面で中学校との協力・連携が進んだが、明確な課題も見えており、細部の事前確認をする担当者会議を設定する必要がある。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多人数の前で発表する機会が少ないため、こういう機会は子どもたちにとっては大変貴重な経験になり、うまくできた達成感が大きな自信につながった。また、地域の方々が集う場は、地域への帰属意識が深まり、ふるさとを大切に作る心が強くなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報化社会が進む中で、子どもたちに正しい情報を伝え、地域の後継者を育てるという観点からも、地域という基盤を大事にした取り組みを続け、様々な活動で子どもと地域がつながっていく必要がある。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な世代の方々との交流を通して地域の素晴らしさを感じる事ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の伝統や文化を地域の方々と共に学び、育てていきたい。</li> </ul>
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近野フェスティバル、近野区民体育祭等の地域あげての行事活動に参加することにより地域の活性化が図れた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の高齢世帯が増える中、地域住民同士の交流やコミュニティが図れるような取組を学校と地域(公民館)がより一層取組んでいきたい。</li> </ul>

#### 評価及び次年度に向けての取り組みの方向

- ・地域の高齢化が進む中で、学校に足を運ぶことができない高齢者の方々が増えている。そのような状況での地域の高齢者の方々との交流は、今後少なからず困難が予想される。そのため、交流の場を学校に限定するのではなく、校外に設定し学校が積極的に出向いていくことも考えなければならない。また、行事を行う上で地域の方々から多大な協力・援助をもらい、学校と地域との連携は深まっているが、学校が地域のために貢献するという現在とは違う観点からも地域に出向くことも必要である。
- ・近露地区の老人会が解散したことで、高齢者の方々とのパイプ役となる方が不在となり、個々での連絡となる。今後、交流をスムーズに続けていくために、適役となる方も連絡を密にしなければいけない。
- ・交流・体験学習としての「七夕集会」「クリスマス集会」「節分集会」では、高齢の方々とのふれあい、楽しく交流できたが、地域の参加者が数名であり、呼びかけの方法も考える必要がある。
- ・緊急時の避難場所としての役割を果たすためにも地域とのつながりをより一層緊密にしていきたい。
- ・近野区民体育祭には、200名近い参加者があり、地域あげての大運動会となり大いに盛り上がった。様々な世代の方々と一緒に会する場として今後とも大事にしていかなければならない。
- ・第14回近野フェスティバルは、たくさんの方の支援・協力で盛大に執り行うことができた。しかし、地域の特定の方への負担が大きく、後継を考えた取り組みにしていかなければならない。

学社融合活動実施報告

学校名		鮎川小学校	公民館名	大塔公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>当地域は田辺市街地および上富田町へ勤務する人々が多く在住しており、児童の保護者世帯も共働が多い。そのため放課後の過ごし方をみたと、子どもたちだけの室内遊び等、親以外の大人と触れ合う機会が少なく、そのことが遊びの内容の単一化や大人とのコミュニケーションの不足など、社会性の発達面に弱さを感じさせるところがある。そんな中で、放課後のふれあいスクールの取り組みは地域の大人と触れ合い、興味関心を広げる貴重な機会となっている。</p>				
<p>地域(公民館)</p> <p>取り組みが地域で徐々に認知され、地域の方々や団体による参加・協力の輪が広がるとともに確かなものになってきている。教室に参加された方々の笑顔から、子どもと接することの「楽しさ」を強く感じることができる。</p>				
活動名		鮎川ふれあいスクール	学年・教科・領域等	全学年の希望者
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校・家庭・地域が一体となった大きな輪の中で児童の健やかな成長を育む。</li> <li>・保護者や地域の方々とは触れ合うことによって、コミュニケーション能力の育成を図る。</li> </ul>		
	公民館(地域)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童と地域住民のふれあいを通して、「地域の子どもは地域で育てる。」という意識を高める。</li> <li>・様々な取り組みを行うことで、子どもにとって様々な体験・交流・学習活動の機会とする。</li> <li>・地域融合を積極的に推進することで地域力を高める。</li> </ul>		
<p>支援者及び支援組織</p> <p>・鮎川ふれあいスクール実行委員会(学校・公民館・子どもクラブ・小学校PTA・中学校・大塔老人会・大塔女性会・田辺市社会福祉協議会大塔地区事務所・大塔村商工会)</p> <p>・鮎川ふれあいスクール講師及びボランティア(保護者・地域の方々・大塔老人会・大塔女性会・大塔地区食生活改善推進協議会 等)</p>				
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p>				
4月19日	第1回鮎川ふれあいスクール実行委員会会議	平成23年度の活動計画等	(10名出席)	
5月11日	工作教室(対象2・3年生)	インフルエンザ流行により中止		
5月18日	上を目指そう! チャレンジランキング(1・2年生)	チャレンジランキングを実施	(24名参加)	
5月25日	昆虫採集をしよう!(4~6年生)	昆虫採集・標本作りを実施	(4名参加)	
6月1日	囲碁を体験しよう!(全学年)	囲碁の体験教室を実施	(23名参加)	
6月15日	ヒモのべんりな使い方をならおう!(4~6年生)	ヒモの使い方教室を実施	(8名参加)	
6月22日	茶道教室(3~6年生)	茶道を実施	(33名参加)	
6月29日	手づくりうめジュースをつくらう!(1~3年生)	梅ジュースづくりを実施	(51名参加)	
7月6日	お手玉を習おう!(1・2年生)	お手玉を実施	(20名参加)	
7月13日	願いを込めてミサンガをつくらう!(3~6年生)	ミサンガ作りを実施	(50名参加)	
8月1日	オリジナルフォトフレームをつくらう!(全学年)	写真立て作りを実施	(57名参加)	
8月8日	むかしあそびをしよう!(全学年)	昔遊びを実施	(23名参加)	
8月24日	ビーズで手作りストラップをつくらう!(1・2・5・6年生)	ビーズストラップ作りを実施	(29名参加)	
8月31日	ビーズで手作りストラップをつくらう!(3・4年生)	ビーズストラップ作りを実施	(22名参加)	
9月7日	チュール布で手作りヘアゴムをつくらう!(5・6年生)	台風の影響により中止		
10月5日	茶道教室(3~6年生)	茶道を実施	(27名参加)	
10月19日	保育園児と仲良くなろう!(1年生)	保育園訪問を実施	(12名参加)	
11月16日	大学イモをつくらう!(2・4・5年生)	大学イモ作りを実施	(26名参加)	
11月27日	グラウンドゴルフ大会に参加しよう!(全学年)	グラウンドゴルフ大会に参加	(7名参加)	
11月30日	大学イモをつくらう!(1・3・6年生)	大学イモ作りを実施	(46名参加)	
12月7日	ミニクリスマスツリーをつくらう!(全学年)	マツボックリツリー作りを実施	(84名参加)	
12月14日	ケーキのかざりつけ体験(2・4・5年生)	ケーキのかざりつけ体験を実施	(36名参加)	
12月21日	ケーキのかざりつけ体験(1・3・6年生)	ケーキのかざりつけ体験を実施	(49名参加)	
1月11日	紙ブーメランをつくってあそぼう!(1・2年生)	リサイクルブーメラン作りを実施	(32名参加)	
1月18日	茶道教室(3~6年生)	茶道を実施	(22名参加)	
2月8日	ミニアップルパイをつくらう!(2・4・5年生)	ミニアップルパイ作りを実施	(参加者未定)	
2月15日	ミニアップルパイをつくらう!(1・3・6年生)	ミニアップルパイ作りを実施	(参加者未定)	
2月26日	「押し花シール作り」「リサイクルキーホルダー作り」に参加しよう	体験教室への参加を実施	(参加者未定)	
3月7日	実施内容未定			
3月14日	実施内容未定			
<p>留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動時の児童の安全に配慮する。</li> <li>・児童の下校時の安全に十分配慮する。</li> <li>・児童の出席状況を把握し、スムーズな運営に努める。</li> <li>・講師との連携を密にする。</li> </ul>				

	成 果	課 題
学 校	子どもたちの興味・関心の広がりが見えた。 毎月配布されるふれあいスクールの案内を楽しみに待ち、今まで参加しなかった内容の講座にも参加してみようとする意欲がみられるようになった。	対人関係や集団活動に困難さをもつ子どもの参加には個別の配慮をしているが、より充実させるために保護者・スタッフとの連携が必要である。
* 子どもにとって	ふれあいスクールの活動が定着してくるにつれて、以前のように申し込んでおきながらその日になって参加しない等の事例は減ってきている。一つの講座開催に至るのに、地域のスタッフの方々の多くの労力があることに気づき始めた子もいる。	期日を過ぎてからの申し込みが毎回あったり、参加費のいる講座でなかなかお金を持ってこなかったり、一部にルーズさがみられる。社会性の育成の面からも自覚を持たせたい。
* 子どもにとって	・地域の方々を先生と呼ぶとともに、教わることや注意することをよく聞くようになった。また、自分から大人に話しかけるなどコミュニケーションをとるようになった。	・あいさつをしない子が見受けられるため、鮎川ふれあいスクールの「決まりごと」として取り組むとともに、日常生活へもつなげたい。
地 域 (公民館)	・参加・協力いただける地域の方や団体が徐々に増え、広く地域で子どもと交流してもらうことができた。 参加された方は1回だけでなく継続して来られており、子どもへの関心が高まっている。	・現在、地域の各団体に協力をいただくことで関わる教室の負担分散化を図っているが、長期的に継続していくためにも地域の方々・団体と教室分担ができるよう努め、無理なく続けていけるよう努めたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

- ・地域の参加・協力の輪が広がり、多くの方々に取り組みへ関わってもらえるようになってきた。この流れを継続していけるよう努めるとともに、取り組みについて事務局・参加者が無理なく続けていけるよう内容改善を図りながら進めていきたい。
- ・ふれあいスクールの充実以外にも、更に学習活動の中に学社融合を取り入れていきたい。そのために、年度初めの早い段階から学社融合をねらいとする単元・学年・時期を提示しておき公民館・地域との連携を図っていく。
- ・子どものコミュニケーション能力を伸ばす手立てとして、たとえば挨拶など学校での生活指導とふれあいスクールでの指導(決まりごと)を両輪として相乗的効果へとつなげたい。

学社融合活動実施報告

学校名	三川小学校	公民館名	大塔公民館・大塔公民館三川分館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>本校は、伝統的に地域の協力を得ながら学校行事等を行っている。また地域には、知的障害者厚生施設「あすなろ会」や高齢者の福祉施設、児童擁護施設「くすのき」がある。これらの施設との交流も視野に入れて学社融合を行っている。広義の学社融合の取組として、「三川地域運動会」「三川地域お楽しみ会」「学習作文発表会」等を行っている。授業にも地域の方に関わってもらい「ふるさと学習」を進めている。今年度三川地域は、台風12号の豪雨により今までにない大きな被害を受けた。生々しい被災の傷跡が残る中で実施した「第6回三川地域お楽しみ会」は復興・復旧に向けて、今まで以上に地域と学校が一体となった取組となった。</p>			
活動名	三川地域お楽しみ会	学年・教科・領域等	全学年、生活科・総合的な学習・音楽・体育・道徳・特別活動
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の高齢者や大人の方と交流することで、地域の伝統や文化を学ぶ。</li> <li>・地域の方に児童の発表を見てもらうことで、学校教育や児童への理解を深めてもらう。</li> <li>・保護者や地域の方と一緒に取り組むことを通して、ふるさとを愛する豊かな心を育てる。</li> </ul>	
	(公民館地域)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お楽しみ会に参加・協力することで、住民相互の親睦や交流を深め、地域の連帯を促進する。</li> <li>・三川地域の農産物の販売や芸術文化の発表の場を設けることで、地域文化の振興を図る。</li> <li>・児童との交流を通して、地域の児童を育む環境を考える。</li> </ul>	
<p>支援者及び支援組織 三川小学校、三川小学校PTA、PTA・OB、大塔公民館、三川分館、三川地域振興推進会、区長会交通安全協会、老人会、ボランティア協会、あすなろ会、三川郵便局、JA紀南、道路委員会他</p>			
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月23日 PTA総会(昨年度の反省と本年度の方向について話し合う。)</li> <li>・7月26日 第1回実行委員会(昨年度の反省と本年度の取組について検討。組織と予算審議)</li> <li>・8月18日 PTA総会(準備の進行状況と文化発表の内容等を決める。)</li> <li>・学校だより 9月号 10月号 11月号でお楽しみ会の案内と野菜や日用品の提供、ボランティア等をお願いする。</li> <li>・9月より、児童が来場者へのプレゼントとして、バンジーやスノーポールなどの花の種をまき育てる。</li> <li>・10月5日 PTA総会(当日のタイムスケジュールや役割分担、準備の進め方について話し合う。)</li> <li>・10月13日 第2回実行委員会(タイムスケジュールや内容の詳細、前日の役割分担について話し合う。また、今回の目的を三川地域の復興・復旧支援とすることを決定する。)</li> <li>・10月28日 お楽しみ会への案内状を発送する。</li> <li>・10月末～11月初 児童がお楽しみ会案内のポスターを描き、地域へ貼りに出かける。 また、お楽しみ会の案内チラシを地域の各家庭に配布する。</li> <li>・11月8日 児童とあすなろ楽団との合同練習</li> <li>・11月8日 PTA総会(最終打合せ)</li> <li>・11月17日～ 児童と職員が体育館や教室を清掃し、準備をする。</li> <li>・11月初旬 PTAが食べ物バザーや即売会、抽選会の準備を進める。</li> <li>・11月19日 地域の方やボランティアの方と一緒に準備をする。(餅つき・袋詰め、野菜の買い取り、会場設営など)</li> <li>・11月20日 第6回 三川地域お楽しみ会 来場者約490名 地域内外からたくさんの方が集まり、親交と交流を深めた。 (ふれあい体験教室、三川小学校児童の発表、あすなろ楽団と児童の合同演奏、有志発表、熊野高校吹奏楽部の発表、食べ物バザー、野菜や日用品の即売会、福引き、餅まき、つけものコンテスト、児童や地域の方の作品展示、花苗プレゼント)</li> <li>・12月 2日 第3回実行委員会(第6回お楽しみ会反省会。会計決算報告)</li> <li>・12月15日 三川地域お楽しみ会懇親会(お楽しみ会の労をねぎらい親睦を深める。)</li> </ul>			

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回、地域内外の多くの方が参加して下さり、学校や児童の様子を理解していただく機会となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表練習や準備などについては、授業時数の確保や総合的な学習の時間の活用、教科領域との関係を考えながら計画的に行う。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの発表を参加者の方に見ていただき評価してもらうことで、自信や充実感を持つことができた。</li> <li>・地域の方と準備や交流をすることを通して、自分たちの生活が多くの人に支えられていることを実感することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童数が減少しており、練習や準備において、一人ひとりの負担が大きくなっている。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方とふれ合うことにより、地域の良さや地域の方々への感謝の気持ちが育っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事での交流だけでなく、地域での日常的な交流へつなげていく。</li> </ul>
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童と触れ合うことが、地域の方や高齢者の活力となっている。</li> <li>・地域内外の方々が集まり、お互いの交流を深める場にもなっている。</li> <li>・今年度は被災地区の復興・復旧支援として取り組んだことにより、地域の連帯感をさらに高める機会となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童数や保護者数の減少、さらに地域の人口減少、高齢化が進んでいる。この会を継続していくための組織の見直しや手立てが課題となっている。</li> </ul>

#### 評価及び次年度に向けての取り組みの方向

- ・本年度の三川地域お楽しみ会は、「郷土 三川を愛し、がんばります！！」を合い言葉に、台風12号による被災に対する復興・復旧支援として、開催された。事前の準備には、例年にも増して多くの方が協力して下さり、まさに地域ぐるみのお楽しみ会となった。
- ・当日は、487名の参加があり、地域の交流の場、活性化の場としての役割を果たすことができた。
- ・人口減少、高齢化、保護者減少などが進んでいることから、地域交流・文化交流としての「お楽しみ会」を今後も継続していくために、運営組織等を見直していく。



学社融合活動実施報告

学校名		田辺市立富里小学校	公民館名	大塔拠点公民館・富里分館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>地域の自然や文化に触れさせるため、諸施設に積極的に協力を求めたり地域の方を講師として招聘したりするとともに、地域の行事などに積極的に参加していくなど、社会教育との連携を深めるように努力している。公民館、保育園と運動会などの行事等を共催したり、後援をいただいたりしている。地域の方も協力的で、様々な活動を支援してくれている。</p>				
活動名		ふるさと学習	学年・教科・領域等	全校児童・ 全教科・総合・特別活動等
目 標	学 校	縦わり班活動を利用して学年を越えた協力や助け合い、役割分担を身につけさせるとともに、自主的に活動できる子どもを育てる。また、教材として地域の人財や環境を取り入れることで、ふるさと教育を推進していく。		
	公民館 (地域)	地域の方々にご協力をいただいて、学習を通じた児童との交流をすすめることで、子どもの社会性を育むとともに地域と子どもの結びつきを高める。		
<p>支援者及び支援組織</p> <p>大塔拠点公民館・大塔公民館富里分館・各地区長・富里小学校育友会・とみさと保育園・とみさと保育園保護者会・富里大正琴サークル・富久寿会(敬老会)・あすなる平瀬の郷・大塔あすなる会・ふる里富里会・俳句指導 城戸さん・ミシン指導 湯川さん・みそ作り指導 陸平さん・JA紀南女性会富里支部等</p>				
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>5月 地域の方による家庭科の指導(ナップサック作り)</p> <p>6月 学習発表会の全校合唱にむけての練習開始 地域出身者を俳句作りの講師として招いての俳句教室 大塔に伝わる食文化について学ぶふるさと料理教室(JA紀南女性会)</p> <p>8月 第1回秋季運動会実行委員会開催(種目決定・当日参加協力体制の構築)</p> <p>9月 第2回運動会実行委員会開催(実施決定・協力体制の確認) 児童会役員による運動会招待状の製作 秋季運動会開催(公民館による地域住民の一般種目参加の呼びかけと出場)</p> <p>10月 学習発表会にむけての取り組み(学年演目・全校合唱、合奏の練習) ふる里富里まつりにむけての同実行委員会への出席・協力体制の確認 地域出身者を俳句作りの講師として招いての俳句教室 地域の方による総合学習の指導(みそ作り)</p> <p>11月 ふる里富里まつり(諸事情により中止) 全校児童による地域の高齢者むけ学習発表会招待状の製作 ふれあい学習発表会の開催(学年演目・全校合唱・合奏・各種団体の演目・地域ボランティアによる炊き出し花苗プレゼント・参加者と児童との交流)</p> <p>1月 大塔に伝わる食文化について学ぶふるさと料理教室(JA紀南女性会)</p>				

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館や地域の協力を得られ、多様な交流ができるようになった。</li> <li>・地域出身のゲストティーチャーを招いての俳句教室を、夏と秋の2回に分けて行うことができた。地域の行事などを支えてくれる方々と顔を合わす機会が増え、地域と学校を結ぶ絆がより深まった。学校からの発信量が増えたため、学校の各活動が地域によく伝わり、学校に対するとらえ方が変わりつつある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流にあたり、児童の発達段階に合わせた適切な敬語やマナーを習得させるようにする。</li> <li>・単なる交流ではなく、交流後の児童の気づきや次への課題を大切にす。</li> <li>・公民館や地域任せにならないよう、常に学校がリードしながら連絡をとっていくようにする。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な行事やボランティア活動にたいする地域の方々の積極的な参加と協力で、各団体の様々な活動に触れることができ、児童の地域理解がさらに進んだ。</li> <li>・地域の伝統・行事・自然に触れることで、ふるさと富里を愛する気持ちが育ちつつある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域を大切にする気持ちは育ってきたが、主体的に関わっていこうとする子はまだ少ない。ふるさとを愛し、伝統や行事に進んで関わり、10年後20年後の富里を支えていく担い手を育てていきたい。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方々との交流や地域行事への参加をとおして、「自分の住む地域」への関心が高まった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より多くの地域住民に学校へ関わっていただくことで、児童がより地域を身近に感じ、自分も地域の中の一員であるという意識を高めたい。</li> </ul>
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校から地域へのよびかけから、地域住民が学校に関わりやすくなった。また、学校・児童の様子を知ること、地域住民の学校への関心も高まった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の様々な技能を有する方々を「人財」として、協力いただける体制を確立できるよう努めることで今後の活動推進へとつなげたい。</li> </ul>
<p>(評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別活動年間計画の整理と見直しをし、新たな活動が計画に加わった。</li> <li>・地域住民とふれあう機会の多い本校の運動会・学習発表会やふる里富里まつりなどで、児童は地域をより身近に知ることができている。</li> <li>・学校職員と公民館や地域の各団体の方々との距離が近くなった。</li> </ul> <p>(次年度に向けての取り組みの方向)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①公民館をはじめ各団体の協力を得ながら児童と地域のふれあいの場を設けていく。</li> <li>②児童へのふるさと教育の継続</li> <li>③大塔公民館富里分館との連携のさらなる強化(交流会議などの実施)</li> </ol>		

学社融合活動実施報告

学校名		本宮小学校	公民館名	本宮公民館 (本宮分館・請川分館・四村川分館)
学社融合における学校・地域の様子				
<p>子どもたちは、学校だけでなく家庭や地域社会の中で育てていくことが大切であるという考えから、学校と家庭・地域が密接な連携を図りながら、学社融合を推進し、学校・家庭・地域が一体となって児童の健全育成を図っている。また、本宮の良さや地域の実態を学習を通じて知り、将来地域社会の一員として貢献できる児童の育成のため、地域の方々の協力を得ることができるよう開かれた学校づくりをめざしている。家庭や地域の方々は、学校教育に大きな関心を寄せており、授業参観や学級懇談はもとより各行事への出席率が高い。また、クラブ活動や授業支援にも積極的に関わってくれることから、地域ぐるみで子どもを育てようとする姿勢がうかがわれる。</p>				
活動名		クラブ活動	学年・教科・領域等	4～6年生 特別活動
目標	学校	地域の方の協力を得て、異年齢の児童が、互いに協力して共通の興味・関心を追求し、主体的にクラブ活動を行う。また、地域の方の専門的な技術を学び、互いに交流を深める。		
	公民館（地域）	地域のもつ教育力、及びそれぞれの分野で秀でた才能をもつ地域の人材を学校教育の中に生かすとともに、地域ぐるみで子育てをする意識を高め、本宮の歴史・文化・自然に親しむ子どもの育成のため、学校教育の手助けを行う。		
支援者及び支援組織 本宮公民館・本宮行政局・保護者・地域のみなさん・地域コーディネーター				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
<p>本宮小学校では、6年前より地域の人材を活用したクラブ活動を行っている。今年度は、工作クラブ、絵画クラブ、バドミントンクラブ、五目並べクラブ、茶道クラブの5種類のクラブで活動を行った。各クラブの講師のみなさんには、それぞれ主体的にクラブ活動に取り組んでいただき、児童とのコミュニケーションも年々深まっている。</p> <p>活動日程と具体的な内容は、以下の通りである。</p>				
<p>工作クラブ           (ねらい) 道具の使い方を学び、創造力を高める。身近な材料を活用することで地域について考える。</p> <p>絵画クラブ           (ねらい) 絵画を通して、創意工夫する楽しさを味わう。</p> <p>バドミントンクラブ (ねらい) バドミンの活動を通して、個々のスキルアップをめざして楽しく活動する。</p> <p>五目並べクラブ      (ねらい) 五目並べを通して、先々を読むことや人間関係について学ぶ。</p> <p>茶道クラブ           (ねらい) 茶道を通して、日本の伝統文化を学び、礼儀作法を身につける。</p>				
<p>&lt;活動日程・内容&gt;</p>				
<p>5月 9日(月) 第1回クラブ活動   講師紹介・自己紹介 年間計画を立てる。</p>				
<p>6月 6日(月) 第2回クラブ活動   各クラブの計画に沿って活動を行う。</p>				
<p>7月 4日(月) 第3回クラブ活動   各クラブの計画に沿って活動を行う。</p>				
<p>9月12日(月) 第4回クラブ活動   (台風12号の被害のため臨時休校で活動中止)</p>				
<p>10月17日(月) 第5回クラブ活動   各クラブの計画に沿って活動を行う。</p>				
<p>11月21日(月) 第6回クラブ活動   一年間の活動の反省と講師先生にお礼の寄せ書きを渡す。</p>				

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラブ活動において、地域の方々の協力で、職員では指導が困難な専門的な技術指導も可能となり、子どもたちは充実した活動ができた。</li> <li>・4～6年生がクラブ活動をしている時間に、1～3年生は放課後支援ボランティアの方に絵本の読み聞かせをしていただき充実した時間を過ごすことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の講師の方々の支援を受け、児童の自主性や主体性をさらに伸ばせるクラブ活動にしている。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の選んだクラブ活動に積極的に参加し、地域の方から技術を伝授していただくことで活動が深まった。</li> <li>・教えて下さる講師の方々に感謝の気持ちをもって接することができるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童がもっと主体的にクラブ活動を行えるように、自分の目標をしっかりと設定させる。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラブ活動を通して地域の方々と交流することにより、コミュニケーション能力や表現力などが向上した。</li> <li>・礼儀や作法を学ぶことにより、普段の生活において身につけてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラブ活動で学んだことを地域の活動に繋げて、地域の方々との交流を深めていくことが必要である。</li> </ul>
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアの方々が子どもたちと接することにより、子どもたちから元気をもらい、活力につながっている。</li> <li>・それぞれのクラブ活動において子どもたちに教えることで、保護者や地域の方々への広報活動となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアの方々の高齢化という状況のなかで、このクラブ活動をいかにして続けていくか、また新しいクラブ活動ボランティアの発掘も必要である。</li> </ul>

#### 評価及び次年度に向けての取り組みの方向

##### [評価]

- ・学校、保護者、地域が一体になって子どもを育てていこうという意識が高まった。
- ・地域の方々が学校に来る機会が増えた。
- ・児童が多くの人と関わることによって、規範意識やコミュニケーション能力が向上した。
- ・クラブ活動で専門性の高い指導を受けることによって、活動への意欲や関心が高まった。

##### [次年度に向けての取り組み]

- ・公民館や各種団体とのさらなる交流の場を設定していく。
- ・授業や行事に地域の多くの方が参加しやすいような工夫を行い、開かれた学校づくりの充実を図りたい。



茶道クラブ



バドミントンクラブ



絵画クラブ

学社融合活動実施報告

学校名		三里小学校	公民館名	本宮公民館三里分館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>三里小学校の教育は地域全体で子どもたちを見守り、育てていこうという意識を持つ多くの住民の方々に支えられている。学校も、老人ホームや支援ハウスを訪れて交流したり、地元の老人会と共に花を植えるなどして、地域貢献活動を継続して行っている。</p> <p>そのような教育環境下で、三里小学校では地域の方々をゲストティーチャーとして招き、様々な体験学習を実施している。また、地域の一大イベントである三里運動会や三里祭を公民館と連携して行い、連帯意識を育み、伝統文化を継承するとともに、「三里大好き」と故郷に愛着と誇りを持つ児童の育成に取り組んでいる。</p>				
活動名		三里運動会	学年・教科・領域等	全校児童・学校行事
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の運動能力と体力の向上を図る。</li> <li>・地域住民との触れ合いを深め、児童一人ひとりに地域の一人であるという自覚を育む。</li> <li>・地域に伝わる伝統文化に触れ、地域に誇りを持つとともにそれらを継承しようとする意識を育てる。</li> </ul>		
	公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学生と地域住民が共に運動会に参加し競技を楽しむなかで、三里の住人としての連帯感を育む。</li> <li>・地域住民と小中学生・学校との連携を深め、地域全体で子どもを守り、育てようとする意識を高める。</li> </ul>		
支援者及び支援組織				
本宮公民館三里分館・三里小学校PTA・三里中学校PTA・地域住民等				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月21日に「三里運動会実行委員会」を持ち、種目・役割分担・準備等について協議。実行委員会メンバーは、本宮公民館三里分館長・三里分館委員・三里中学校PTA役員・三里中学校職員・三里小学校PTA役員・三里小学校職員。9月18日に開催することを決定。</li> <li>・9月始めに台風12号が襲来。三里地域にも甚大な被害あり。復旧作業のために当面は運動会どころではないと、公民館・中学校・小学校で協議して判断。10月30日に延期することに決定。</li> <li>・公民館・三里小学校・三里中学校それぞれで、当日に向けて諸準備・種目練習・係り活動・会場整備などを進める。</li> <li>・10月30日に開催するも、途中から雨が降り始めて中断し、残り種目を後日行うこととする。</li> <li>・11月5日、残りの種目を実施。</li> </ul> <p>* 小中学生全員によるダンス曲は「熊野ハレヤ節」。これは熊野古道をテーマにした曲で、ダンスサークルに所属している保護者をお願いして、一学期より度々小中学校に来て指導をしていただいた。</p>				
				

	成 果	課 題
学 校	小学校では、ふるさとに愛着と誇りを持つ児童の育成を目指し、地域の文化や歴史について学び体験することに力点を置いている。運動会では、地域の方々と共に運動会を楽しみ、「熊野ハレヤ節」を踊り、中学生による地域伝統の踊りを見せていただくなどして、「三里大好き」との思いを高めることができた。	来年度は、中学校が統合する。また、児童数も減少してきており、運動会の在り方について検討していく必要がある。
* 子どもにとって	地域住民が一堂に会するこのような機会を通じて、地域への愛着を深め、「自分も地域の一員である」「地域のために貢献していきたい」との思いを育んでいきたい。	これまでは運動会運営の中心は中学生であり、小学生は中学生を頼りにしていた。来年度は、高学年を中心として子どもたちが自主的に活動できるような手だてを講じていきたい。
* 子どもにとって	保育園児から小学生・中学生までが地域の方々と共に楽しむ有意義な機会である。子どもたちを見守ろうとする大人の連帯が強くなることは、子どもたちにとっては大変心強いことである。	地域の方々とふれあったり、交流したりする機会を、これからも大切にしていく。
地 域 (公民館)	地域住民と小中学校が連携協力して三里運動会を実施し、交流と連帯を深めることができた。このような機会を設けることで、地域の子どもは地域住民で育てるとの意識が育ってくるのではないだろうか。また、地域の方たちにとっても、多くの旧知の人々と会える有意義な機会となっている。	高齢化と少子化により、年々参加者数が減少傾向にある。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

台風12号の被害や雨による延期など、今年の運動会実施は実に大変であった。しかし、公民館・小・中の連携と地域住民のご協力により、盛大に開催することができた。

四月より三里中学校と本宮中学校が統合されるために、本宮公民館三里分館・三里小学校・三里中学校が合同で実施する運動会は今回が最後となった。中学生たちが考えた運動会スローガンは、「三里のBeautiful World いつまでも永遠に」であった。そこには、「三里運動会はこれで最後になり、三里中学校も長い歴史に終止符を打つけれども、美しいわがふるさと三里よいつまでもこのままで」との生徒たちの思いが込められていた。

三里運動会は地域住民のだれもが参加できる交流の場であったので、形は変われど来年度以降も存続させていきたいというのが多くの方々のお気持ちであろう。来年度の運動会開催に向けて、公民館と三里小学校で協議を始めていきたい。



学社融合活動実施報告

学校名	東陽中学校	公民館名	東部・南部公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>学社融合の取り組みとして、昨年度に引き続き全校で弁慶祭りのよさこい踊りへの参加や、職員・コンピュータ部員による地域の高齢者を対象とした「初級パソコン教室」を実施した。今年度は、新たに防災に関する取り組みを行い、公民館と連携しての防災学習や、2回の避難訓練を実施。2回目の避難訓練では、公民館を利用している地域住民の方々も参加した訓練となった。</p> <p>小学校との連携では、小学生の中学校体験や中学校の職員が小学校へ行って英語の授業を行うなど、小中連携も進めた。その他、東陽中学校ホームページや公民館報の活用も充実させている。</p>			
活動名	防災学習・防災訓練	学年・教科・領域等	全学年・総合
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>過去の南海地震の津波体験を聞くことによって、「防災意識の向上」と「中学生としての行動意識の向上」を目指す。</li> <li>地域住民とともに防災訓練をおこなうことにより、「自助・共助」を理解し訓練に臨む。</li> </ul>	
	公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> <li>過去の南海地震の津波体験を次世代へと継承させ、防災活動の担い手を育成する。</li> <li>地域全体の防災意識の向上に努める。</li> </ul>	
支援者及び支援組織			
東部公民館			
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)			
<p><b>【防災学習】</b></p> <p>○4月27日(水): 地域連携部と公民館長・公民館主事の打ち合わせ会議          昨年度の学社融合の取り組みに加え、3月11日の東日本大震災を受けて、沿岸部に位置する本校として防災学習の取り組みも新たに実施していくことで確認。</p> <p>○6月7日(火): 地域連携部と公民館主事の打合せ会議          防災学習の目的や内容・講師等について協議</p> <p>○8月10日(2年)・11日(1年)・22日(3年): 防災学習          全学年が取り組めるよう夏休みの登校日に実施し、公民館で依頼・調整した講師の先生から昭和の南海地震の体験談や防災について講演していただいた。講演後は、中学生としてどう行動すべきか感想文にまとめた。講師の先生からは、当時の写真や避難するときの約束事など、スライドを交えながら分かりやすくご講演いただき、生徒たちも集中して聞くことができた。</p> <p><b>【第1回 避難訓練】</b></p> <p>6月13日(月)に今年度1回目の避難訓練を実施した。本訓練は、沿岸部の教育施設が合同で行う事で、危機管理と防災意識を高めるものであり、東陽中学校は、授業時における突発的な地震及び大津波の発生を想定し、これに対処するため校内防災計画を的確かつ迅速に遂行できるようにすることを目的とし、教室等からの経路を確認し、地震及び大津波の発生における安全な避難の仕方を練習した。</p> <p><b>【第2回 避難訓練】</b></p> <p>12月9日(金)に実施した2回目の避難訓練では、3つの避難経路のうち2つが家屋の倒壊等で使用できない状態になったことを想定し、時間短縮を目的に訓練を実施した。途中の人数確認を省き、駆け足での避難を行い、避難場所までの所用時間は10分30秒だった。また、今回は公民館を利用している地域住民の方々も訓練に参加して、一緒に避難した。</p>			

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去の南海地震の津波を体験された方から話してもらい、これからの防災の大切さを生徒に学習させることができた。</li> <li>・今年度は、2回避難訓練を行うことにより、2回目は1回目より詳細な計画を立てることができ、地域の人たちとともに大津波を想定した避難訓練ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災の教訓を生かして、さらに防災意識を高め、継続的に防災学習や防災訓練に取り組んでいく必要がある。</li> <li>・地域の住民や、幼稚園、小学校、高等学校とも連携した「共助」の取り組みを進めていく。</li> <li>・学校以外の場所で、震災にあったときの対応についても徹底させていく。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災学習で、過去の南海地震の津波被害について知り、今、自分は災害に備えて何ができるのかを考えることができた。</li> <li>・2回の避難訓練で、避難経路や安全な避難の仕方を認識し、地域住民と一緒に訓練を行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大震災が起きたとき、どの場所においても自分で判断して行動できる力をつける。</li> <li>・防災カードを作り、震災前・震災後の行動に役立てる。</li> </ul>
* 子どもにとって	<p>防災学習では、過去の南海地震を体験された方から直接話を聞くことで、地震や津波の怖さや災害に備える心構えなどについて、よりリアルに感じる事ができたと同時に、沿岸部に位置する当地域のより身近な課題としてとらえることができた。</p>	<p>中学生はクラブなどで致し方ない部分もあるが、地域で実施されている防災訓練に中学生の参加がない為、今回の取り組みをきっかけに学校の授業中だけでなく、放課後や休日の場合の防災意識の向上へと繋げていきたい。</p>
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災学習では、体験談を次世代に継承するとともに、次世代の「防災活動の担い手」育成の一端にも繋がった。</li> <li>・避難訓練では、学校(教職員・生徒)と公民館(職員・利用者)が合同で行うことで、避難経路や避難方法などについて一定の共通理解を持って取り組むことができた。</li> </ul>	<p>当地域は沿岸部に位置していることから、中学生が学校外でも対応できるよう、地域の防災活動(避難方法や避難経路等)について学ぶ取り組みを各町内会や自主防災組織と連携して進めていきたい。また、中学生が「次世代の防災活動の担い手」という意識を持ち、中学校が取り組んでいる「地域貢献活動」にもリンクさせることで、各町内会の防災力の向上へと繋げていきたい。</p>

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

- ・校内防災計画を的確かつ迅速に実施することができた。
- ・学年ごとに防災学習を行うことにより、生徒の防災に対する意識の向上が見られた。
- ・生徒は、講演を聞いて、災害に備えておくもの、家族と避難する場所を決めておくなど、今自分は災害に備えて何ができるのかを考えさせることができた。
- ・防災訓練を2回行うことにより、いろいろな場面を設定した取り組みができ、2回とも的確かつ迅速に実施することができた。
- ・2回目は、地域の人と一緒に訓練を実施することができ「共助」の意識を生徒に持たせることができた。
- ・もっと地域の人(保護者・地域住民・近隣の学校等)と連携した避難訓練を行っていきたい。
- ・東日本大震災の教訓である「釜石の奇跡」といわれるように、日常的にくり返し防災学習、防災訓練を行うことが大切である。
- ・学校外でも対応できるよう、地域の防災活動を学ぶ機会を持つことで、生徒自身に「次世代の防災活動の担い手」であるという意識を向上させたい。



学社融合活動実施報告

学校名	明洋中学校	公民館名	芳養・西部・中部公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>校区の三公民館と連携を図り、地域の方々をゲストティーチャーに迎えての授業展開や部活動、その他の活動に取り組んでいる。今年度は、郷土料理づくりや生け花教室、ゆかたの着付け教室を実施した。また、地域と共に防災訓練に取り組んだ。このような中で、生徒たちは来校者に対しても元気よく挨拶ができるようになってきた。また、昨年度より実施している、「明洋中学校区学社融合推進会議(明融会)」を定期的に行き、学校と3公民館(中部・西部・芳養)のつながりをよりいっそう強化することができた。また、明洋中学校の職員会議に、各公民館長と公民館主事が出席して地域の歴史や現状、地域づくりや各公民館の活動を全職員に知らせる取り組みも行った。</p>			
活動名	防災訓練・郷土料理づくり・生け花作品制作	学年・教科・領域等	全学年・家庭科・特別活動
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲストティーチャーの招聘を通して、地域の人々の力を学校教育に取り入れるとともに、交流を深める。</li> <li>・体験的な学習を通して、活動の活性化を図る。</li> </ul>	
	公民館(地域)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちと共に学習を進めることで、学校と地域の一体感を醸成する。</li> <li>・今後も、西部地区自主防災会連絡協議会を中心に地域を挙げた防災訓練を継続させること。</li> </ul>	
支援者及び支援組織			
芳養地域人材バンク登録者および各地域の方々 自治防災会			
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)			
	4月26日	第1回明融会	今年度の活動についての打ち合わせ
	7月 8日	第2回明融会	学校・各公民館の取組と今後の予定について
	9月13日	第3回明融会	学校・各公民館の取組と今後の予定について
	11月14日	第4回明融会	学校・各公民館の取組と今後の予定について
	1月16日	第5回明融会	学校・各公民館の取組と今後の予定について
	3月16日	第6回明融会	今年度の取組の総括と反省
・防災訓練	8月28日(日)	明洋中学校、田三小学校(会場) 西部公民館・各自治防災会と連携して避難訓練・炊き出し訓練・消火訓練 他	
・郷土料理教室	11月 4日(金)	第3学年 家庭科「ひじきご飯」づくり 芳養婦人会の方々を招聘	
【中部公民館】			
・生け花作品制作	11月 1日(火)	家庭科クラブに地域人材を招聘し、生け花作品制作	
	11月22日(火)	家庭科クラブに地域人材を招聘し、生け花作品制作	
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>防災訓練</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>郷土料理づくり</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>生け花教室</p> </div> </div>			

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域とともに訓練を行うことにより、よりいっそう防災への意識が強くなった。</li> <li>・郷土料理教室や生け花教室を通して、地域の文化や日本の伝統文化に触れることができた。</li> <li>・地域の方々に来校してもらうことを通して、学校の現状を知ってもらう機会となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練の参加者は高齢者が多く、若年層が少なかった。日程の調整を年度当初に行う必要がある。</li> <li>・郷土料理づくりは授業で行うことができた。その他の活動も授業への取り入れを考えてゆきたい。</li> <li>・専門性を活かし、地域のために教職員も出て行きたい。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・炊き出し訓練や消火訓練などの体験学習ができた。</li> <li>・地域の方々に指導を受けることで、親しかり学校外でも挨拶を交わしたり、言葉を交わしたりすることができるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導を受けるとい体験だけではなく、子どもたちが主体的に活動できるように工夫していきたい。</li> <li>・生徒会を中心に打ち合わせ会にも参加させたい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門知識を持つ地域の方が指導することで、より深い学びとなった。</li> <li>・この活動を通して、生徒たちが地域の方々とふれあい、交流をもつことができたことに加え、防災に対する意識も深まった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの学びや地域への思いを最大限に伸ばし、深められるよう、今後も活動の在り方について研究を進めていく必要がある。</li> <li>・地域の催しは勿論のこと、防災訓練にも積極的に参加し、故郷の一員であるという自覚をもってもらいたい。</li> </ul>
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民が学校活動に参加することで、地域の大人にも「地域の中の学校」という意識や、さらには地域全体で子どもを育てるという意識へ繋がった。</li> <li>・炊き出し訓練では、西部地区自主防災会の皆さんと生徒と一緒に炊き出しやおにぎりを作るなど、「共働する」ことの意識が高まった。</li> <li>・学校の授業や活動に参加することにより、今の学校や生徒たちの今の様子を知ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民の参加にもっと広がりができるよう人材の発掘や参加呼び掛けに努めていく必要がある。</li> <li>・防災訓練の参加者について、30歳から50歳までの方々の防災意識が薄いことから、今後は、こういった方々を呼び込むような広報活動、取り組みを進めて行かなければならない。</li> <li>・この活動を継続していくために、人材育成に努めなければならない。</li> </ul>
<p>評価及び次年度に向けての取り組みの方向</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災教育については各教科の「自然災害」についての授業を通して学習するとともに、避難訓練を複数回行ってきた。今後は、地域と一体となった防災訓練を通して、さらに防災意識の向上に努めていきたい。</li> <li>・授業では、郷土料理づくりを行ったが、他の教科でも地域人材の力を活用した学ぶ意欲を高める授業づくりを研究していきたい。</li> <li>・子どもたちへの指導がよりきめ細やかにいけるよう、活動の在り方を研究していく。</li> <li>・三公民館の館長・主事を招いての研修を行うことができた。</li> </ul>		

学社融合活動実施報告

学校名 田辺市立 高雄中学校		公民館名 中部・稲成・万呂・秋津・ひがし・南部各公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>◎校内体制として</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の地域担当主任を配置し、各校区協議会・各公民館ごとに担当者を配置し、公民館主事等との連携を図るための組織を構築している。</li> </ul> <p>◎今後の課題として</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒へ地域行事の参加を促すとともに、地域での生徒の生活の様子等の把握</li> <li>・学校の実践が保護者や地域に理解されているかを検証する必要がある。</li> </ul>		
活動名 震災復興メッセージの作成と『あんどん祭』への参加		学年・教科・領域等 総合的な学習の時間・部活動
目標	学校	生徒は地域の一員として意義や自覚を深め、地域社会に貢献する意欲や態度を身に付け高めていく。
	公民館（地域）	大人と子ども双方にまちづくり行事に積極的に参画してもらい、参加者相互の交流を通じて、地域社会の一員としての意識を高めてもらう。また秋津・万呂両地域間のつながりを深め、地域外からも広く多くの方に参加していただくことで地域活性化へと繋げる。
<p>支援者及び支援組織</p> <p>熊野古道－秋津・万呂－夢・あんどん祭り実行委員会（秋津・万呂公民館、町内会、学校、その他地域団体など計11団体で構成）</p>		
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p><b>秋津・万呂地域で組織された実行委員会主催の『あんどん祭』</b></p> <p>7月 7日 『あんどん祭』実行委員会（万呂コミュニティーセンター）</p> <p>8月 5日 『あんどん祭』実行委員会（万呂コミュニティーセンター）</p> <p>8月20日 『あんどん祭』（紀菜館裏駐車場）</p>		
<p><b>あんどん作り</b></p> <p>活動方法 各学級単位であんどん作りに取り組む</p> <p>ねらい 防災復旧支援を目指して作品づくりに取り組み、生徒の作品を地域の方々に見ていただく。</p> <p>7月19日～</p> <p>作業1 学級ごとにメッセージ作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界中 日本の復旧 願ってる</li> <li>・東北に 協力しよう 節電で</li> <li>・震災で 人に広がる 支援の輪</li> <li>・防災を 常に気につけて 対策を</li> <li>・普段から 確かめておく 避難場所</li> <li>・世界中 日本の復旧 願ってる</li> <li>・いたわりと やさしさをもち 助け合う</li> </ul> <p>作業2 学年ごとに半紙に描く</p> <p>作業3 文化部長が台に貼りつけて完成</p>		
		<p>あんどん祭</p> 
		<p>あんどん祭</p>

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や地域の方々に学校のような活動を知ってもらうことができた。</li> <li>・地域をテーマとした学習を行うことで、地域に対する意識を深めることができた。</li> <li>・生徒に地域の一員としての自覚を持たせるとともに、学校が地域へ果たす役割も明確になった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域での活動を行うことにより、校内での美化、清掃活動をより積極的に行う。</li> <li>・育友会活動と連携し、家庭と地域の連携を考えていく必要がある。</li> <li>・環境・防災に対するアピールを積極的に行う。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域へ貢献することの喜びや達成感を得ることができた。</li> <li>・集団で行うことにより、協力や支えあいの意義が高まった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の自主性をさらに高める必要がある。</li> <li>・ボランティアとして、個人としての参加意欲を一層高めたい。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動の取組の一端を子どもたちに知ってもらえるよいきっかけとなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あんどん祭りに中学生世代がもっと参加しやすくなるような仕掛け作りを工夫していきたい。</li> </ul>
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生、中学生から保護者、高齢者まで幅広い世代が様々な形で参加していただいたことで、秋津・万呂の地域住民全体で共有できる行事となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会場や予算の面などいつまで現行の形で実施できるかわからない中で、内容や実施体制を含め、今後どのような方向性で進めていくのか地域全体で考えていく必要がある。</li> </ul>

#### 評価及び次年度に向けての取り組みの方向

##### 評価

- ・生徒全員が、メッセージ作成やあんどん作りに関わることができた。
- ・メッセージを作る中で、防災に関して見つめ直すことができただけでなく、意識を高めることもできた。
- ・本年度は、校内であんどん作りの取り組みができたのでよかった。
- ・文化発表会であんどんを再度展示し、保護者や地域の方々にも見てもらえることができた。

##### 次年度に向けての取り組みの方向

- ・担当職員の分担を決め、全職員で関われる体制づくり。



文化発表会



文化発表会

学社融合活動実施報告

学校名		田辺市立新庄中学校	公民館名	新庄公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>平成23年度は、学社融合推進補助事業の指定を受け、新庄地域共育コミュニティを立ち上げた。これを機に、これまでの取り組みを検証し、継承しつつ発展できる子どもを中心として地域と学校が一体となって今以上に魅力ある地域をつくることを目指し取り組んでいる。事業テーマは、「新庄3つの里づくり」ー防災・ふれ合い・学び合いを通してーである。</p> <p>防災に関して、開設11年目を迎えた「新庄地震学」にこれまで以上に公民館、地域の人々の協力・支援があり、愛郷会や関係団体からも大きなバックアップを得ている。小学校、また、地域の人々との合同避難訓練を実施するなど学社融合活動が進展した。学校(生徒)は、学習成果を地域に発信し、行動力をつけることで、地域ぐるみの防災意識をいっそう高めていこうとしている。</p> <p>ふれ合い・学び合いとしては、本年度スタートした地域学習を挙げることができる。8グループに分かれて、それぞれのテーマについて地域住民や関係機関等の協力のもと学習を進めた。中でも、国指定天然記念物である神島に上陸しての調査・聞き取り学習は、関係者の多大の協力・支援を得て実現した。</p>				
活動名			学年・教科・領域等	
新庄地震学・地域学習			3年選択地震学・総合的な学習の時間、1年地域学習・総合的な学習の時間	
目標	学校	<p>【地震学】・3月11日の東日本大震災の経過に学び、本校のこれまでの取り組みを検証、防災を啓発する</p> <p>・9教科の各視点から地震・津波・復興にアプローチし、学習の成果を後輩、保護者、地域に伝える。</p> <p>【地域学習】・新庄地域の自然・産業・歴史・文化について学び、学習の成果を先輩、保護者に伝える。</p>		
	公民館(地域)	<p>・防災に対する取り組みを地域住民を巻き込んで行う事で、改めて防災に関心を持ち意識向上を図る。</p> <p>・生徒達が取り組むことにより、保護者や地域住民が共により深く防災について考える機会とする。</p>		
<p>支援者及び支援組織</p> <p>保護者、小学校、幼稚園、保育所、高校、新庄公民館、地域住民、新庄漁協、個人事業所、関係各機関</p>				
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>【地震学】本年度開設の9教科15テーマから新規取り組み</p> <p>*「震災の語り部」に学ぶ(DVD制作) *数値で見る地震災害 *衣と食の工夫</p> <p>*防災マップの作成 *復興の様子</p> <p>《1学期》6月～7月</p> <p>◆テーマごとに学習計画を立て、調べ学習、作品づくりを行う。</p> <p>6月 地域の「震災の語り部」から体験談を聞く。各グループ調べ学習を行う。</p> <p>7月 作品製作・調べ学習のまとめをする。</p> <p>《2学期》9月～11月</p> <p>◆地域に出かけて発信する。</p> <p>9月 衣と食の工夫(身近なもので暖をとる工夫と非常時の簡単調理)</p> <p>10月6日 新庄第二小学校訪問 双六・英語カルタ・日本語カルタ</p> <p>10月20日 新庄小学校訪問 英語カルタ・日本語カルタ 双六(中学校に来校)</p> <p>新庄幼稚園訪問 「復興ソング」・「災害伝言ダイヤル171ダンス」の披露</p> <p>◆発表会に向けてパワーポイント作成と発表の仕方の練習</p> <p>◆11/27「新庄地震学」発表会</p> <p>各テーマに沿ってパワーポイントを使って発表する。歌とダンスは1・2年生からの参加者とともに舞台発表をする。新庄漁業協同組合女性部による「かまどベンチ」を使っての炊き出し協力を得た。発表会終了後、保護者及び地域の人々とともに校舎3階に避難訓練を行う。最後に、校庭で餅まきをし盛り上がった。</p>				
<p>【地域学習】 8つのテーマを設定して、新庄地区について学ぶ。</p> <p>《2学期》</p> <p>◆1年生が8グループに分かれて、新庄の自然・産業・歴史・文化について調べ学習を行う。国指定天然記念物である神島に渡り、現地での聞き取り学習をするという貴重な体験もできた。</p> <p>◆11/27「文化祭」</p> <p>各グループの学習成果をそれぞれのブースに分かれて発表する。</p>			  	

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3.11東日本大震災の経過から学び、地震後の生活を意識した学習ができた。</li> <li>・震災経験者の生の話を聞いたり、小学校、幼稚園を訪れ、学んだことを伝えることができた。</li> <li>・避難所となる本校校庭に、2基目のかまどベンチを完成させることができ、炊き出しに活用できた。</li> <li>・数値で見る地震災害や防災マップを作成することができた。カレンダー、標語などで地域に防災を働きかけ貢献できた。</li> <li>・地域学習は、地域住民及び地域そのものとのふれ合いを通しての貴重な学習となった。</li> <li>・地域を知るとともに、地域への愛着や誇りが育まれていくのではないかとと思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度までの取り組みを進めるとともに新しいテーマを開拓していく必要がある。</li> <li>・地域との連携に係る諸経費の捻出。</li> <li>・生徒に、よりいっそうの計画性・自主性を育てる必要がある。</li> <li>・来年度から新学習指導要領が完全実施されるため、地震学の授業時数確保、生徒の人数に合わせたテーマ開設数と教員の配置をどうするか。</li> <li>・地域学習は初めての取り組みであったのでシステムができていなかったが、来年度は本年度の取り組みを継続、発展させる。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に「地震学」を発信し、人々の防災意識の向上に貢献したり、地域の長老や幼稚園、小学校を訪ねることにより、異年齢の世代との交流、地域とのつながりを深めることができた。</li> <li>・表現力やリーダーシップを高める機会になった。</li> <li>・地域の人々から学ぶことが多かった。地域の人々の積極的な協力を得て成功できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いっそう計画的・自主的に動ける力を育てる必要がある。</li> <li>・本年度の学習成果をベースにして、地域をより深く知るためのテーマの設定、学習方法を考える。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震津波体験者から直に話を聞いたり当時の資料を見せていただくなどしたことで、印象深かったことと思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分達の祖父母世代に当たる方々への接触で遠慮等は無かっただろうか。</li> <li>・取材内容など、より自主的な取り組みが出来るようになって欲しい。</li> </ul>
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取材対象者が高齢者となるなかこの取り組みを通し、記憶を風化させることの歯止めになっている。</li> <li>・「新庄地震学」を取り組むことにより、協力する保護者や地域住民と共に防災について考える良い機会になっていると考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取材対象者が世代的な事情もあり固定化してきているので、「語り部」のような方を養成しなくてはならない。</li> <li>・語り部養成の一端をこの「新庄地震学」に担ってもらいたい。</li> </ul>

#### 評価及び次年度に向けての取り組みの方向

##### 〈評価〉

・本校では地震に関する知識や理解を深め、防災意識を高めるために3年生の選択教科で「新庄地震学」を行って11年目となる。取り組んだ成果を地域にわかりやすく発信することに重点をおいて、近隣の幼稚園・小学校・公民館(地域)の協力を得ながら取り組みを進めてきており、地域に一定の貢献ができています。また、本年度は新聞社やテレビ・ラジオ局からの取材や、防災に関する全国規模での発表会やミーティングへの参加要請が多数あり、関係機関から注目を受けていると言える。

・昨年度末のことになるが、3月11日、東日本大震災による大津波警報を受けて避難してきた地域住民への生徒の対応ぶりに、長年の地震学の取り組みの成果を感じることができた。2学期には、小学生や地域住民との合同避難訓練を実施することもできた。互いに防災意識が高まってきていると思われる。

・地域学習では、地域住民の積極的な協力を得て地域に密着した学習ができた。地域とのふれ合いが深まり、地域を知るとともに、生徒の心に地域への愛着や誇りが育まれていくであろうよい取り組みだと考えている。

##### 〈次年度に向けての取り組みの方向〉

・テーマや内容を改善しながら、公民館を窓口にして地域と連携・協力し、地域防災の観点を大切にして、より実践につながる取り組みを進めていきたい。

・公民館などと実施の時期や内容について細かく打ち合わせを行い、緊急時に役立てる学習にしていく。

・今後発生すると予想される大地震に対しての防災意識を高め、地域全体に発信する取り組みにしていく。

・調べ学習や実験・制作・発表会を充実させることにより、さらに保護者・地域・関係機関と連携した取り組みにしていく。

・地域学習では、範囲を新庄地域内から、田辺市、そして和歌山県へと広げていく方向も考えたい。



保育実習(わんぱく保育所)

## 学社融合活動実施報告

学校名	上芳養中学校	公民館名	上芳養公民館								
学社融合における学校・地域の様子											
<p>本校では育友会をはじめ、公民館・町内会・敬老会など地域との連携を深める取り組みをいくつか行っている。今年度は上芳養地域にある保育園・小学校・中学校・公民館・第二のぞみ園との話し合いの場をもち、連携を図り、交流を深めた。また、参観日以外の学校開放週間・体育大会・文化発表会・共有ミニ集会には保護者だけでなく地域の方々にも来校し、学校の様子を見てもらっている。</p>											
活動名	パッチワーク教室	学年・教科・領域等	3年 家庭科								
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達自身が「自ら学び、考え、行動する」ことで、豊かな人間性の育成を図る。</li> <li>目標に向け、根気よく努力する生徒の育成を図る。</li> </ul>									
	公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習の成果活用を提供し、地域の教育力の活性化を図る。</li> <li>中学校と地域の掛け橋となり、地域の教育力の活性化を図る。</li> </ul>									
支援者及び支援組織 上芳養公民館・上芳養中学校											
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>日程</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5月12日(木)</td> <td>                     本年度の学社融合事業について公民館・中学校との打ち合わせ                      ・本年度は陶芸教室に加え、パッチワーク教室を行うことで意見が一致した                      ・対象学年を3年生に決める                      ・講師依頼、材料・道具の確認                      ・公民館との日程の調整                 </td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>・公民館・中学校・講師による最終打ち合わせ</td> </tr> <tr> <td>10月31日(月)</td> <td>                     ・13時20分～15時10分                      講師 越内さん                      補助教員 前田 早苗(家庭科担当)                      参加者 3年生全員                      場所 上芳養中学校 技術科室                 </td> </tr> </tbody> </table>				日程	内容	5月12日(木)	本年度の学社融合事業について公民館・中学校との打ち合わせ ・本年度は陶芸教室に加え、パッチワーク教室を行うことで意見が一致した ・対象学年を3年生に決める ・講師依頼、材料・道具の確認 ・公民館との日程の調整	9月	・公民館・中学校・講師による最終打ち合わせ	10月31日(月)	・13時20分～15時10分 講師 越内さん 補助教員 前田 早苗(家庭科担当) 参加者 3年生全員 場所 上芳養中学校 技術科室
日程	内容										
5月12日(木)	本年度の学社融合事業について公民館・中学校との打ち合わせ ・本年度は陶芸教室に加え、パッチワーク教室を行うことで意見が一致した ・対象学年を3年生に決める ・講師依頼、材料・道具の確認 ・公民館との日程の調整										
9月	・公民館・中学校・講師による最終打ち合わせ										
10月31日(月)	・13時20分～15時10分 講師 越内さん 補助教員 前田 早苗(家庭科担当) 参加者 3年生全員 場所 上芳養中学校 技術科室										
											

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と中学校の連携の一端を、公民館を通して推進することができた。</li> <li>・子どもたちが自ら学び・考え・行動することができた。</li> <li>・授業ではなかなか出来ない専門的な部分の活動を体験することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度初めての取り組みだったため、十分な準備と計画ができなかった。</li> <li>・来年度はさらに連携を深め、他の教科や活動にも範囲を広げていきたい。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の講師を招くことにより、子どもたちにも新しい発見が多かった。</li> <li>・友達同士で教え合うことにより、自主的・主体的に活動することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動時間が少なかったなので、もっと綿密に計画していきたい。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段、日常では体験できないような、創造的な取り組みを体験する良い機会である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業のみでなく、地域の催しやイベントにも積極的に参加し、故郷の一員であるという自覚をもってもらいたい。</li> </ul>
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人材を講師として活用し、その特異な能力や技術を発揮できるような場の提供ができたことは、学校と地域の橋渡しという意味ではよかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や地域住民の関わりが弱いのが現状である。子どもは家庭と学校、地域が一体となって育てるという意識を高めていく必要がある。</li> </ul>

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

本年度の新たな活動として「パッチワーク教室」を計画し、「自ら学び・考え・行動する」ことを大きな目標として取り組んだ。そこで得た体験や知識が、「各自の今後の生活の中で、必ず生きた体験として、どこかでつながる部分があって欲しい」と願う主催者側との共通理解の上で取り組むことができた。また、活動を通して生徒たちに何かしらの思いや感情を抱かせることはできたが、その思いが郷土愛を育てるきっかけの一つとしてとらえられる生徒が一人でも多くみられることを願いたい。次年度も、保育園・小学校・中学校・公民館・第二のぞみ園はもちろんのこと、家庭や地域の皆様のご協力を頂きながら生徒たちのさらなる成長を図っていただきたいと思います。

学社融合活動実施報告

学校名		田辺市立中芳養中学校	公民館名	中芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>本校では、「学校・家庭・地域が一体となって取り組む豊かな心の育成」をテーマに学社融合の研究実践に取り組んでいる。</p> <p>この取り組みは、公民館、地域福祉施設、田辺市福祉協議会をはじめ田辺市在住の方々のご協力により推し進めている。</p> <p>また、これらの取り組みは保護者や地域の方々の積極的なご参加をいただくとともに、生徒たちは、その成果を本校の文化祭である「中芳養祭」において劇、合唱、作品展示、プレゼンテーション発表、ポスター掲示等の様々な形態により発表している。</p>				
活動名			学年・教科・領域等	
共にはぐくむ「豊かな心」			全学年・総合的な学習の時間	
目標	学校	豊かな心・生きる力を育てる活動を研究テーマの柱とし、豊かな感性と広い心を持つ心豊かな生徒の育成を目指す。		
	公民館 (地域)	地域の方々の積極的な交流を行い、学びや人を大切にする地域づくりを目指す。		
支援者及び支援組織				
中芳養公民館、芳養の里、田辺市社会福祉協議会、地域老人会(芳寿会)、JA紀南中芳養支所、田辺市消防本部、田辺市在住の方々				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
月	日	活動内容・ねらい等		
5	19	和の心の授業(1年 書道…和の意味と書道の心得、作品作成にあたっての説明)		
6	7	福祉体験学習(3年 障害者理解①…障害を持つ方への理解と今後の学習について)		
6	14	梅勤労体験学習(全学年…地場作業の梅の収穫体験学習)		
6	16	和の心の授業(2年華道…華道の心得と作品づくり, 3年茶道…茶道の心得と茶道体験)		
6	23	福祉体験学習(3年 アイマスク体験…視覚障害者の方のご講話とアイマスク体験)		
6	23	和の心の授業(1年 書道…作品づくり)		
6	24	キャリア教育学習(2年…職業従事と今後の進路計画について)		
7	1	防災学習(全学年 火災や震災から身を守る方法と実際と現地の様子について)		
7	7	福祉体験学習(3年 障害者理解②…障害を持つ方への介助方法について)		
7	14	福祉体験学習(3年 車椅子体験…車椅子への介助方法について)		
8	6	中芳養夏祭り(全学年 夏祭りの運営と中学生ブースの担当)		
8	23	芳寿会との交流学习(2年 平和学習…地域老人会の方による平和学習)		
9	18	体育祭(全学年, 保護者, 地域の方々…公民館種目による学校, 保護者, 地域の交流)		
9	30	陶芸教室①(全学年, 保護者…陶芸作品の作成)		
10	2	陶芸教室②(保護者, 地域の方々…陶芸作品の作成)		
10	6	和の心の授業(1年 書道…作品づくり)		
10	20	和の心の授業(2年 華道…作品づくり, 3年 茶道…茶道体験)		
10	27	福祉体験学習(3年 芳養の里交流学习…地域福祉施設での介護実習と交流学习)		
11	10	和の心の授業(1年 書道…作品づくり)		
11	11	合唱コンクール(全学年…コンクールと全校合唱)		
11	24	和の心の授業(3年 茶道…茶道体験)		
11	25	和の心の授業(2年 華道…作品づくり)		
11	26	和の心の授業(1年 合唱…中芳養祭に向けた合唱サークルの方々との合同練習)		
11	27	中芳養祭(全学年, 公民館, 保護者, 地域の方々…これまでの取り組みの成果を様々な形態で発表)		

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の多くの方々のご支援を得ることにより、生徒の姿を地域の方々にご理解いただく手立てとなった。</li> <li>・生徒の内面的な部分へのアプローチを、様々な方々から、様々な手立てによってご指導いただいた結果、より高い心の成長を図ることができた。</li> <li>・公民館活動を展示発表することにより、生徒や保護者の公民館への理解が深まった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの方々を講師としてお招きするため、時間を調整することが難しいときがある。</li> <li>・発表方法が多様なため指導に時間がかかる。</li> <li>・内容の精選と指導時間の確保を考慮しておく必要がある。</li> <li>・公民館との協力体制を密にしていきたい。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の気持ちを相手の方にどのようにして伝えるかを学ぶことができた。</li> <li>・また、ボランティア精神や働くことの大切さ、命や物を大切に作る心が育ってきた。</li> <li>・中芳養祭ではこれらによって培った相手をもてなす気持ちで活動できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いを相手に伝えるための表現方法をどのように工夫するかを考える必要がある。</li> <li>・発達段階に応じた「相手をもてなす」という気持ちの表し方を考慮することが必要である。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な機会に公民館と触れあい、公民館を身近なものとして捉えてくれるようになった。</li> <li>・地域の方と交流する機会を提供でき、地域をより深く知ることに繋がった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事のときだけでなく、日常的に地域の大人と触れ合い、挨拶など、積極的にできるよう促していきたい。</li> </ul>
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育祭、中芳養祭などを通じて、地域の多くの方に公民館活動をPRでき、共通理解を深めた。</li> <li>・地域の方が学校に足を踏み入れることで、学校の様子、子供の様子を地域の方が知ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と公民館の連携をより密にし、組織的に行事運営等を進めていきたい。</li> <li>・地域諸団体を含めた広域的な行事展開を意識し、参加に余り積極的でない人も、取り組んでいけるような運営を心がけたい。</li> </ul>
<p>評価及び次年度に向けての取り組みの方向</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「共にはぐくむ豊かな心」の実践では、多くの方々や関係諸機関にご協力を得ることにより活動することができた。そして、これらの活動を通して、学校、保護者、地域が一体となって生徒の活動を支援して行こうという意識が高まった。</li> <li>・体育祭では今年度初めて公民館種目を取り入れ、学校・保護者・地域の方々との交流を深める機会となり、多くの方々が生徒とふれあっていたことができた。その結果、日常生活においても生徒との交流をしていただくきっかけとなり、生徒の心の発達を促していただくことに繋がった。</li> <li>・中芳養祭(文化祭)での発表の一つに公民館主事による公民館活動を紹介したポスター発表をお願いしたところ、多くの生徒や保護者へのアピールとなった。</li> <li>・「共にはぐくむ豊かな心」の実践は、本校生徒が遅く心豊かに育つために心を耕す良い機会となっている。しかしながら、多くの方々のご協力を得る必要があるため、外部講師の方々との日程調整をどのように取っていくかが課題になる。</li> </ul> <p>また、次年度からは、「総合的な学習の時間」の減少による時間の確保を考慮していかなければならない。そのためにも、次年度は公民館との連携を踏まえた取り組み方向を考えていきたい。</p>		

学社融合活動実施報告

学校名		上秋津中学校	公民館名	上秋津公民館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>梅・柑橘類を中心とする専業農家が大半を占める農村地帯であったが、宅地化が進み交通の便もよいため、他地域からの転入者も増えてきた。教育に高い関心を持ち、地域に対する誇りと郷土愛にあふれる土地柄である。</p> <p>また、農事体験学習における実行委員会組織(公民館主事・町内会長・JA・きてら・ガルテン・中学校職員)や、愛郷会などが本校教育活動を支えてくれている。</p>				
活動名		ジュニアあきつの塾	学年・教科・領域等	2年生(地域学習)
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上秋津小学校における「キッズあきつの塾」をさらに進め深め、地域に根ざす「あきつの塾」へとつなげる。</li> <li>・地域の歴史・伝統・文化・産業を学習する中で、所属意識を高め私たちが受け継ぎ次につなぐんだという思い、郷土を大切に誇りを抱いて行動する生徒を育成する。</li> </ul>		
	公民館(地域)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民や事業所にご協力をいただき、地元の産業や働くことの意義、そして地域への思いを次世代へ伝え、郷土を愛する心を育む。</li> <li>・子どもたちの活動に積極的に関わっていただくことで、地域の連帯感(絆)と教育力を高めていく。</li> </ul>		
支援者及び支援組織				
上秋津公民館 あきつのガルテン JA中芳養				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
5月				
「食品加工について」 JA中芳養 地域で収穫された農産物が、どのような行程で加工されていくのか、工場見学をした。				
6月				
「あきつのガルテン立ち上げの経過と施設見学」 あきつのガルテン 講義を聴き、施設見学を行った。この学習を通して、地域の方の地域に対する思いや未来を自分たちの手で作り上げていこうとする意気込みを感じ、自分たちに何ができるかを考えた。				
10月				
「小物作り」 あきつのガルテン どんぐりなど地域の自然産物を材料にしてクリスマスの飾り物などを製作した。ガルテンの方に作り方を教えてもらう中で自然の大切さや温かさにもふれた。				
5月 12月				
「『老人福祉施設あきつの』との交流」 老人福祉施設あきつのに出向き、窓ふきや枝の剪定など職員の方たちが手が届かない箇所の清掃を行った。 また、12月には、クリスマス気分を味わってもらうためにリコーダーの演奏や合唱を披露した。				

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員が地域の歴史や文化・産業、この地にすむ人たちの思いを今まで以上に深く理解する機会となった。</li> <li>・様々な取り組みを通して、学校と地域の連携が深まった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材として価値のある題材がたくさんあるので、今まで以上に積極的にゲストティーチャーを活用したいと思う。そのための人材確保に力を入れたい。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校内や教師との関わりだけでは得られない話やふれあいを通じて、地域理解が深まった。</li> <li>・地域に生きる自分に気づくとともに、ここに住む人々の思いや生活を感じ取った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や家庭における社会体験や自然体験がどんどん減少している現状があるので、様々な体験をさせてやりたい。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の産業、文化、人々の暮らしを理解することができた。</li> <li>・人々がどんな思いで地域に住み続け、地域を活性化していこうとしているのか理解することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域への関心と理解をさらに深め、ふるさとを愛する心を養い、自分たちに何ができるのか、考えていただきたい。</li> <li>・今後も地域活動や行事にも積極的に参加し、住民との交流に努めていただきたい。</li> </ul>
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の活力を高めるための取り組みについて、子どもたちに知っていただく良い機会となった。</li> <li>・次代を担う子どもたちとの交流を通して、地域と学校のつながりの大切さについて、改めて感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの地域学習と要望に応えられるよう、公民館としても人材のほか、より多くの地域情報をストックできるように努めていきたい。</li> </ul>
<p>評価及び次年度に向けての取り組みの方向</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方の学校や教育に対する関心のおかげでさまざまなゲストティーチャーに指導していただくことができた。</li> <li>・昨年度は「あきつのはるの過去・現在・未来」、今年度は「あきつのはるの衣食(職)住」というテーマで取り組んだ。話を聞かせてもらう、教えてもらうというインプットの段階から、今の自分たちに何ができるのかを考え行動するアウトプットの段階へと進めていきたい。</li> </ul>		

学社融合活動実施報告

学校名		秋津川中学校	公民館名	秋津川公民館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>秋津川中学校は、秋津川小学校と同じ敷地内に隣接して廊下でつながり、運動場や体育館、プール等を共用しながら学校生活を送っている。児童・生徒間でも教職員間でも交流が行われ、小中連携が進んでいる。生徒同士の人間関係もよく、保護者や地域の人々にも、子ども達を見守り育てていこうとする連帯意識が強い。</p> <p>学社融合の取り組みによって、子ども達が地域の方々と触れ合うことで、視野を自分のみから地域へと広げて考えられるようになるとともに、備長炭等の優れた地域の文化を学び、炭琴の演奏を披露することで、地域に誇りをもち、地域の方々も学校行事や子ども達との活動を仲介として、地域内の交流が活発に行われ、コミュニティとしてのまとまりが保持され、各種お祭り行事等、秋津川地域としての文化の形成・継承が行われている。</p>				
活動名		秋津川ふるさとまつり	学年・教科・領域等	全学年 (国語・社会・数学・理科・英語・音楽・総合)
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人たちとのふれあいを深め、地域を知るとともに地域の良さを発見し、地域を愛し、地域を誇りに思い、大切にすることを育てる。</li> <li>・炭琴演奏を全員で行うことで、生徒各々が責任を自覚し、発表力を高める。</li> <li>・授業を公開することで、秋津川中学校を地域の方々に知ってもらい、開かれた学校づくりを進める。</li> </ul>		
	公民館(地域)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に暮らす人と人、子どもたちとを繋ぐ交流の場を設け、ふるさとを愛する心を育み、お互いの連帯感を高める。</li> <li>・地域と学校が連携・協力して行事を創り、秋津川地区の活性化を図る。</li> <li>・地域住民に子どもたちの活動に目を向けてもらい、より健全育成に関心を持っていただく。</li> </ul>		
支援者及び支援組織				
秋津川小中学校育友会、秋津川公民館、秋津川町内会、秋津川振興会、JA紀南上秋津支所秋津川店 JA女性会、秋津川婦人会				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
<p>○ 6月21日(火) 平成23年度第1回公民館協力委員会 平成23年度秋津川公民館事業計画の提案・承認、役員の選出 第27回ふるさとまつり 11月20日(日)開催 決定</p> <p>○ 8月30日(火) 平成23年度第3回公民館協力委員会 ふるさとまつり 開催日時の確認(11月20日(日)) 農林産物品評会へ出展の呼びかけ・お願い</p> <p>○10月26日(水) 平成23年度第4回公民館協力委員会 ふるさとまつり 運営について協議 準備・片付けの分担や、当日の役割、当日のイベント日程等を決定</p> <p>○11月18日(金) 生徒の作品等の飾りつけ、炭琴演奏等の準備 ○11月19日(土) 地域の方々による会場設営並びに農林産物品評会等 ○11月20日(日) ふるさとまつり当日 1、2限は公開授業(地域の方々に自由に授業を参観してもらう) 3、4限はふるさとまつりに参加。炭琴演奏を披露 演奏曲目「涙そうそう」「島人ぬ宝」合唱「炭琴の歌」 5限も公開授業</p> <p>※昼食は、婦人会の方々が作ってくださった「おにぎり」と「五目寿司」をいただきました。</p>				

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の多くの方々が「ふるさとまつり」に来校し、秋津川小・中学校を身近に感じ、児童生徒の様子を知ってもらいよい機会となった。さらに、炭琴演奏を披露することで、秋津川中学校の地域に根ざした教育活動の一端を知ってもらいよい機会となった。</li> <li>・予想以上の方々が授業を見て下さり、少人数を活かした丁寧な授業をほめて頂いた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方にとってメインはふるさとまつりであるが、多数の人々が授業参観をしてくれた。来年度はもっと多くなるよう時間帯やPRに努めたい。</li> <li>・炭琴の演奏を披露する機会が多く、全校生徒による演奏は初めての取り組みであるが、11月の文化祭向けいい経験を積んでいける。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段の学校生活は少人数で過ごしているため、大勢の人を前に発表するという、貴重な体験を積む機会であった。</li> <li>・地域の催しへ参加することで、地域の一員としての連帯感や自覚を促すきっかけとなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒数が少なく一人一人の負担が加重になりやすいが、ともすれば消極的になりやすい中学時代に、地域からは大切にされているという実感を持ち、それぞれに役割分担をし、責任感を高めるようにしたい。</li> <li>・このような体験を通して、地域に対して、自分たちは何ができ、何をすべきかを考える主体的な態度を育てたい。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品展や炭琴演奏などを通して、自分たちの取り組みの成果と地域づくりに関わっている姿を多くの来場者に見ていただくことがた。</li> <li>・自分たちを含め、多くの地域住民が協力して開催しているこの行事を通して、保護者以外の方との交流も深まり、ふるさとの良さを再確認することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからもこのような地域行事や活動に積極的に関わって、より多くの方々と交流し、色々なことを吸収して、社会性を高めていただきたい。</li> </ul>
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・27回目となるこの行事も、学校と地域が協力して盛況に開催することができ、地域内外の方々にも秋津川の活力を感じ取っていただけた。</li> <li>・多くの来場者に地区の産業・伝統文化、そして、学校や子どもたちの取り組みに触れていただく良い機会となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢、過疎化の進む地域にとって、このような人々が集う交流行事が益々重要になってくると思われるので、継続して開催していただけるような運営体制や、多くの方が参加していただけるよう、学校ほか各種団体とも連携しながら、内容等を考えていきたい。</li> <li>・行事をさらに盛り上げていくために、子どもたちの声を取り入れたり、世代間で交流ができるようなイベント内容なども検討してみたい。</li> </ul>
<p>評価及び次年度に向けての取り組みの方向</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例年になく授業を見て下さる方が多く、「少人数の授業がきめ細やかでとても良かったです。」「先生との信頼関係が何われました。」等、少人数故、一人ひとりに目の行き届いた授業の良さをほめていただいた。</li> <li>・全校生徒で取り組んできた炭琴の合奏は、「涙そうそう」「島人ぬ宝」の2曲であったが演奏機会が多く、生徒たちもずいぶん上達した。炭琴サークルの方々からもほめていただいた。生徒たちも上達を実感し、自信につながり、各自の責任感も高まったと思われる。</li> <li>・このような機会は大勢の人前で発表できる大変良い機会であり、生徒たちにとって貴重な体験の場となった。大勢の場で発表する機会を大切にしたい。</li> <li>・このようなとても良い機会であるが、今後授業時数との関わりで練習時間をどう確保するかが問題となってくるが、是非維持していきたいものである。</li> <li>・生徒達は、このようなイベント等により、地域の一員としての自覚をはぐくみ、地域での役割や責任を認識していている。授業時数との関わりをうまくクリアーしながら続けていきたい。</li> </ul>		

学社融合活動実施報告

学校名	衣笠中学校	公民館名	三栖公民館・万呂公民館
-----	-------	------	-------------

学社融合における学校・地域の様子

本校では、学校が抱える教育課題を積極的に家庭・地域に訴えることにより、課題を共有化し、学校と地域が共に子育てに関わっていきこうとする地盤が確立されている。さらに取組を深化させるために、生徒と関わってくれる多くの人たちとの交流が一時的なものにならないように取組を系統立てたものになっている。

地域の人たちとの体験活動を通して、生徒は好ましい人間関係のあり方を学び、人を思いやる豊かな人間性を身に付けつつある。

活動名	みんなが輝こう みんなで輝こう	学年・教科・領域等	全学年 総合的な学習の時間・美術科・技術科
-----	-----------------	-----------	--------------------------

目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然や地域の人々とのふれあいを大切に、地域社会の一員としての自覚を持たせ、地域に貢献する態度を育成する。</li> <li>・地域を知り、たくさんの人やものとの出会いから、心を育て、生き方を学ばせる。</li> </ul>
	公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学社融合の事業を行うにあたり、地域の方の協力を得たり、学校に人材を紹介する。</li> <li>・生徒が作った作品の発表の場を提供する。</li> </ul>

支援者及び支援組織  
三栖公民館・万呂公民館・JR紀伊田辺駅・JA三栖等地域団体・地域住民

取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)

1. 地域を知って、地域の良さを発信する活動
  - ① 地域産業の学習（梅農業体験等） <総合的な学習の時間>
  - ② 地域を誇る作品づくり・生徒作品展の開催 <美術科>
    - ◆ 地域の素材を使用した作品 … 地域企業、地域住民から提供された梅枝・種、備長炭を使つての制作  
\*「梅・地域の良さアピールポスター」(1年)「田辺のスペシャル工芸品」(2年)「梅キャラクター」(3年)
    - ◆ 導入：地域住民と共に地域の良さを語る会 … 公民館の紹介による講師、県農林水産試験場講師招聘
    - ◆ 作品展：7月30日～8月17日 JR紀伊田辺駅 改札口、8月18日～11月7日 三栖コミュニティセンター
    - ◆ 取組のねらい：生徒の郷里への思いを深めながら取り組んだ作品を、地域の人、駅を訪れる旅行者など田辺市以外の人にも広く味わってもらふ。郷里の良さを知ってもらふ。
    - ◆ 情報発信：「食育情報館 まるかじり！和歌山」(県委託事業所)との連携で、取組をネット発信
2. 公民館を通じた学校と地域の連携の取組
  - (1) 地域の方のモデルによる授業の実施 <美術科>
    - ◆ モデルの募集…公民館報・公民館内でのポスター掲示で協力の呼びかけ（6月～）
    - ◆ 講師依頼、打ち合わせ
    - ◆ スケッチの授業の実施（9月、12月）
  - (2) 交流の場としての三栖幼稚園庭の花園作り <技術科・総合的な学習の時間>
    - ◆ 地域への協力の呼びかけ
    - ◆ 幼・中・地域住民による作業の実施（3学期）



「JR紀伊田辺駅での生徒作品展の様子」



	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との関わりを体感する様々な取組を通して、郷土愛が生まれ、自分たちがこの地域で生きているということを実感させることができた。</li> <li>・地域の方から、学校内や教師との関わりとは違ったアプローチを受けることで、人の温かさ等を感じるとともに、コミュニケーション力を高めることができた。</li> <li>・教職員の地域や社会に対する認識が深まり、さらなる連携への意識が高まった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方々との関わり・交流を通して、生徒の規範意識をさらに高めていきたい。</li> <li>・今後とも積極的に地域、外部講師とのつながりを深め、より一層子どもや学校に関心をもってくれる人を増やしたい。</li> <li>・学校としても、地域に対して様々な角度で関わる機会を増やしていきたい。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より多くの大人との関わりを持つことにより、多様な価値観を知り、社会性を身につける機会となり、子どもたちの成長に大きなプラスとなった。</li> <li>・活動を通して多くの方に認めてもらうことで、自信を持ち、地域への愛着を深めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が自主性を高め、主体的に企画・運営できるような取組が必要である。</li> <li>・地域の一員として自覚し、継続して地域に貢献できるようになる。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三栖地域の特産品である梅の農業体験をすることにより、普段、何気に見ている梅畑や、食べている梅干に対する見方が変わってくるのではないだろうか。農家の方の大変さや、農家の方に対する感謝の気持ちが高まったのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒にとっては、勉強に加えて、地域のことを知ったり、体験することが将来のためになると考える。</li> </ul>
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館報やポスター掲示を通して、美術科のモデルの募集を行うなど、地域と学校との橋渡しの役割を行うことができた。</li> <li>・生徒の作品を三栖公民館に展示することで、地域の方にも鑑賞していただくことができ、発表の場を提供することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に三栖地域のことをもっと知ってもらい、地域のことを体験してもらうために、公民館として、地域の方の協力を得、地域で子どもを育てていきたい。</li> </ul>

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

本校では、「生まれ育った地域について学び、地域への愛着の気持ちや、地域に貢献したいという気持ちを育てる」という目標を掲げ、様々な取組を進めている。

この目標実現のためにも、さらに公民館との連携を深め、子どもたちにとって有効な活動に発展させられるような企画・運営をしていきたいと考えている。学習したことを情報発信していくという意味で、今回JR田辺駅・公民館での地域を誇る生徒作品展を開催したが、さらに発展させ、次年度は修学旅行での地域アピールの取組も子どもたちと共に企画しているところである。真の学社融合をすすめるために、学社融合活動の必要性を全職員が感じ、今後も公民館と協議・検討する時間を増やし、様々な取組を発展させていきたい。また、保護者・地域住民にも積極的に学社融合活動への関わりを強めてもらい、子どもたちの礼儀・マナー等の規範意識向上も含めた有意義な活動につなげていきたい。



「地域の方のモデルによる授業」

「梅レンジャー参上」  
(文化発表会にて)





	成 果	課 題
学 校	昨年まで行っていたお茶摘みの体験から、新たに今年はこんにやく作りを体験した。こんにやく作りはあまり体験できる機会もなかったため、生徒も興味を持って楽しく体験できた。こんにやく芋を育てる大変さやコンニャクの作り方を学習し、最後には作りたてのコンニャクのさしみも試食でき、食についての知識も深めることができた。また作業中など、指導して頂いた地域の方ともいろいろな会話を交わすことができ、交流を深めることができた。	こんにやく芋は育てるのに数年かかり、今回は指導頂いた方々から提供して頂いた。説明だけでは育てる喜び、難しさを、生徒に十分伝えるのは難しい。 最近はお茶やこんにやくは、田舎でも製品を買ってくるのが多く、昔ながらの自家製は貴重になっている。どちらも貴重な体験であり、他の行事等と時間数を調整しながら、是非とも存続する方向で検討していきたい。
* 子どもにとって	生徒の感想 私は、コンニャク作りは初めてで、地域の方がやさしく教えてくれたのでよくわかりました。こんにやく芋はすぐにできず、できるまでに3、4年かかると聞いたのでびっくりしました。勉強になったので良かったです。コンニャク作りは手でこねる作業がしんどかったけど、こんにやくが柔らかかったのが楽しかったです。	本当はこんにやく芋づくりから始め、すべての行程を行いたいところであるが、年数や時間がかかるなどで一部の体験のみに終わるのが残念。これはどの体験学習にもいえることであるが…
* 子どもにとって	・子どもにとって、長野地域でコンニャク芋が作られていることを知り、手にとって、コンニャク芋からコンニャクが作られていることを知れたことがよかったと思う。コンニャクになるまでの工程を体験し、勉強になったと思う。	・現在の子どもにとっては、回りに加工品があふれていて、それが一体何から作られているのかわからないことが多いと思うので、今回の体験のような活動は今後必要ではないか。
地 域 (公民館)	・大人でもなかなか体験することがないコンニャク作りを中学生の時に体験することは、子どもにとって大変貴重な経験であると思う。コンニャク芋を提供してくれたり、作り方を教えてもらったり、地域の方の協力がなければできない体験であった。	・今回、初めてコンニャク作り体験を行ったが、ほかにも地域の方の協力を得てできる活動があるのではないか。今後、公民館と学校がより一層連携し、地域とのつながりを深めていきたい。
評価及び次年度に向けての取り組みの方向		
<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方々と協力してふれあいながら活動を行うということは、中学生に、地域への帰属感をいだかせるうえで大変有意義な取り組みであるとともに、地域の文化を継承し心豊かな人間の育成にも、大変有意義である。</li> <li>・地域の方々にとっても、学校便りで活動の様子を知るよりも、直接学校での活動や生徒の様子を目にすることで、学校への理解も深まったと思う。また、こんにやく作りだけでなくわら草履づくり、菊祭りなどで若い中学生と触れあう機会を、みな喜んでくれている。</li> </ul> <p>次年度にむけての取り組みの方向</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校が行っている体験学習は大変バラエティーに富んでいて生徒たちの「豊かな心」を育む上で非常に有効であるし、新学習指導要領にも「生きる力」を育む「豊かな体験」が唄われているところである。今後も授業時数を確保しながら、有意義な、地域に根ざした「体験活動」を学社融合の柱に据え、効果的な実施に向け方法等を公民館との協力の下進めていきたい。</li> </ul>		

学社融合活動実施報告

学校名		田辺市立龍神中学校	公民館名	龍神公民館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>地域の人と接することで、地域を知り、地域に学ぶという「ふるさと学習」(龍人学)を元にして、「自然・環境」「歴史・文化」「産業」「福祉」の4つの分野において、それぞれの発達段階に応じて特色ある実践活動を展開する取り組みをしている。具体的な取り組みは ①「学校だより(夢抱き)」の校区全戸(約1700戸)への配布 ②体育大会、文化祭等の学校行事への参加の推進 ③ボランティア活動の推進 ④地域行事への中学生の積極的な参加 ⑤職業体験活動の実施 ⑥外部講師(ゲストティーチャー)の活用等を行っている。</p>				
活動名		学校だよりの配布・ボランティア、リサイクル活動・地域行事への参加・外部講師の招聘	学年・教科・領域等 全学年、学年、総合、特活、教科、学校行事	
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会の中で、子どもたちの豊かな人間性、社会性を養う。</li> <li>・活動を通して地域の方々との交流を図り、地域の文化や、地域を愛する心情を養う。さらに、地域の教育力を生かした様々な活動に発展させていく。</li> <li>・ボランティア活動やリサイクル活動を通して、地域の環境美化・保全の意識を高める。</li> </ul>		
	公民館(地域)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域を担う人材を育成する。</li> <li>・地域の人材からふるさとを学ぶ機会を提供する。</li> <li>・生徒との交流を通して、地域団体の活性化を図り、生きがいを見出す。</li> </ul>		
支援者及び支援組織				
龍神地域各地区、龍神公民館、龍神中学校PTA、学校評議員、社会福祉協議会、西牟婁振興局、市・環境課、龍神行政局、県環境学習アドバイザー、龍神小唄保存会、龍神森林組合 等				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
5/19 1年 リサイクル学習 (市・環境課)				
6/12 第1回 リサイクル活動 (旧龍神村3中学校を拠点に実施)				
6/16 1年 「食」に関する指導 (咲楽小 栄養士)				
7/18 地域清掃ボランティア活動の全体計画(日程・内容など)についての打ち合わせ				
8/1~3 2年 職場体験学習				
8/22 地域清掃ボランティア活動				
9/1 全校道徳 (石田 ゆうすけ氏)				
9/25 小学校運動会に参加 (全校、出身小学校へ参加)				
10/4 村民文化祭の打ち合わせ				
10/15 全校 福祉学習 (社会福祉協議会)				
10/18 3年 講演会「マグロ完全養殖」について (近畿大学水産研究所)				
10/26 2年 「食」に関する指導 (咲楽小 栄養士)				
10/27 1年 林業教室 (藤本 花子氏、西牟婁振興局林務課)				
10/30 第2回 リサイクル活動 (旧龍神村3中学校を拠点に実施)				
11/1 全校道徳 (松本 奈津子さんコンサート)				
11/3、6 荒島神社、皆瀬神社 祭礼。丹生神社 祭礼。				
11/18 村民文化祭 準備				
11/19~23 村民文化祭 美術作品展示 (全校)				
11/23 村民文化祭 舞台発表 3年「混声二部合唱」で参加				
12/14 1年 郷土料理体験 (坂井屋旅館)				
12/16 1年 道徳 B29 (古久保 健氏)				
12/16 3年「裁判員制度」についての学習 (和歌山弁護士会)				
12/22 校区内の高齢者(65歳以上一人暮らし)の方にお手紙を書く。(田辺市社会福祉協議会、龍神行政局)				
12/24 虎ヶ峰清掃作業 (全校)				
1/24 3年 「食」に関する指導、調理実習 (咲楽小 栄養士)				
2/7 2年 環境学習「草木染め」(奥野 佳世氏)				
2/13 1年 環境学習「糸紬ぎ」(奥野 佳世氏)				
2/14 全校 伝統音楽体験 (龍神小唄保存会)				
2/25、26 宮代文化祭 美術作品展示				
2/26 第3回 リサイクル活動(旧龍神村3中学校を拠点に実施)				
3/16 1年 林業体験学習 (龍神森林組合)				
4月~3月 学校だより「夢抱き」の手渡し配布活動				

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や地域の方に学校の様子や活動をより多く知ってもらうことができ、地域の学校としての意識をより高めることができた。</li> <li>・活動に対して大勢の方に協力していただくことができ、学校と地域の関係を密にすることができた。</li> <li>・講師(ゲストティーチャー)招聘により幅広い分野の学習をすることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と地域の関係をより密にし、地域の教育力をより生かした活動計画を立てていく。(幅広い分野にわたった取り組み。)</li> <li>・地域の方々の協力により、自分たちの教育活動が成り立っていることを自覚させるとともに、地域の方々への感謝の気持ちを育成する。</li> <li>・地域の方への挨拶や交通ルール、マナーを向上させる。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の大勢の方々の協力により、さまざまな活動ができ、より大きな達成感を味わうことができた。</li> <li>・環境美化・保全への意識を高めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方に感謝する心や、これらの取り組みが貴重な体験であるということを感じてもらいたい。</li> <li>・地域の行事や活動に積極的に関わって、より多くの方と交流し社会性を高める。</li> <li>・地域の方への挨拶や交通ルール、マナーを向上させる。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域にある組織や団体がゲストティーチャーとして学校に入ることにより、地域で活躍している方から直接話しを聞けることは、子ども達にとっても意義深い学習になっている。</li> <li>・地域の方と活動を通して交流を深められた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が学社融合活動で学んだことや経験を地域や今後の人生の中で活かしていけるよう大切にしてほしい。</li> <li>・地域で活躍できる生徒の育成</li> </ul>
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方が学校に出向くことにより、学校活動に対する関心が高まり、保護者以外の地域の皆さんにも「地域の学校」として、学校活動に協力いただいている。「学校だより」を手渡しで配布することにより、校区の住民がより中学校の取り組みに関心を持つようになっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学社融合活動をスムーズに行うために、地域コーディネーターの育成が必要。(講師さがしなど地域の人を良く知る人材の確保)</li> <li>・公民館教室やサークルの人材活用。</li> </ul>

#### 評価

- ・学校だより「夢抱き」の校区(約1700戸)への手渡し配布を、年間を通じて行うことができ、学校での活動を地域に発信することができた。
- ・体育祭や文化祭に、保護者だけではなく大勢の地域の方々に参加していただくことができた。
- ・村民文化祭の舞台発表や美術作品の出品、宮代文化祭への美術作品の出品において、大勢の地域の方に鑑賞していただくことができた。
- ・祭礼の和太鼓や笛の演奏などに、積極的に参加することができた。
- ・リサイクル活動には、保護者や地域の方共に大変協力的で、たくさんの古紙、古着などの提供や回収等をしていただくことができた。
- ・清掃活動では、地域の方々にいろいろ教えていただきながら作業をするなど、異世代の方との交流を深めることができた。
- ・虎ヶ峰清掃作業の活動を通して、学校が地域にとってより身近なものになった。
- ・外部講師(ゲストティーチャー)の招聘により、幅広い分野の体験や学習をすることができた。

#### 取り組みの方向

- ・学校、公民館、各関係団体による組織作りを行う。
- ・学校と地域の関係をより密にし、地域の教育力をより生かした活動計画を立てていく。(幅広い分野にわたった取り組み。)
- ・環境美化・保全活動に対する住民意識を高めていくために、広報活動の工夫をする。
- ・年3回のリサイクル活動の継続。(普段から古紙、古着をためておいてもらえるような活動としていく。)
- ・環境教育を充実させ、意識を高めるとともに、主体的に活動を進めていけるようにする。
- ・学校だより「夢抱き」配布の際に、地域の方への積極的な挨拶や、親しみのある会話ができるようにしていく。

学社融合活動実施報告

学校名		中辺路中学校	公民館名	中辺路公民館・栗栖川下分館 栗栖川上分館・二川分館
学社融合における学校・地域の様子				
趣旨				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育活動全体にわたって地域との連携をはかり、開かれた学校として、ともに地域の未来を担う生徒を育成する。</li> <li>・地域の諸団体(老人会・女性会など)との交流を通し、地域の一員としての自覚を高め、地域を見なおす態度を育成する。</li> <li>・地域の自然(熊野の森)に対する理解を深め、熊野の森の復活活動や中辺路花いっぱい運動に参加することを通し、地域に貢献する態度を育成する。</li> </ul>				
職場体験学習			学年・教科・領域等 2年・総合的な学習の時間	
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場体験学習を通して、勤労の貴さ・意義を学ぶ。</li> <li>・将来の進路選択に生かすことができるようにする。</li> <li>・社会に通用する礼儀やマナーを身につける。</li> <li>・地域の課題や将来に目を向ける機会とする。</li> </ul>		
	公民館(地域)・地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場体験をとおして、地域で働く方々と接することにより、地域の良さを知ってもらう。</li> <li>・地域の方にとっても、学校がより身近に感じてもらう。</li> </ul>		
支援者及び支援組織				
中辺路学校給食共同調理場・清姫茶屋・二川小学校・栗栖川小学校・中辺路大塔消防署・社会福祉協議会・白百合ホーム・紀南パンジー・くりすがわ保育園				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
● 4月	【職業調べ】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業情報の収集 興味があるものを軸として、そこから発想を広げながら関係のある職業を書き出す。</li> </ul>		
● 5月	【事前学習】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験先の決定 地域の産業を知る意味で、中辺路地区内に限定。9カ所の事業所。</li> <li>・体験のマナーや注意、心がまえ</li> <li>・事前打ち合わせ ①訪問先に電話をして、事前の挨拶・打ち合わせの日程を決める。②事前の挨拶(服装・時間・留意点など)</li> </ul>		
● 6月	【職場体験】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月20日～24日</li> <li>体験活動日誌をつける</li> <li>聞き取り調査 働く喜びや苦しさ、職業選択の動機等を質問する。</li> </ul>		
● 7月	【事後学習】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お礼状を送る</li> <li>・職場体験のまとめ</li> <li>・まとめ冊子の作成</li> </ul>		
● 9月 10月	【文化発表会での発表の準備】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイントで発表資料を作成</li> </ul>		
● 11月	【文化発表会】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年で発表後、代表を決定し、文化発表会で発表</li> </ul>		



	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域学習としての位置づけをし、校区内の事業所の協力を得ながら、地域の産業の現状や働くことの尊さを学ぶことができた。</li> <li>・職員にとっても、事前打ち合わせ・体験学習中の巡回指導等で、校区内事業所を直接訪問し、地域の方々と接する機会が多くなり、より地域を知ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館をはじめ地域のさまざまな団体と連携を深め、学社融合を図っていく。特に公民館とはもっと綿密に連携を図りたい。</li> <li>・地域学習を兼ね、体験先を中辺路地域に限定するため、体験できる職種が限られている。新規の体験先を開拓していく必要がある。</li> <li>・事業所が点在するため、生徒は自転車でかなりの距離を通うことになり、途上の交通安全が心配である。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方々と関わり、自分たちの生活にも関わりのある仕事を体験することで、生き生きと学ぶ姿が見られた。それぞれの体験先でも、喜んでもらうことができた。(生徒の感想)給食調理場に行って、僕たちが毎日食べている給食を作るのはとても大変だと思いました。野菜洗いや切るのは簡単に思っけれど、子どもが食べやすいように切るのが難しかったです。体験を通して、日頃から給食を「感謝」しながらいただきたいと思いました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場・職種が少ないため、希望通りにはならないこともあるので、他にも色々な職種があることを知らせる必要がある。</li> <li>・地域産業の現状を知ることを通して、単なる職場体験で終わらず、自分たちの住む郷土の将来について考えていく一歩としたい。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域には、色々な職種があり、そこで働いている地域の方に話を聞いて、改めて仕事に対する熱意と地域で頑張っているすごさを学ぶことが出来た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来地域で働きたい、または仕事をしてみたいと思ってもらえるようになっていただきたい。(希望)</li> </ul>
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場体験で生徒と接する事によって、地域で働く方々においては学校をより身近に感じてもらえたとし、また地域の良さをアピールできた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校で取り組んでいる学習活動に地域全体がもっと関心を持ってもらえるよう公民館として考えていきたい。</li> </ul>

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

(評価)

地域の施設や事業所の協力を得て、それぞれが仕事のやりがいや大変さ、働くことの意味を学ぶことができた。全員の希望通りにはいかないが、本年度は特に校区内2小学校と、自分たちの給食を作ってくれている学校給食共同調理場の協力を得て、新たな体験先を加えることができた。自分の生活を直接支えてくれている場所での苦労などを知ることができ、生徒からも好評であった。また、地域で生活する大人と直接接し、会話することで、生徒にとっても地域の一員である自覚がより強められた。

(次年度に向けての取り組み)

生徒の積極的な姿勢や、学ぶ意欲に対して、体験先からも喜んでもらうことができた。これからもできるだけ多くの職場に受け入れていただけるよう、今後も公民館を含め各団体・施設の協力を得ながら、取り組みを進めていきたい。

職場体験学習の充実の意味からも、来年度も5日間の長期実施の方法で計画を進めたい。その際、体験先職場への負担も大きく、迷惑をかけることになるが、日頃からの交流を深め、地域と学校で子どもを育てる体制を作り上げていきたい。



学社融合活動実施報告

学校名	近野中学校	公民館名	中辺路拠点公民館・近野分館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統的に学校と地域との連携が密であり、協力的である。</li> <li>・地域ぐるみで取り組む行事として、近野区民体育祭、近露まるかじり体験、近野フェスティバル、近野山間マラソンなどがある。</li> <li>・NPO法人、老人会、JA女性会、近野獅子舞団、育友会その他地域の方々との交流が活発である。</li> </ul>			
活動名	稲作・餅つき等体験学習	学年・教科・領域等	全学年・総合
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域での活動を通して地域を知る ・生産の喜びや勤労の尊さを学ぶ ・共同作業をすることにより助け合いや協調性を養う ・汗を流して働くことにより、努力することや耐えることの大切さを学ぶ ・人とのふれあいや栽培を通して思いやりの心を育てる ・地域イベントに参加し、楽しい思い出をつくる</li> </ul>	
	公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が地域の人達との交流を深めることにより、地域への理解をより深める。</li> <li>・学校・地域の連携を密にして子ども達の健全育成を図る。</li> </ul>	
<p>支援者及び支援組織</p> <p>地域のまちづくり団体（NPO法人「古道の里に花と愛」、JA女性会、育友会など）</p>			

取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)

- 4月26日(火) 箱苗作り NPOの方々の指導の下に、箱苗を作った。
  - 5月2日(月) もみまき 先日作った箱にもみをまいた。
  - 20日(金) 田おこし・しろかき 耕耘機を使って田おこした後、しろかきした。
  - 27日(金) 田植え 学年別に、もち米とうち米を植えた。
  - 7月10日(日) 花壇整備作業に地域の方が協力してくれる。
  - 8月10日(水) 全校登校日 除草・観察 田んぼの中の雑草を除草した。
  - 9月22日(木) うち米、もち米の稲刈りをNPOの方の指導の下行う。
  - 10月4日(火) 脱穀機を使い脱穀した。
  - 12日(水) 精米(業者)本年度は昨年度と比べて7割ぐらいしか収穫できなかった。
  - 11月2日(水) 収穫祭 JA女性会や地域の方の指導の下に餅つきをし、ご飯を炊く。
  - 18日(金) 親子遠足に公民館主事や地域の方も参加する。
  - 27日(日) 『近野フェスティバル』において1年生がこの取り組みを発表した。  
また餅つきの実演を行い、ついた餅を参加者にふるまう。
- \* 今年度は「近露まるかじり体験」が台風の影響のため中止になり、餅つきの実演販売は出来なかった。



	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農作業を通して、働くことの大切さを学ばせることができた。</li> <li>・米作りを通して、生産の喜びを体験させることができた。</li> <li>・数多く共同作業を行うことで、協力しあうことの大切さを学ばせることができた。</li> <li>・地域イベントに参加することで、地域の一員として自覚する意識を高めさせることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組みに対する時間数の確保が困難だった。</li> <li>・米作りの経験や専門的な知識が必要なので、特定の指導者に頼りすぎたこと。</li> <li>・生徒が計画し、主体的に活動できる場をふやす。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米作りを一通り体験することができた。</li> <li>・収穫した米を家に持ち帰って食べたり、餅つきをしたりして、ものを作る楽しさを味わうことができた。</li> <li>・地域のたくさんの方々に指導していただき、お互いに交流を深めることが出来た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験学習と調べ学習との時間を適切に配分すること</li> <li>・他の行事との関係で、スケジュール的に忙しかったため、もう少しゆとりをもっとできるようにしたい。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域が抱える問題に気づくとともに、活性化のために自分たちも関わられることを学ぶことが出来た。</li> <li>・地域のイベントに参加することで、地域との一体感を感じる事ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の活動にさらに積極的に関わってってもらいたい。</li> </ul>
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年も中学校独自で休耕田を借り上げ、米作りを体験してもらった。</li> <li>・子ども達と農作業を通して交流することが出来た。</li> <li>・地域のイベントに参加してもらい、餅つきを実演することで、地域活動に協力してもらった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校が地域と連携しながら体験学習をおこなっている。公民館として今後どのように関わっていきけるのか、課題である</li> </ul>

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

- ・米作りを箱苗作り、もみまき、田おこし、しろかき、田植え、草取り、草刈り、稲刈り、脱穀、まで一通り体験し、収穫した米を家庭に持ち帰って食べたり、餅つき体験をすることで、労働の大切さを学び、収穫の喜びを味わうことが出来た。
- ・多くの方々と交流することができたので、地域の方々とより親密になった。
- ・花壇の整備作業には保護者の方の他、地域の方も参加してくれた。
- ・夏休み中の校内整美作業には保護者の他、地域の方・公民館主事も参加する。
- ・秋の親子遠足には保護者の他、地域の方も参加してくれた。
- ・来年度も出来る範囲で、これらの取り組みを継続する方向で計画していきたい。

学社融合活動実施報告

学校名		大塔中学校	公民館名	大塔公民館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>本校では1年生において、大塔地区3小学校と協力して、地域の方をゲストティーチャーとして招いて授業をおこなう選択交流学習を行っている。全10コースのうち「郷土の食」、「囲碁」、「大塔探訪」、「生け花」、「昔の遊び」、「茶道」の6つのコースにゲストティーチャーに入っただいて交流を深めているとともに、「ふるさとを愛し、心豊かに、たくましく生きる児童生徒の育成」を目標にATOM学習を展開している。また、ATOM学習には鮎川・富里・三川の3小学校と地域とともに清掃活動を行う「大塔リフレッシュ大作戦」があり、中学校3年生を9年生として9年生を中心に計画し、大塔公民館と連携しながら保護者・地域の老人クラブなどからも多くの参加をいただき実施している。</p>				
活動名		選択交流学習	学年・教科・領域等	1年生 総合的な学習の時間
目標	学校	移行期の3小学校1中学校の5・6・7年生(中学1年生)を対象に実施し、異なる学校、異なる学年を縦割りにして、地域の方をゲストティーチャーに招いて、学習することで地域の方と交流するとともに日本の文化に触れる。また、地域の方と交流することでコミュニケーション能力の向上を図る。		
	公民館(地域)・地	地域の様々な知識・技能を有する方々に指導をいただき、日頃の学習成果を披露いただくとともに、児童生徒と交流することで「地域の子どもは地域で育てる」意識を高める。		
支援者及び支援組織				
公民館・地域住民				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
<p>日時 6月8日(水)(第一回), 10月12日(水)(第二回)</p> <p>ねらい ○移行期間の5・6・7年生(中学1年)が共に学ぶことで、小学校から中学校へスムーズな移行を図る。 ○地域の方から日本の文化を学び、地域の方とふれあうことでコミュニケーション能力の向上を図る。</p>				
活動内容				
<p>下の10コースの中から1つ選択して、年2回学習する。</p> <p>①郷土の食 大塔の郷土料理を作り、みんなで試食会を行う。</p> <p>②囲碁 地域の方から囲碁のルールや打ち方などを学ぶ。</p> <p>③大塔探訪 ふるさとの遺跡、民俗、ものづくりなど探訪する。</p> <p>④生け花 身近にある草花を工夫して生ける。</p> <p>⑤昔の遊び 昔の遊び道具を作り、実際に遊んでみる。</p> <p>⑥茶道 お茶の点て方やいただき方など茶道の文化や世界を楽しむ。</p> <p>⑦体育1 バスケットボールを楽しむ。</p> <p>⑧体育2 ソフトテニスを楽しむ。</p> <p>⑨体育3 卓球を楽しむ。</p> <p>⑩音楽 音楽を楽しむ。</p>				

	成 果	課 題
学 校	<p>○地域の方にゲストティーチャーとして参加していただくことで、子どもだけでなく教師も今まで知らなかった大塔の歴史や文化などに触れることができた。</p> <p>○地域の方と交流することで、地域とのつながりが密になった。</p>	<p>○地域の方、子ども、そして教師にとっても、それぞれに良いつながりができた。そのつながりをより密にして、交流する機会を継続して行えるようにする。</p>
* 子どもにとって	<p>○「大塔のことをより理解できた」や「生け花で地域の人に誉められてうれしかった」など学習意欲の向上につながった。</p> <p>○鮎川・富里・三川地区関係なく、中学生と小学生とのつながりが深まった。</p>	<p>○授業での交流だけでなく、日常生活の中でも地域の人と交流ができるようにしたい。</p> <p>○体験できたことを、次は他の人に伝えていくことができるようになってほしい。</p>
* 子どもにとって	<p>○深い知識・技能を有する地域の方に教わることで、一層学習に取り組むことができた。又、地域との「つながり」を実感する良い機会となった。</p>	<p>○児童生徒にとって、本学習で実感した地域との「つながり」の気持ちを高められるよう、こうした取り組みを継続していきたい。</p>
地 域 (公民館)	<p>○日頃交流の少ない児童・生徒に教えることで、地域の子どもの様子を知る良い機会となり、子どもを育てる意識の向上へとつながった。</p>	<p>○より多くの知識・技能を有する地域の方々に協力をいただくことで、一層地域とのつながりを密にした学習内容になるよう努める。又、そのためにも地域の人財の把握に努める。</p>

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

○評価

・地域の方からも「子どもと交流することができてうれしい」という意見や子どもたちも「大塔の知らなかったことが学習できてよかった」など充実した時間の設定ができた。また、教師も地域の方から教わることも多かったので、総合的な学習の時間などでその知識を活用していきたい。

○次年度に向けての取り組み

・他にも多くの地域の方々とともに学べるように既存のコースに加えて、他のコースを設けるように計画したい。

・選択交流学習は1年生が行ったので、全学年で取り組んでいる大塔リフレッシュ大作戦以外にも2年生や3年生が地域の方と交流できるような場を設けるようにしたい。そのためには早い段階で計画し、年度初めから公民館や地域住民との打ち合わせの場を今年以上にしていかなければならない。

学社融合活動実施報告

学校名		田辺市立 三里中学校	公民館名	本宮公民館 三里分館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>「学校教育活動の様々な面で地域と連携することにより、地域と共に歩む開かれた学校作り」という目標の下、各種学校行事に公民館と連携したり、総合的な学習の時間や特別活動を利用して、様々な活動を行っている。</p> <p>地域も学校教育に協力的であり、公民館活動や様々な機会を通して子どもたちの健全な育成に積極的に関わってくれる。</p> <p>「地域で一体となって子どもを育て、見守っていく」という気風が長い歴史の中でこの地域には存在し、その良さが学社融合を違和感なくスムーズに推し進め、着実に発展している。</p>				
活動名		三里祭り	学年・教科・領域等	全学年・特別活動及び学校行事
目標	学校	地域に学び、地域を愛し、地域に誇りを持って生きる生徒を育てる。		
	公民館（地域）	学校行事に積極的に参加すると共に、育友会（共育会）や他団体と連携を密にして、子どもたちの健全な育成に寄与する。		
<p>支援者及び支援組織</p> <p>・保護者・学校評議員・小学校・公民館・地域住民・地域の各種団体・関係各機関</p>				
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>小学校・中学校・公民館合同主催運動会について</p> <p>・6月21日(火)に、合同企画会議【小学校・中学校・公民館(計17名)】を持ち、趣旨及びテーマ・種目・役割分担・前日と当日の準備等について話し合いを実施。【来年度、三里中学校は統合により閉校となるため、小学校・中学校・公民館合同主催による運動会も今年度が最後となる。そこで、児童生徒と地域の方々にとっていかに思い出に残る運動会にするか、地域の人々の結びつきをより強いものにするかについて検討】</p> <p>・地域(伏拝)に伝わる郷土の踊り「伊勢音頭」を、地元の松本喜代志氏に学校に来ていただき指導をしてもらう。また、「地域の人々の結びつきを強くする」という趣旨に合わせ、みんなで踊れる「炭坑節」も指導していただく。当日は、松本喜代志夫妻の音頭に合わせ、保存会の皆様にも参加していただき「伊勢音頭」を披露。さらに、「炭坑節」では小学生・中学生・保護者・地域の方々・教職員がいっしょになって踊り、今回の運動会の趣旨に合ったものとなった。</p> <p>・小学生種目「ハレヤ節」に中学生も参加するという合同企画会議での案を具体化するため、保護者の尾中菜穂子さんに学校に来ていただき指導してもらい、当日は小中学生いっしょになっての踊りに会場から大きな拍手がおこった。</p> <p>・公民館種目についても、来場者全員が参加できる三里中学校の歴史や地域を問題にした〇×クイズや、年齢関係なく男女対抗の綱引きなど、運動会の趣旨を反映したこれまでになかった種目も好評を得た。</p> <p>・小学生が競技を行う際は中学生と公民館が準備を行い、中学生の競技の時は公民館と小学生が、公民館の競技の時は中学生が準備を行うなど、子どもも大人も、地域も全員が一丸となって運動会を運営した。また、会場準備の際は公民館・保護者・地域の方々も多数訪れ、積極的に協力してくれた。</p>				
				

	成 果	課 題
学 校	「子どもと地域のために」という学校と公民館の思いのもと、時間をかけて何度も話し合えたことは、お互いの意思疎通だけでなく信頼関係も深めた。コミュニケーションを重ねるごとに様々なアイデアが出され、新たな展望と具体的な展開を見いだせた。学校と公民館が信頼関係を深め、連携することは、教育活動に広がりを生む。	これまで以上に子どもや学校教育に関心を持ってもらい、「地域と学校がともに手を取り合い子どもを育てる」という環境をさらに推し進めるため、学校としての具体的なビジョンを示し、地域に対して様々な角度から積極的に働きかけていく。
* 子どもにとって	今年度の運動会は、子どもと地域の方々がいっしょになって競技する種目が多く、より多くの大人との関わりを持つことができた。その中で「大人に支えられ見守られている」「地域の中で生きている」という意識がこれまで以上に育った。	子どもたちがこれまで以上に地域(社会)に目を向け、課題意識を持って自主的に考え、行動できる態度を、地域と学校の様々な教育活動の中で養っていく。
* 子どもにとって	今年は台風12号の被害を受けた中で、子どもたちは「自分たちがが地域の人々に元気を与えていく」という意識で取り組み、地域の中で生活しているという姿勢が見られた。	多くの大人との出会いの場の中で、社会性を高めながら、社会参画の意識が育ってほしい。
地 域 (公民館)	学校に関わりを持ち、子どもや教育への関心を高め、地域で一丸となって子どもを育てる意識を高めることができた。また、本年度は「最後の運動会」ということもあり、学校とも連携を強めた結果、地域がひとつとなって取り組めた運動会となった。何度も話し合いを重ねたことがお互いの信頼関係をより強固なものにした。	今年度は「小学校・中学校・公民館合同主催」の運動会が最後ということもあり、中身のある話し合いの場を数多く持ったので、今後もコミュニケーションを活発にし、地域と学校がいっしょになって子どもを育てるという共通認識のもと、具体的な方策を継続的に進めていく。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

今年度は、これまでの「ふるさと学習」や「三里祭り」での連携に加え、来年度の三里中学校統合による「最後の運動会」へ向けて、これまで以上に学校と公民館との連携が行われました。「思い出に残る運動会」「地域がひとつになる運動会」というテーマのもとに何度も話し合いができたことは、双方の信頼関係をより構築したと思います。その中で、子どもたちには地域のすばらしさや特色を大切にしようとする心が育ち、地域には子どもをみんなで見守り育てようという意識や学校への関心が高まりました。特に今年は台風12号による被害も大きかった本宮町ですが、このような学校と公民館との連携した取り組みで、地域に元気と勇気を与えられたと感じています。

本校では、「地域を基盤とし、地域を愛し、地域に誇りを持って生きる生徒の育成」をめざして取り組みを続けています。なによりも、この三里地域の人々には昔も今も変わらぬ「子どもをみんなで育て、見守るあたたかい教育力」が存在します。これからも、この豊かな自然環境や歴史・文化、先人が築いてきた知恵や知識を学び、ここに住む者として、ふるさとを愛し、ふるさとの伝統を継承することは意義があると考えています。

来年度は統合により三里中学校は閉校となりますが、今後も、これまで行ってきた「地域に学び、地域に誇りを持ち、地域を愛する」取り組みを、新しい中学校にうまく継続していきたいと考えています。

学社融合活動実施報告

学校名		本宮中学校	公民館名	本宮公民館 本宮分館・四村川分館・請川分館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>昨年度で文部科学省委託による「学校支援地域本部事業」は一旦終了となりましたが、今年度はこれを継続し、「本宮地域共育コミュニティ事業」として取り組むことになりました。本部長を公民館長とするなど組織は少し変わりましたが、「学び合い、支え合い、高め合う学校と地域社会」というテーマは継承し、新しいことにも積極的に挑戦しています。今年度は昨年度までの「学校支援」「ふるさとづくり」に加え、新たに「保・小・中連携」も一つの柱に据えて取り組んでいます。子どもたちが地域の多くの方々と交流し、多様な体験や経験を積み重ねることで、規範意識やコミュニケーション能力、ひいては確かな学力の向上を図ると共に、地域の活性化にも貢献できるよう、学校・家庭・地域が一体となった教育活動の充実を目指しています。具体的には地域コーディネーターをキーパーソンとし、学校と地域を結びつけながら、子どもたちを心豊かに育む取り組みを進めています。こうした取り組みにより、学校と地域との絆は深まり、「本宮地域共育コミュニティ」という教育基盤が確かなものになっています。</p>				
活動名		各教科における学習支援	学年・教科・領域等	全学年・各教科
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習パートナーの支援を受け、学習活動の充実を図る。</li> <li>・地域の方の専門性を生かし、学習理解を深める。</li> </ul>		
	公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域人材を活かした活動を推進し、学校や生徒の様子を知り、交流を深めると共に、地域を愛する生徒を育む。</li> </ul>		
支援者及び支援組織				
地域コーディネーター・学校支援ボランティア(学習パートナー)				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
<p>○ 国語 11月7日(月) 短歌 2年生で五七五の上の句に七七の下の句をつける授業をした。年代の違う人の短歌を見たり、大人の評価(感想)を聞くことができた。</p> <p>○ 国語 12月19日(月) 方言学習 3年生で「黒八大明神」という物語を方言に書きかえる授業をした。紙芝居を用意し、生徒が書きかえをした後、ボランティアさんに読んでもらって、地域の方言を知り、また方言の温かさ等を感じる事ができた。</p> <p>○ 社会 10月18日(火) アフリカについて 実際にアフリカを旅した人を招き、アフリカの地理的な話に加え、野生動物のことや民族、文化、そしてアフリカが抱える問題などの話を伺った。</p> <p>○ 英語 10月18日(火) 国際理解 海外に留学した経験を持つ地域の方を招き、日本とアメリカの文化の違いや、アメリカの生活習慣やコミュニケーションをとるときに大切なこと、そして9.11のアメリカで起こったテロ事件の話などを伺った。</p> <p>○ 数学 1月24日(火) 測量 地域で土建業を営む方に指導して頂き、実際に巻き尺などでは測れない建物の高さを建物からの距離や測定の機器を用いて仰角を測ることなどにより縮図を書いて求めるという授業を行った。</p> <p>○ 理科 1月26日(木) 天気と自然環境について ウルトラライトプレーン(超軽量飛行機)に乗って活動している地域の方にお越し頂き、2年生理科で学習する気象や天気図について、また普段見ることの出来ない「上空から見た」自分たちのふるさとの自然環境・今年度に地域を襲った台風による被害の様子等についてお話を頂いた。</p> <p>○ 保健体育 6月21日(火) 柔道 柔道経験のある地域の方に基本である受け身や寝技の指導をして頂いた。指導だけではなく生徒の安全面からも大変よかった。</p> <p>○ 保健体育 2月10日(金) 命の教育 助産師さんをゲストティーチャーとして招き、日々命の誕生と向き合ってきた経験から授業をして頂いた。卒業を目前に控えた三年生たちは命の大切さ、重さを改めて実感することができ、今後の生き方についてもじっくり考える絶好の機会となった。</p> <p>○ 家庭 5月31日(火)、6月3日(金)、6月10日(金)、6月17日(金) ミシン トートバッグ作りをした。ミシンの使い方を個人的に教えてもらったり、トラブルがあった時にもすぐに対応してもらえた。</p> <p>○ 家庭 10月21日(金) 調理実習1時間食育の授業をして頂いた。その後2時間で中華風炊きおこわ、里芋のゆず味噌煮、かぼちゃスープ、くるみ餅作りを行った。各班に学習パートナーが入って手助けをしてもらいスムーズに実習ができた。メニューも普段食べ慣れないものだったがおいしかったようだ。</p>				
				

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな教科で専門性のある学習パートナーに指導していただき、授業では教えられないことや専門的なことを子どもたちに指導していただき大変助かった。また複数での対応により、実習等をスムーズかつ安全に行うことができた。</li> <li>・事前に打ち合わせをしたり、共に授業を行うことで学習パートナーの方々と交流を深めることができた。</li> <li>・地域の方が学校を訪れる機会が増え、学校が地域のコミュニティの場になりつつある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単発的な授業で終わることのないように、今後は学習支援をして頂ける時間を増やしていきたい。</li> <li>・今後とも地域の学習パートナーとのつながりを大切にし、より一層子どもや学校に関心を持ち、協力してくれる人を増やしたい。</li> <li>・地域の方にもっと気軽に学校に来て頂けるような企画をしていきたい。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の理解が深まると共に、意欲・関心が高まった。</li> <li>・いろいろな方と接することで挨拶や言葉遣い等に対する意識が高まりコミュニケーション能力が向上した。</li> <li>・地域の方とのつながりが深まると共に地域を思う心が養われた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に人に関わっていこうとする態度を育てていく必要がある。</li> <li>・三里との統合で地域が広がるが、これからも引き続き自主的に考え行動し地域に貢献できる生徒を育成していきたい。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習パートナーの方々から、それぞれ専門的なことを学ぶことによって、いろいろなことに興味を持ったり、視野が広がった。</li> <li>・学習パートナーの方々との授業を通して顔見知りになることができ、学校以外の場所では出会ったときに、挨拶を交わしたりコミュニケーションをとることが容易にできるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この活動を継続していくことが必要であり、多くの学習パートナーとのつながりを大切にしていきたい。</li> </ul>
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習パートナーの方々が、子供たちに教えることにより、それぞれ身につけた専門的な知識や経験を生かすことができた。</li> <li>・子供たちに教えることで、学校や子供たちが身近に感じたり、また、それぞれの活動に取り組む意欲が向上した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この活動を通して学校と地域とのつながりを深め、地域との交流をより一層進めていきたい。</li> </ul>

#### 評価及び次年度に向けての取り組みの方向

##### 評価

今年度は「学校支援」「ふるさとづくり」「保育園・小学校・中学校連携」の3つの柱を据えて取り組んだ。新しい取り組みは各教科における学習支援をさらに広げたことである。また、ここでは触れていないが来年度の学校統合を控え、ふるさとづくりとしての「熊野古道道普請」「クリーン作戦」「古紙回収」なども行った。今年度は紀伊半島での大水害により当地域も甚大な被害を被った。そんな中、子どもたちは自ら考え、ボランティアとして地域の清掃活動や老人の世話などを積極的に行った。これはまさに本校が三年間学校支援地域本部事業で取り組んできた成果そのものである。さて、今年度実施した各教科での学習支援は教師の負担を軽減するだけではなく、学習パートナーにとっては自分の持てる力を発揮することでやりがいを感じたり、子どもにとっては学習理解を深めたり、意欲・関心が向上したり、まさに学校と地域が一体となって子どもを育てることができた。さらに、「地域での世代間交流の活性」や「地域の子どもは地域で育てる」という意識向上にもつなげることができたのではないだろうか。

##### 課題

来年度は統合により地域に一つだけの中学校になるため、今まで以上に地域の方との交流の場を増やし、新たな学習パートナーを発掘し、より一層開かれた、地域に信頼されるような学校を目指すと共に、積極的に地域に貢献できるような子どもたちの育成をしていきたい。

学社融合活動実施報告

学校名		新庄幼稚園	公民館名	新庄公民館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>・自分の住む地域を愛する人になってほしい。自分も地域の一員であるということ子どもなりに感じてほしい、そして将来は新庄地域を担う存在となってほしいという願いをもって活動を進めています。新庄地域の文化や伝統行事を知ったり、地域の自然や人の優しさに触れたりしています。そして新庄地域では公民館事業(生涯学習活動)が盛んなので、その事業を上手く園活動に取り入れ、お互いに成長し、喜びあえる機会を設けていきたいと考え取り組んでいます。</p> <p>更に多くの地域の方にも園の様子を知り関心をもって頂きたいと考え、月1回未就園児を園に招いて制作活動や絵本の読み聞かせなどを行ったり、11月には公民館と共催の「公民館ロビー展」で園児作品展を催しています。</p>				
活動名		お茶教室		学年・教科・領域等
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の伝統文化に親しむ。</li> <li>・お茶教室を通して地域の人との交流をはかる。</li> </ul>		
	公民館(地域)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統文化継承の担い手を育てる素地作り。</li> <li>・講師を務める茶道サークルの方々は勿論、保護者をはじめ地域の人との交流をはかる。</li> </ul>		
支援者及び支援組織				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新庄公民館茶道サークルの参加者および新庄公民館</li> </ul>				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
<p>◇昨年度より公民館と連携しお茶教室を始めた。現在の5歳児は昨年度の体験があるが、4歳児にとっては初めての体験であり、また年度当初落ち着かない状況だったので、1学期間はお茶教室の実施を見合わせた。夏休み中に話し合い、9月から「お茶教室」を再開することを公民館主事と決める。</p> <p>◎9月15日(木)13時～14時</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5歳児は昨年習ったことを思い出しながら、正座してお茶の作法を教えて頂く。(幼稚園には畳の部屋がないので、舞台の上にカーペットを敷く)</li> <li>・4歳児は初めてのお茶教室なので、立礼のようにしてお茶とはどういうものなのかを知る。(椅子に座ってお茶を頂く)</li> </ul> <p>○子どもの様子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年長児は昨年度の経験もあり、皆おいしくお茶を頂いたが、年少児は初めてで物珍しきで飛びついたものの、数人は一口飲んで「無理」と断念した。</li> </ul> <p>◇10月に入り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者から「お茶教室の様子をみたい」の声があり、そのことを公民館主事に話し、今回のお茶教室では保護者が見学できるように時間設定をする。</li> </ul> <p>◎10月27日(木)13時～14時</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4歳児も5歳児と同じように、正座をして、作法を教えて頂きながらお菓子とお茶を頂く。</li> </ul> <p>○子どもの様子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4歳児は正座が出来ずに片手で体を支えたり、横座りをしたりしてしまう。5歳児も数分の正座で「しびれがきれた～」という子が続出。</li> </ul> <p>◇11月に入り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者も参加したいという要望があるので、公民館主事と話し合いをし、茶道教室の講師に伝えて頂き、今回は保護者も参加する方向で内容や日程を決める。</li> </ul> <p>◎11月21日(月)13時～14時半</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間交代制にして、5歳児、4歳児、保護者の順で、お茶を頂く。</li> </ul> <p>○子どもの様子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・扇子の置き方や懐紙の使い方などを幾つか教えて頂いたので、子どもたちはちょっと混乱気味。「お菓子頂戴致します」「お先に」というあいさつの声は大きく出るようになってきた。</li> </ul> <p>◇1月に入り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冬休み中、公民館主事との打ち合わせで、茶道教室の講師と「1月のお茶教室」について日程や内容を話し合う。</li> </ul> <p>◎1月16日(月)13時～14時</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5歳児を2グループに分け、交代でお茶をたて友達にふるまうという体験をさせてもらった。抹茶やお湯の量も講師が加減して準備してくれ、茶筌を動かしたただけが自分でお茶をたてたことに満足している様子であった。</li> </ul> <p>◇2月は今年度最後となるため、5歳児は保護者にお茶をたてて、習った作法を披露できるような場をもつ予定である。</p>				
				

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「お茶教室」を通して保護者も園の活動に関心をもてた。</li> <li>・「お茶教室」の講師が園に教えに来てくださることで、園や子どもの様子などを知って頂く機会となった。</li> <li>・園の教師ではできない専門的な指導を補って頂いたことで、園児の体験の幅が広がった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の園行事もあるので、時間の確保や保育内容を工夫する必要がある。</li> <li>・地域の方にお茶の作法を教えているので、園児からも講師に何か出来るような物事を考え、心の交流をはかっていく。(してもらえばかりではなく、双方に得る物があるようにすることが難しい。)</li> <li>・教師自身、茶道に関心をもち、知識を広めていく必要がある。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「お茶教室」の体験を通して日本の伝統文化に触れたり、礼儀作法について学ぶことが出来た。</li> <li>・優しく教えて頂くことで、人の温かさや教えてもらう楽しさを感じる事が出来た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教えて頂いた礼儀作法を園生活の場面で生かしていきたい。</li> <li>・お茶教室の間隔が1か月以上あくので、せっかく習ったことを忘れてしまう。また家庭や幼稚園でおさらいすることも難しい。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・茶道の体験をすることで作法に基づく茶碗・箸の取り回しや正座など日常生活では機会が少なくなった事柄を体験できた。</li> <li>・挨拶の大切さや意味が多少なりとも実感としてわかったのではないだろうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施間隔が開くので、指導効果が上がりにくい。(逆に考えれば、園児達には待ちわびる楽しさがあるのかもしれない。)</li> </ul>
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児達の喜ぶ様子を目の当たりにし、講師陣の地域への貢献意識が高まっている。</li> <li>・保護者が同席(参加)の会であれば、保護者同士の会話、お茶会の話題だけではなく弾んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師陣のスケジュール調整(昼間に4人以上必要)や茶器の手配などの都合で開催頻度を多く出来ない。</li> <li>・給食終了後の開催となるため、時間的な制約があり慌ただしくなることもある。</li> </ul>

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

幼稚園でも各家庭でも道具や設備などのことを考えると「茶道」に親しむ機会をつくることは難しい。しかし日本文化の1つである「茶道」について習ってみたい、体験してみたいという思いは少なからず持っていると感じる。それは園で「お茶教室」を実施するにあたり、子どもの様子も見たい、自分たちもやってみたいという保護者の思いが感じられたからである。公民館主事や「お茶教室」の講師の協力を得て、園で「お茶教室」をし、子どもだけでなく、保護者も教師も「茶道」を楽しむことが出来た。

園児も「お茶教室」の講師が優しく丁寧に教えて下さるので、「明日は『お茶教室』の日だ」と心待ちにしている様子も伺える。「お茶教室」を通して、隣の人に「お先に」と声をかけるが、こういう言葉も日常生活の中で大切にしたい言葉ではないかと考える。また正座をすると背筋が伸びる、まっすぐ相手の方に向き合えるなど、保育の中に取り入れていきたい礼儀作法もたくさんあることに、気づかされた。

「お茶教室」の講師や公民館主事には道具やお菓子の準備をして頂いてお手をかけているが、「お茶教室」のために幼稚園に来てもらうことで、幼稚園の様子を知って頂く機会になっているのではないかと思う。

園にとって「お茶教室」は素敵な体験ができる機会なので、今後も日程や内容などを話し合っ進めていきたい。また現在は教えて頂くことばかりであるが、今後は園児からも「お茶教室」の講師が喜んでいただけるような交流も考えていきたいと思う。

学社融合活動実施報告

学校名	田辺市立三栖幼稚園	公民館名	三栖公民館
-----	-----------	------	-------

学社融合における学校・地域の様子

三栖幼稚園は、衣笠中学校と隣接しており、周りは梅畑に囲まれたのどかな環境にあります。地域の方々の協力で春にはおたまじゃくしとりや梅とりを体験させていただいています。また、公民館には、毎月公民館報へ幼稚園の様子を掲載させていただいたり、高齢者学級との交流など幼稚園の中だけではできない貴重な体験を子どもたちに経験させていただいています。

衣笠中学校と隣接しているということで、中学生と園児との交流がしやすい環境にあり、頻繁に行き来することで、お互いの育ちにとってもよい刺激となっています。

にこにこまつり(高齢者学級との交流)		学年・教科・領域等
目標	学校	・子ども達が作った遊びに地域のおじいちゃん、おばあちゃんに参加していただき一緒に遊んでもらう喜びを味わう。 ・手遊びをしたり、遊んだり、一緒におやつを食べたりして、地域のおじいちゃん・おばあちゃんに親しみがもてる。
	公民館(地域)	・公民館高齢者学級の会員と、三栖幼稚園の園児との世代間交流を行う。

支援者及び支援組織  
公民館 高齢者学級 (未就園児・小学校・中学校・保護者)

取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の交流を通して、地域の方に三栖幼稚園を知ってもらいきっかけになった。</li> <li>・約一時間という短い時間ではあったが、お互いが楽しみ、交流を深められたことがうれしい。また、子ども達を通して、職員も高齢者学級の方々と会話を楽しむことができた。</li> <li>・ひとつの遊びが全体にひろがり、たくさんの人に子ども達が考えた遊びを楽しんでもうことができよかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・このような交流をどんどんひろげていけるように工夫していきたい。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達が自分たちで考えた遊びをたくさんの人にしてもらい、楽しんでもらうことの喜びを味わうことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・にこにこまつりと並行してたくさん行事があるので、子ども達の負担にならないような配慮をしていきたい。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児達は、地域のおじいちゃん・おばあちゃんが幼稚園に遊びに来てくれるのを楽しみにしている。いっしょに遊んでくれてとても喜んでいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園はたくさん行事を行っているので、子どもたちの負担にならないよう、年2回の開催にしたい。</li> </ul>
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館報で広報したところ、たくさんの高齢者学級の会員の方に参加してもらうことができた。園児が作った玉入れや輪投げをしたり、いっしょに手遊びをしたり、交流を楽しみ、笑いが絶えなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化が進む中で、高齢者の方と子どもたちとの世代間交流は、これから益々大切になっていくと考えられる。</li> <li>・高齢者の方に、昔からある伝統的な遊びを子ども達に教えてもらいたい。</li> </ul>

#### 評価及び次年度に向けての取り組みの方向

##### (高齢者学級について)

高齢者学級との交流は年に2回の割合で行われています。毎回一時間余りの時間ですが、とても充実した時間を過ごすことができています。今年度、園児手作りのゲームやさん(玉入れや輪投げ)などを取り入れ、園児がお店の人になってお世話をしたり、おやつの準備を行ったり、手遊びなどのゲームと一緒に楽しむ時間を入れるなど交流の内容を見直しました。その結果、子ども達とのふれあいが時間的にも内容的にも深まり、和気あいあいとしたとても楽しい時間をもつことができました。今後は、これをもう少し日常的なつながりへと結びつけていくこと、また幼稚園の保護者とのつながりも作っていくなど、公民館と連携し、進めて行ければと考えています。

##### (にこにこまつりについて)

年長組の子ども達が玉入れゲームを作り共に楽しんだことから、年少児の輪投げ制作へとつながっていきました。未就園児の支援事業でこのゲームが活躍したことがきっかけとなり、にこにこまつりへと発展し、お家の方や高齢者学級・衣笠中学校・三栖小学校などさまざまな年齢層の方々に楽しんで頂くことができました。交流の相手により、会の持ち方や構成を工夫したり、輪投げや玉入れは距離などをかえることにより、難易度を変化させたりしながら、お互いが楽しめるように配慮してきました。今回にこにこまつりを通して子ども達が地域のさまざまな年齢の方々とつながりを深められ、楽しめたことは大変意義深い事だったと思います。このきっかけを大切に今後も子ども達が地域の方々と直接的なつながりを深めていけるようにしていきたいです。

衣笠中学校と幼稚園とは、今までも保育実習をはじめ、月見団子作りやたこ揚げ・合同避難訓練など交流が盛んに行われています。今回、お昼休みに交流の場を持つことにより、お互い無理なく交流できたことは大きな成果でした。これをきっかけにいろいろなつながりができてきています。今後も隣接している立地条件を生かし、もっと日常的に子ども同士のかかわりが持てる交流へとつなげていきたいと思っています。

学社融合活動実施報告

学校名		田辺市立上秋津幼稚園	公民館名	上秋津公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子          旧田辺市の北東部、市街地より数キロ離れ、標高606メートルの高雄山のふもとに位置し、静かな環境の中に所在している。上秋津地区は年間通して色々な柑橘類の生産が主であったが、近年は専業農家の家庭は減少していて、今年度当園における専業農家は13世帯である。また、若い年代の世帯数も増えてきて、本園では核家族25世帯、同居家族15世帯である。昔から教育熱心な地域であるので、幼稚園教育にも理解があり物心両面に協力的で、温かい支援を頂いている。地域には町内会はじめ、あらゆる組織・団体を網羅する「秋津野塾」という地域作り団体が結成されていて、様々な活動を行っている。</p>				
活動名		絵本タイムの充実	学年・教科・領域等	全園児
目標	学校	・幼稚園、家庭、地域がお互いに協力し、絵本の読み聞かせを通して、いろいろな人や本との出会いの中で、子どもたちに想像力、思いやり、優しさ、協調性など心の豊かさや社会性などとともに、聞く力や語彙力を身につける。		
	公民館（地域）	・地域住民と園児が絵本を通して交流を深め、共に豊かな心と人間性を育む。 ・地域住民に子どもたちの健全育成に積極的に関わっていただき、より開かれた園づくりに協力する。		
<p>支援者及び支援組織          公民館、町内会、保護者会</p>				
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p>				
<p>「絵本タイム」の取り組みの経緯</p> <p>H18 絵本タイムを取り入れる。園児全員が絵本タイムの時間には、絵本コーナーを活用して、各々が自由に選んだ絵本を教師に読んでもらう時間とする。</p> <p>H19 自分で読みたい幼児も落ち着いて読めるよう、カーペットを敷いたり、テーブルを配置したりなどの環境を整える。</p> <p>H20 物語絵本だけでなく、図鑑絵本や化学絵本なども含めた、幼児の生活経験に関連づいた絵本の分野や種類を増やす。</p> <p>H21 絵本を保育活動にも活用する機会を増やし、絵本タイムとクラス保育が自然に生活に溶け合うことを目標とした保育の在り方を模索した。</p> <p>H22 園児数に対して職員の数が少ないので、年長児・年少児の生活ペアの関係を、絵本タイムに導入する。</p> <p>H23 幼児同士の読み合いでは、職員不足の根本的な解決に至っていないとの反省から、「絵本タイム」に公民館を通じて、地域の方々の協力を要請する。公民館報で一般に募集する。 同時に、幼稚園評議委員である原進一氏が中心となり、民生委員の中で協力体制ができる。 9月 公民館主事、幼稚園打ち合わせ会議。 公民館、民生委員代表の打ち合わせ会議。原進一氏がコーディネーター役としてまとめてくださる。 10月 民生委員の方々が、会津小学校の読み聞かせ教室に自主参加して研修して下さる。 11月 第1回地域の方々の参加による「絵本タイム」実施。民生委員、一般の方参加。 12月 第2回地域の方々の参加による「絵本タイム」実施。 民生協力委員の活用など、体制づくりが検討される。</p> <p>H24 2月 第3回地域の方々の参加による「絵本タイム」実施。 3月 第4回地域の方々の参加による「絵本タイム」予定。</p>				

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>得意なことを持っているゲストティチャーだけでなく、地域の方々の幼稚園への関心を広く高めて、幼稚園へ気軽に訪問できるような人間関係作りの一歩となった。</li> <li>読み手が増えたことで、絵本を読んでもらう幼児が増えて、絵本と触れ合う喜びが増した。人員にゆとりができたことで、絵本を選ぶときの助言に教師が十分に関われるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵本の教材としての意義を考えたとき、地域の方々にどこまで事前研修を求めたらよいか考察する必要がある。</li> <li>地域の方々が園の活動に参加されるということについては、これからも教師自身が開かれた姿勢を大切にして、自然な生活の流れの中で、共に活動の楽しさを共有できる実践となるようつなげていきたい。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の読んでもらいたい絵本を「絵本タイム」時間内に読んでもらえる。また文字が読めるようになったことを喜んでいる幼児には、たどたどしい読み方でも、じっくり聞いてくれる大人が存在することになり、聞く楽しさと読む楽しさが味わえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「絵本タイム」の理想を言えば、1対1の関係での関わりが望ましい。しかし、数人で同じ絵本を見合う楽しさもあるので、人数配分を考慮したい。その時、発達と絵本の内容とで聞き取る力に差が出てくるので、配慮して、楽しかったという満足感を味わえるようにしたい。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生とは違う地域の大人との交流で、以前にも増して本に親しみを感じられるようになった。また、ことばの力やコミュニケーション力などを高められる場となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来ていただいた大人の方や友達みんなが楽しく過ごせるよう、協調性や規律性をより養ってほしい。</li> </ul>
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「絵本タイム」という園の取り組みを地域に知っていただく良い機会となり、園児たちの育成に関心を持ってもらえた。</li> <li>読み聞かせをしながらの交流で、大人では考えられないような考え方や発想を園児から学ぶこともあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動時間が限られており、園児数に対して協力者がまだ少なく、園児が読んでほしいと願い出ても、また、話を聞いてほしいと申し出ても、全ての園児の期待に添えない状況である。協力者の負担も大きいと思われる。</li> <li>「絵本タイム」の組み方・進め方を園と共に研究しながら、より多くの協力者に気軽に参加していただけるよう努めていきたい。</li> </ul>

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

- 地域の方々の参加による「絵本タイム」は今年度後半からの取り組みで、まだまだ、試行期間の途上である。しかし、本園は2年間の教育課程の中で、地域との触れ合いを大切にした取り組みが位置付けられ、今までも地域連携として様々な交流が図られている経過があり、地域にも、教育に協力したいとの意識があり、また、幼児も様々な大人の方に対して、人懐こく親しみを表せる傾向にある。これらの基盤意識のおかげで、今回の活動が可能になったと思われる。
- 地域の方にとっては、「(読み手に)自信がある方だけしか行きにくいよ」という垣根が低くなり、協力したいという意識がすぐに実行されやすい活動となった。
- 学社融合という視点で見たとき、来ていただいた地域の方から、民生協力委員の業務にしたいとの要望があり、そうすると、お互いのメリットを生かした体制づくりにつながる可能性があると思われる。
- 今後は「絵本タイム」で成果として培った力を、様々な保育活動につなげ、これをまた、地域の方々に紹介することも必要であると思われる。

幼稚園・主事



地域の方々と絵本タイムの様子



学校名		中芳養幼稚園	公民館名	中芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>中芳養地区には、地域あげての夏の恒例行事『中芳養夏まつり』があり、今年は9回目を迎えた。地域の各種団体が知恵と力を出し合い、地域の子どものため、また世代間交流・地域間交流、伝統文化の継承という大きな目的のもと、一大イベントとして定着してきている。</p> <p>本園においては、園だけは担いきれない、いろいろな体験や人とのかかわりを地域や地域の方々に助けをいただきながら、「生き生きと活動し、豊かな心を持った子ども」の育成をめざし、日々保育を展開しているところである。</p>				
活動名		地域の人々とのふれあい		学年・教科・領域等
				全園児
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のいろいろな人とふれ合い人の温かさや優しさを感じ、人とかかわることが好きになる。</li> <li>・地域の間・人・行事にふれ、地域への愛着を深める。</li> <li>・幼稚園を地域に開き、地域とのつながりや幼稚園教育への理解を深める。</li> </ul>		
	公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人と子どもたちをつなぐ場を設け、郷土を愛する心を培い、連帯感を高める。</li> <li>・地域の人に、子どもたちの活動に目を向けてもらい、地域として子どもたちの健全育成に取り組もうとする機運を高める。</li> </ul>		
支援者及び支援組織				
芳寿会（高齢者の会）、ゲストティーチャー（フラワーアレンジ）、地域の方々				
取り組みの経過（日時・ねらい・活動内容等）				
<p>◎高齢者の会≪芳寿会≫とのふれ合い</p> <p>7月の七夕笹飾り作り・12月の発表会ごっこ披露・1月の伝承遊びと3回の定期交流会を持っている。その他にも、中芳養夏祭りに向けた盆踊りを教えに来て下さったり、運動会と一緒に玉入れをしたりと、交流は安定して継続している。</p> <p>今年度は毎年の交流に加え、園児が芳寿会の方に出かけて行き、芳養谷演芸大会の踊りの練習をしている姿を見せていただき、園児も真似して踊ったりと、楽しく交流を深められた。</p> <p>また、交流の前後に「楽しみにしています」「ありがとう」を園児なりに書いた手紙を届けることにより、一つ一つの交流が単発ではなく、つながりや余韻のある交流として1年間継続していった。</p>				
<p>◎フラワーアレンジの先生とのふれ合い</p> <p>以前公民館のフラワーアレンジサークルで指導されていた先生にお願いし、毎年11月に子ども達に教えて頂いている。</p> <p>今年度は子ども達の声から、先生に手紙を出し、子どもたちや園と先生との応答性のあるかかわりを大切に進めた。保護者も関係づくりに巻き込むことで、先生との関係もより深まり、修了式に子ども達手作りのコサージュ作りを先生から提案していただいている。</p>				
<p>◎園外保育への地域の方の支援・協力</p> <p>4月 《れんげ摘み》 「いつでも摘みにおいて」と毎年声をかけてくださる。</p> <p>5月 《オタマジャクシとり》 「いつでもどうぞ」「今年は捕れたか」と気にかけてくださる。</p> <p>6月 《ザリガニ釣り》 梅採りが忙しい中、子ども達が楽しめるように配慮して下さる。</p> <p>11月 《西野の観音さん》 子どもが行くのを迎えてくださり、お話をしてくださる。</p> <p>《甲太山登山》 子ども達に危険がないようにと、猪の様子を見廻ってくださる猟友会の方、登りやすいように草刈りをしていてくださる方がいる。</p>				

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の方に幼稚園や子ども達の姿や活動を知ってもらえ、地域と共にある幼稚園・地域に開かれた幼稚園の一助となっている。</li> <li>・ 幼稚園の職員だけでは力の及ばない部分をサポートしていただき、教育の幅が広がる。</li> <li>・ 地域の方とのつながりが強くなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交流や行事の日程が調整しにくく、無理をお願いすることがある。</li> <li>・ 多くの人との出会いや交流を通して、園児にこれから、地域や人への感謝の気持ち・人とかかわる力の育成に力を注ぐ必要がある。</li> <li>・ 相手側の感想や思いが伝わってきにくい。受けとめにくい。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の方とのふれあいの中で、いつもとは違う温かさを感じられる。</li> <li>・ いろいろな年齢層の方との交流の展開の中で、いろいろな立場が経験でき、してもらう喜び・役に立つ喜びが味わえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ お世話になった方に、園外で出会った時も挨拶や話ができる力をつけたい。</li> <li>・ 地域や地域の方への愛着をしっかりと根付かせたい。</li> </ul>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多くの大人との交流ができたことで、地域を知るという第1歩につながる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後も地域の多くの方と触れあうことで、社会性や規範意識を育ててほしい。</li> </ul>
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者だけではなく、地域の方が来園していただくことにより、幼稚園の取り組みや、子供の様子を、地域全般に広く知って頂くことができ、地域の子供に関心をもつ良い機会となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域と幼稚園との連携をより深め、地域の多くの方が関心を持っていただけるような取り組みや、広報活動などに力を注ぎ、組織的に進めていけるよう努力する。</li> </ul>

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

幼稚園が意識して日常生活の中で地域に出かけたり地域の行事に参加したりして、地域の人との交流を積極的に取り入れていくことは園児達の生活の幅を広げ、豊かな心を育むことにつながる。併せて、幼稚園だけでは力の及ばない部分を地域の人々に支えていただきながら交流や取り組みを進めてきた。地域の方々の協力や支援には感謝の気持ちでいっぱいである。

取り組みの経過の中にも触れているが、今年度は園と地域の方との交流においては、事前事後の打ち合わせや連絡の際に、子どもたちや保護者のアプローチ(手紙)や、生の声を伝えることに重点を置いてかかわりや関係づくりを進めてきた。そのことによって、園と地域の方だけでなく、園児と地域の方・保護者と地域の方という、厚みのある関係づくり・交流が展開できたと思われる。それと併せて、事前と事後にも交流がつながり、余韻の残る長いスパンでの交流になってきたと思われる。

子ども達にできることは小さいことだけれど、子ども達とかかわる地域の方にとって、園児の生き生きとした姿にふれることは、心が満たされ喜びを感じていただけるのではないかと考える。また、園児にとっても地域の方や人・行事に関心を寄せ心を躍らせながらかかわろうとする姿を、地域の方から温かい目で受けとめられることとなり、子ども達にとっても地域の人にとっても自分自身の存在やつながりを実感することになると思われる。

次年度も、地域とのかかわりの中に子どもたちや保護者を巻き込み、地域からの支援に感謝の気持ちを持ち、それをしっかりと伝えながら地域や地域の方々とつながりを深めていきたい。合わせて、園での行事へのお誘いを公民館報だけでなく地域の団体やお世話になっている方に、その時々にかけるなど、広報の具体化を進め、より地域に開かれた地域に根付いた幼稚園になるように進めていきたい。

# 講評

## 和歌山県田辺市の学社融合2011 ― その成果と今後

学社融合研究所 代表 越田幸洋

### 1 はじめに

過日、和歌山県の教育委員会の方から、平成23年9月10日付けの紀伊民報に掲載されたある記事のコピーが手元に送られてきました。その記事は、

「役に立ちたい ― 地元中学生 泥かきなど手伝い 田辺市本宮町」

と題され、台風12号で被災した本宮町で、中学生たちが自主的に災害復旧の作業に取り組んだり、避難住民の話し相手になったりしていることを報じたものでした。一昨年まで年に何度も訪れた本宮町であり、中学生たちにも接した経験もありましたので、本宮町の被害の大きさと子どもたちの不安を想像し、新聞が報じる内容に涙がこぼれました。しかし、その一方で、報じられる内容に一つの明かりを見たようにも思いました。

「田辺市で、何かが変わってきている。」

この漠然とした思いは、2011年度の田辺市における学社融合活動の報告書原稿を手にしてからは確信へと変わりました。そこで、今回は、田辺市における学社融合の変化や、学社融合がもたらした変化を中心にレポートして行くこととしました。

### 2 各地区に見られる変化

#### (1) 新庄幼稚園区

○「お茶教室」を通して、隣の人に「お先に」と声をかけるが、こういう言葉も日常生活の中で大切にしたい言葉ではないかと考える。

○園児達の喜ぶ様子を目の当たりにし、講師陣の地域への貢献意識が高まっている。

○保護者が同席（参加）の会であれば、保護者同士の会話、お茶会の話題だけではなく弾んでいる。

本地区で見られる変化は何かと言えば、「学びから生活をつくる」、そして「学びを生活に拡げる」ことだと思います。また、「地域の人が地域の人として地域に貢献する意識を高める」ことにあります。さらには、幼稚園が「親同士を結びつける場と機会を提供している」ことだと考えます。3つ目のことは、少子化のために孤立しがちな親を結びつける上で、今後、幼稚園や学校に果たしてほしい役割であると考えます。

#### (2) 三栖幼稚園区

○にこにこまつりを通して子ども達が未就園児、小学生、中学生、おうちのひとと交流

○中学生と園児が交流しやすい環境にあり、頻繁に行き来することで、お互いの育ちにとってもよい刺激となっています。

○お昼休みに交流の場を持つことにより、お互いに無理なく交流できた。

○公民館高齢者学級の会員と、園児との交流では、職員も高齢者学級の方々と会話を楽しむことができた。

この実践では、幼稚園が地域の各世代と園児を結ぶ「ジョイント」となっています。世代間の自然的な交流が減少しつつある現状において、この作用は極めて重要です。しかも無理のない結びつきを模索することも行なわれており、今後は、園児対1世代のジョイン

トではなく、幼稚園が多世代を一堂に交流させるジョイントとなる可能性も示唆するものと考えます。

### (3) 上秋津幼稚園区

○「(読み手に) 自信がある方だけしか行きにくいよ」という垣根が低くなり、協力したいという意識がすぐに実行されやすい活動となった。

○来ていただいた地域の方から、民生協力委員の業務にしたいとの要望がある。

本との出会いから子どもたちに想像力、思いやり、優しさ、協調性などの心の豊かさや社会性などとともに、聞く力や語彙力を身につけさせたいという職員の情熱がありながらも、職員不足という矛盾に苦しむ中から、幼稚園における読み聞かせの活動に地域の方の協力を得るという発想が生まれています。そしてそれを実践した結果は、地域住民の活動の場の拡大を導き出し、さらには幼稚園の活動を地域活動化する動きを生み出しています。「よりよい教育を」と願う幼稚園の先生方の熱い思いが引き出した変化なのではないでしょうか。

### (4) 中芳養幼稚園区

○つながりや余韻のある交流

○応答性のあるかかわり

○教育の幅が広がる

とても高い目的意識に支えられた実践であると思います。「応答性」はまさに学社融合の基本理念であり、それは「つながり」なくしては達成されないことであり、学社融合への参画は「余韻」があってこそスパイラルするものです。学社融合の理念と具現化の手立てを実に分かりやすく表現しています。そして、具体的には、

○事前事後の打合せや連絡の際に、子どもたちや保護者のアプローチ(手紙)や、生の声を伝えることに重点を置いてかかわりや関係づくりを進めてきた。

○そのことによって、厚みのある関係づくり・交流ができ

○余韻の残る長いスパンでの交流ができた

という実践になっています。学社融合の理念と実践化の手立てが田辺市に完全に定着したことを示す実践なのではないでしょうか。

### (5) 田辺第一小学校区

○地域のサークル活動と国語の授業を融合させた

○地域の音楽サークルと音楽科で融合授業を実施した

市教育委員会研究指定校・館としての3年間の研究実践は、田辺市に新たな学社融合の教育活動をもたらしました。そのため、

○地域の参加者と、授業展開及び学習目的。内容について共通理解を図る

○学習指導案に示した学校・地域それぞれの目標を達成する

といった、より高い成果を導き出すための創意工夫が施されています。そして、この実践を通じて、地域側には、次のような成果がもたらされています。

○授業において学校・地域が融合した活動を進めたことで、地域の大人が地域を振り返る機会となり、「地域の中の学校」「地域の中の子どもたち」という意識がより明確になった

○地域と学校のネットワークが広がっている

田辺市における学社融合の実践を多様化させる素晴らしい研究実践であると思います。

## (6) 田辺第二小学校区

校区内の教育施設（保育所・幼稚園・小学校・中学校・看護専門学校）の合同避難訓練についての報告であるが、これも学社融合の取り組みがもたらした変化なのではないかと考えます。

○校区の教育施設が連携・協力し、同じ日に合同の避難訓練を実施できたことは、非常に意義深い

○本校が避難場所として定めているファミリー・ヴィラ自治会と避難場所の使用協定を結び、いつでも避難場所として活用できるようになったことは大きな成果

異なった機関が連携することはさまざまな課題を解決する必要がある、煩わしく面倒なことですが、連携が成立すれば単独であるよりもより大きな成果が生まれることを、改めて示してくれている実践です。そして、

○次年度に向けては、周辺の町内とも協力し、一緒に避難訓練を実施していけるようにしていきたい

と、連携することの良さが認識できれば、連携のさらなる拡大へと意欲的になれることも教えてくれる実践です。

## (7) 田辺第三小学校区

これは「防災学習」への取り組み報告ですが、田辺第二小学校区の実践報告と同じく、

○自分の住む地域から避難場所までの経路の安全性を調べることで、防災学習を自分の課題と捉え、生きた防災学習となってきた

○自分たちのつくった防災マップを保護者や地域の方々に説明することで、子どもたちのコミュニケーション能力を高める学習となり

○改めて保護者や地域の方々が、防災について見つめ直す機会を提供できた

○地域と学校が連携を図り、西部地域の地震、津波を想定した防災訓練も実施した

と、地域と協働する実践を行っています。「防災学習」が地域的、組織的な協働に基づいて行なわれることでより大きな成果を生み出すことを教えてくれる素晴らしい実践です。

二つの実践を通じ、田辺市では、「避難訓練」や「防災学習」が、より現実的に、そしていざという時に本当に役立つ「避難訓練」「防災学習」となりつつあると感じました。

## (8) 芳養小学校区

芳養小学校区の研究実践が終わってから数年経つわけですが、研究指定を受けていた当時よりもダイナミックな実践報告に接し、

○地域の方々の仕事に対する思いや苦勞を知ることができた

○保護者や地域の方々に、SP（スクールパートナー）として授業に参画してもらい話を聞くことで、子どもたちが持つ疑問を解決することができた

○また、今の自分たちができることについて考えるよい機会にもなった

と、以前にも増して学社融合が子どもたちの学びを深化させている状況が感じられ、とても嬉しく思いました。そして、さらに、芳養小学校区の活動が、

○衰退していく農業、水産業を次世代の担い手である子どもたちに知ってもらうことができた

と芳養小学校区が抱える地域課題にまで踏み込み、その課題解決には、

○今後10年、20年先も継続していくことが必要

であるとの認識から、

○「地域の教育力を生かした授業」で育まれた、地域と子どもたちのつながりを継続して取り組み、さらには取り組みを進めていきたい  
としていることに、芳養小学校区における学社融合の進化を感じました。

### (9) 大坊小学校区

○地域住民は学校への愛着も強く、学校行事等の児童活動にあっては、全地区あげての協力体制が得られている

と、学校と地域が好ましい関係にあることが報告されているが、それは、大坊小学校が地域に対して持っている

○校区内には文化施設や商店はなく、学校は地域の文化・教育・厚生のための唯一の場所であり、地域住民のセンター的役割

を、長年にわたって果たしてきたからこそ成り立ってきた関係なのではないでしょうか。その大坊小学校が、現在抱える課題は、

○地域の人々には、地域に伝わる文化や習わしを受け継いでもらいたいという思いが強く、子ども達が地域行事に参加する事を大変喜んでくれる

という地域要求を学校としてどのように果たしていくかということのようです。そのため、学校では、

○祇園神社に伝わる踊りを学ぶ場を学校で作る

○しめ縄づくりをする

○学校の歴史を学ぶ

などの実践を行い、子どもたちの目を地域に向けさせることに努めています。その結果、

○高学年になると、地域の一員として役割が担えるように育てている

○後継者不足の課題解決の足掛かりとなった

などの成果が導き出されています。地域要求を受け止めた学校の在り方を示す先駆的实践ではないかと思えます。

### (10) 新庄小学校区

新庄小学校区の報告で、もっとも注目したことは、学社融合の活動が

○新庄公民館・新庄幼稚園・新庄小学校・新庄中学校の担当者が定期的集まり情報交換している

と、組織的、計画的に進められているところです。この組織力があるからこそ、多彩な学社融合活動ができているのではないかと思います。

そして、もう一つが、

○年に一度当番校が公開授業を行う合同研修会を開催し、全教職員が共に研修しているという研修システムです。立場上数多くの実践報告を目にしてきましたが、地区単位で継続的、定期的な研修を行っているという報告に接することはほとんどありません。学社融合を確実に進めて行くためには、実践と研修を往復できるシステムの構築・維持が必要不可欠なのです。その実践と研修を往復できるシステムが機能してこそ、高い実践力は生み出されるのです。

新庄小学校区に見る二つのシステムは、地区ごとにぜひとも備えてほしいシステムです。他の地区にも早期に拡げていきたい仕組みです。

### (11) 新庄第二小学校区

この実践報告はしばらく頭から離れない報告でした。それは、

- 「学校図書館サロン ～ ここに来れば何かが生まれる そんな期待感のある居場所」というユニークな発想と、
  - そこに集まる人々と、学校の地域連携担当、社会教育の地域共育コーディネーターを合わせ、コミュニティを組織する
  - そのコミュニティが、学校に向けては学力形成につながり
  - 家庭に向けては保護者同士のつながり作りになり
  - 地域に向けては生きがい作りになることを
  - 共同で企画し、実行して行く
- という緻密な計算に強く心惹かれたからでした。

「学校図書館サロン」は名称は「サロン」とありますが、集まってくる人々は図書に関わるボランティアなのです。気軽さを前面に出しつつも実行力ある人を集めるその工夫に敬服しました。

実践して1年目ということですので、今回はその成果にはふれませんが、学社融合の仕掛けの一つのモデルであることは確かです。次年度の実践報告が楽しみです。

### (12) 稲成小学校区

○本年度から、地域と学校が互いに歩み寄ったかたちで、地域の文化祭と学校の総合的な学習発表会を統合した。

単独で行なうよりもより多くの、あるいはより大きな成果を手にすることはすでに多くの学校区からの報告で分かっていますが、いざ統合、融合するととなると条件整備が大変です。本実践も多くの課題を解決してこの報告までたどり着いたことと思います。そして統合、融合してみれば、やはり、

- その結果、学校・家庭・地域住民の世代間交流が生まれ、
  - 学校への理解が深まるとともに関心が深まった
  - 自分たちが学んだことを、地域の方々に向けて発信できる良い場となった
  - 地域の方々とはふれあい、交流を持つことで、地域住民と子どもの関係がより深まった
- といったたくさんの大きな成果を手にすることができました。これらの成果はやはり協働しなければ得られないことであり、協働してこそ、
- 地域社会の中で、地域住民と子どもたちとの交流を深めることにより、コミュニティ活動の活性化を図る
- という公民館（地域）側の目標達成にもつながったのだと思います。

### (13) 田辺東部小学校区

報告にある「ひがしふれあい秋祭り」は、

- 低学年のあきまつり、中・高学年の日曜参観、東陽中学校の合唱部や野中の獅子舞などのステージ、各種団体による出店（町内会・子どもクラブ・学校職員等）、抽選会、餅まきなどの多様な内容で多くの来場者を迎えることができた
- そうですが、これを実施するために、
- 公民館、学校、町内会、育友会、とうぶのおやじの会などの各種団体が4回の実行委員会をもって、それぞれができることを出し合い、協力して祭りを作り上げる

といった工夫をしているそうです。「それぞれができることを出し合い」という柔軟さと、「祭りを作り上げる」という創造性が、この祭りに活気を与えているように思います。そして、その柔軟で創造的な協働が、

○地域活動を盛り上げ、子どもを育てていこうという気運を高めることができたという成果を生み出したのだと思います。

#### (14) 会津小学校区

○地域活性化推進団体・公民館などの諸活動と学校教育との融合を図る

○子どもたちに、地域行事への積極的な参加を促し、地域の一員としての自覚を育てる

○大人と子ども双方にまちづくり行事に積極的に参画してもらい、参加者相互の交流を通じて、地域社会の一員としての意識を高めてもらう

○秋津・万呂両地域間のつながりを深め、地域外からも広く多くの方に参加していただくことで地域活性化へと繋げる

と、学校、公民館（地域）がそれぞれに目標を掲げて実施した「あんどん祭り」ですが、それぞれの目標に共通して「地域活性化」の文字が見られることが印象的でした。特に学校の目標にその文字が見られることがとても良いことだと思いました。

ところで、この報告で目をとめたのは、

○中高生グループの参画もあり、若い世代が地域活動へ参加してもらえるきっかけを作ることができた

という部分です。中高生というと、田辺市で学社融合に取り組み出した頃の小中学生です。もしかすると、それらの中高生は学社融合活動の経験者ではないでしょうか。現地に出向いて確かめてみたいと思います。

#### (15) 上芳養小学校区

○上芳養地域には、11月に芳養八幡神社の例祭があり、馬引きや、かけ馬が行なわれることから、子どもたちが、

○馬に慣れ、地域の祭りに積極的に参加出来る

ようにと、体験教室として乗馬教室を実践した報告です。地域の要求を満たすために公民館と学校が協働して対応しているわけですが、地域を支えるために公民館や学校が果たす役割が大きく変化しつつあることを実感させる報告だと思います。祭りの基盤となる体験が地域の中で経験できなくなり、新たな仕組みでその体験をさせていかなくは祭り自体が成り立たないという危機的状況は、田辺市の各校区だけではなく、全国的傾向なのではないでしょうか。

上芳養小学校区の実践から、そのような危機的状況を打開する新システムの手がかりが得られることを期待します。

#### (16) 中芳養小学校区

中芳養小学校区は

○本来は農村地帯であり、昔ながらの人間関係が色濃く残り、各字（あぎ）内のつながりが強かった。

○そこへ、新しく団地や宅地がつくられ、人口が急増、今では新しく入居してきた住民の児童の方が多くなっている

そうで、

○地域としては、旧住民と新住民の交流・融和が課題である

とのことです。したがって、

○地域住民の教育に対する関心は高く、特に学校教育に関しては熱心であり、常に協力的である

とは、旧来からの住民の方々のことではないかと思え、学校が保護者間の温度差に苦勞されているのではないかと想像します。しかし、

○小学校における学社融合の取り組みは、子どもの教育活動やさまざまな行事を通して住民間の交流・融合を図る重要な役割を果たしている

とのことです。学社融合の手立てを持たない地域から比べれば学校の負担も軽減できていると思われ、少し安心しました。

中芳養小学校区における学社融合は地域づくりの手立てとなっていて、中芳養小学校区には欠かせないものとなっています。学社融合により意図的に旧住民と新住民のさらなる交流・融和が促進されることを願っています。

#### (17) 上秋津小学校区

上秋津小学校区における学社融合には、

○子どもたちの座学・体験学習を通して、子どもたちはもとより保護者の方々にも地場産業である農業について知ってもらう

○ボランティアとして参加していくことにより、「人づくり」ひいては「地域づくり」に結び付けていくことを目指す

と、他地区と比べると、公民館（地域）側の大きな、そして明確な期待が寄せられています。早くから学社融合の仕組みを取り入れてきた上秋津小学校区ならではの姿ではないかと思えます。公民館（地域）側の期待が大きいということは、学校との協働への意欲の高さと意志の強さを意味します。そして、積極的なかかわりを意味します。

この実践報告が教えてくれることは、学校側だけでなく、公民館（地域）側にも明確な意図があつてこそ、学社融合は大きな成果を生み出すということではないでしょうか。

#### (18) 秋津川小学校区

○児童数の減少にともない、活動の企画や運営が難しくなっている

○同時に家庭数も減少しているため、協力していただける方も減っている

○少子高齢化・過疎化が進む

これらの記述から、秋津川小学校区の現状は大変厳しい状況にあることが読み取れます。しかし、学社融合の活動を通して、

○地域の方が子どもをよく知ってくれ、声をかけてくれるようになったことで、子どもの活動意欲につながり

○子どもたちと協働することで、刺激を受け、精神面や身体面にも良い効果があつたとのことです。

この実践報告からは、少子高齢化という状況の中だからこそ、大変ではあるが、学校を核とした学社融合を進めていかななくてはならないと思わされたのでした。

#### (19) 三栖小学校区

三栖小学校区では、

○本年度よりクラブ活動に地域の方を講師として招き、4つのクラブ（茶道、タグラクビ

一、絵手紙、手芸)で指導していただいた実践をしたとのこと。その結果、

- 職員では指導することができない専門的な技術指導ができ、クラブ活動に幅ができた
- 地域や保護者の方に直接指導していただくことで、学校の児童の様子を知っていただいた
- 今まで体験したことのないものにふれる機会ができた
- 地域の方に接することで拡がりが出た
- 緊張感を持って取り組み、礼儀が学べた
- 茶道クラブに、公民館施設を利用してもらうことにより、公民館の役割の一部を知ってもらうこととなった

といった成果を手にしています。学社融合が幅広い成果をもたらすものであることを改めて確認できた思いです。

#### **(20) 長野小学校区**

今回の実践報告では、地域の人々と交流する機会の少ない児童にとって

- 地域を巡る活動はよい経験となった
- 地域に根ざした生き方を学ぶことで、社会の一員としての自覚を育てる機会となった
- 地域の人たちの仕事や生き方を学ぶことにより地域の人々の苦勞を知ることができた
- 地域学習を進めることにより社会への関心やより深く学ぼうとする意欲が高まってきた
- 地域の人を知らない児童が、ふれあいの中で自分たちが大切にされていることを実感できた

と記されています。この記述は、「子どもたちにとって、今、なぜ学社融合が必要なのか」という問いかけに対する答えであるように思います。

#### **(21) 伏菟野小学校区**

○台風で地域は大きな被害を受けたが、多くの方が交流会に集い、劇を見たり、児童と合唱やレクリエーションをしたりして、楽しく1日を過ごし交流できた

とありますが、「ふれあい交流会」は台風で被災された地域の皆さんを大いに元気付けたのではないのでしょうか。その元気を導き出したものは、

- ふれあい交流会に向けて2ヶ月以上に亘り児童・教職員全員が協力し合ったことであったように思います。そして、「ふれあい交流会」の成果を活かし、災害から立ち直る力を与えたものは、
- 地域の方と「もみじ」「ふるさと」を合唱し、感動を共有しあうことだったと思います。

「地域の元気の源は子どもである」と言いたくなる実践ではないのでしょうか。

#### **(22) 咲楽小学校区**

「福井夏まつり」の実践を記した報告ですが、

- 昨年度までの「福井盆踊り大会」を今年度は子どもが楽しめる内容を加え、「福井夏まつり」として実施することにしたそうですが、そのため、
- 盆踊りの前に、子どもたちを対象にした「つきでっぼう作り」「わりばしでっぼう作り」を行ないました。また、事前には、

○学校でのPR ～ 保護者全体会、全校児童集会、校報への掲載を行なっています。

この実践からは、地域活動の活性化のために、まずは子どもを引き込み、次に親を引き込みという意図を感じます。また、長年にわたる「咲楽小学校地域連携推進会議」の活動の成果が反映されているように感じました。

### (23) 中山路小学校区

報告書では、

○年々の取り組みにより、学校に対する協力や支援体制にも広がりが見られるようになってきた

○学校が地域住民の活動の場となる

○生き甲斐の場となる

○地域の自然の恵みを感じることができた

○地域の方を知る機会となった

○常に地域の方々に支えられることを感じる事ができた

○学校行事に参画する

○つながりを持つことで地域の行事に学校の職員が参加し、地域の方々と交流する機会が増えた

など、数多くの変化を記しており、学社融合が子ども、地域住民、そして教職員と、幅広い存在に変化をもたらしていることが読み取れます。

### (24) 上山路小学校区

○統合して1年目は旧3校の実践を引き継いだ取組を展開

○2年目はそれらを継承しながら整理

○3年目を迎えた今年度は、生まれてきた課題に対応しつつ取組の合理化を図ってきた

これは、学校統合後の上山路小学校区における学社融合活動の変遷です。簡単に記されていますが、

○6つの区、3つの公民館分館、3つの婦人会、そして多くの高齢者学級や老人クラブ、自主団体等に支持され本校は学社融合を図っている

ということですから、広がりを持った校区への対応には大変なご苦労があったのではないかと想像します。

しかし、上山路小学校区には「学校地域連絡協議会」という組織があるそうで、例えば「高齢者との交流は学校地域連絡協議会でまず話し合わせ計画されていく」というように、学社融合が「学校地域連絡協議会」を母体に進められていることがわかります。「学校地域連絡協議会」は統合された校区における地域づくりにも大きく貢献しているのではないのでしょうか。上山路小学校区の動きは、学校統合後の地域づくりに学社融合がどのように役立つのかという問いかけに答えを出す興味ある実践であると思います。今後も継続して経過を見ていきたいと思えます。

### (25) 龍神小学校区

○本校の伝統的な取り組みのひとつになっている

という「お茶づくり体験」や「梅体験」、「いもまつり」は、

○作業のノウハウを地域の方から教員が学び、それを教員同士が学び合い、伝え合うこと

で現在に至っている

とのことです。独特の手立てで展開されている学社融合であるようですが、今後の展望も実にユニークです。

- 作ったお茶は、機会あるごとに学校に来てくださった方々に飲んでいただく
  - 梅干しは、味付けを施し、パックづめにし、学校に来てくださった方にお土産として渡す。パックには、手作りのラベルをはり、子どもたちが書いた手紙を添える
- 次年度は、ぜひこれらの展望が実現され、報告されることを期待します。

#### **(26) 栗栖川小学校区**

- ふるさとの良さを受け継ぐ「栗栖川らしい子」の育成に向けて、学校・保護者・地域が一体となった学びの町作りを目指し活動が続いている
- と、報告書の冒頭に記していますが、それを実現するための手立ても、
- 6年間の栗栖川の学びを策定し、地域の支援を受ける学びの体制づくりに取り組んでいる
- と具体化されています。その成果として、
- 地域に眠る教育資源を学校という場を共有し、効果的に活用できた
  - 教育資源の意味（この地で培った経験）を発信できた
- として記しています。今後の課題に、
- 子どもの視野の広がりや、この学びを通して、どのように拡大して行くのか。町に向かった目を、しっかり育てていきたい
  - 参加された支援者に、一層のやりがいと満足感を持っていただき、再び学校へ向かうエネルギーに変えていただけるか。また、次の人へのネットワークを広げていただくことが大きな課題である
- などをあげていますが、その解決策は、この報告書で自らが記している
- 年間を通した取り組み提示
  - 支援者希望の学校発信をしっかりと行い
  - 公民館と一層のつながりを深める
- であると思います。しっかりと構想され、的確に評価が行われている学社融合の実践であると思います。

#### **(27) 二川小学校区**

- 人と人との心のつながりが希薄になってきている
  - 私たちの地域でも、過疎化、高齢化、少子化が進んでいる
- という環境の中で、ある意味では苦肉の策として生み出された「合同運動会」や「合同文化祭」は、今や、
- 地域ぐるみの行事として定着している
- ということで、
- 公民館分館だけでなく各区、町内会、女性会、老人会などで協力して行なう行事であるため、地域の連帯感を感じることができる
  - 普段出会わない方々の交流の場としても意義深い
- と、地域づくりの一つの手立てとなっていることが読み取れます。「合同運動会」や「合同文化祭」の意味づけ、意義付けを変えていく時期に来ているようです。

### (28) 近野小学校区

○保育所、公民館、校区の諸団体との連携を図るため、代表者による実行委員会を設置し、諸行事を運営して行くことで学社融合の取り組みを進めていると、近野小学校区でも組織的に学社融合が進められていることが記されています。この報告に接し、田辺市の学社融合が組織的展開へと変化しつつあり、それによってより大きな、そしてより確かな成果を手に行っていることをさらに実感しました。

しかし、「代表者による実行委員会」方式の推進には、

○近露地区の老人会が解散したことで、高齢者の方々とのパイプ役となる方が不在となり、個々での連絡となる

といった脆さもあることを本実践報告は指摘しています。学社融合の推進組織のあり方をさらに検討していく必要があると思いました。

### (29) 鮎川小学校区

「鮎川ふれあいスクール」の取り組みを報告していますが、

○地域のスタッフの方々の多くの労力があることに気づき始めた

○自分から大人に話しかけるなどコミュニケーションをとるようになった

などと、子どもが変化しつつあることを指摘しています。また、

○参加・協力いただける地域の方や団体が徐々に増え、広く地域で子どもと交流してもらうことができた

○参加された方は1回だけでなく継続して来られており、子どもへの関心が高まっていると、大人側の変化も記しています。この報告からは、子どもと大人がふれあうことで相互に刺激し合い、変化が起きていることが読み取れます。

### (30) 三川小学校区

三川地区は台風12号の豪雨により大きな被害を受けましたが、

○「郷土 三川を愛し、がんばります!!」を合言葉に

「第6回三川地域お楽しみ会」を開催したとのこと。その目的は、

○被災に対する復興・復旧支援

でした。その集いは、子どもたちに、

○自分たちの生活が多くの人に支えられていることを実感させ

大人たちには、

○児童と触れ合うことが、地域の方や高齢者の活力となっている

○地域内外の方々が集まり、お互いの交流を深める場にもなっている

などの成果をもたらしています。「第6回三川地域お楽しみ会」は、

○今まで以上に地域と学校が一体となった取組となった

そうですが、人と人が直接対面し、ふれあうことこそが活動のエネルギーの源であると改めて思いました。

### (31) 富里小学校区

○様々な行事やボランティア活動にたいする地域の方々の積極的な参加と協力で、各団体の様々な活動に触れることができ、児童の地域理解がさらに進んだ

○ふるさと富里を愛する気持ちが育ちつつある

と、子どもたちが大きく変化しつつあることが報告されていますが、この変化をもたらす

たものは、

○学校からの発信量が増えたため、学校の各活動が地域によく伝わり、学校に対するとらえ方が変わりつつある

○学校から地域へのよびかけから、地域住民が学校に関わりやすくなった

○学校・児童の様子を知ることで、地域住民の学校への関心も高まった

と記されたことから考えると、第一には学校の変化であったと思われます。

数多くの支援者や支援組織を抱える富里小学校ですが、恒常的、かつ積極的な情報発信があるからこそ、学校理解、学校への関心、学校への積極的な支援意識を引き出すことができているという今回の報告には、学ぶことが多々あると思いました。

### (32) 本宮小学校区

遠くからでしたが、本宮小学校の台風被害からの1日も早い復旧を願っていました。大変な被害を受けながらも積極的に教育活動を実践されてきた先生方や地域の皆様に、まずは敬意を表します。

さて、本宮小学校区における学社融合の実践ですが、

○規範意識やコミュニケーション能力が向上した

○活動への意欲や関心が高まった

といった子どもの変化が見られるとのこと。これらの成果を検討すると、子どもたちは必ずしも専門的知識や技術にふれたことで変化したわけではないことが分かります。その変化は、大人に触れたことによってもたらされたものだと思います。子どもたちにとって今必要なことは、より多くの大人と触れ合っていくことだと改めて思いました。その意味で、本宮小学校区が

○授業や行事に地域の多くの方が参加しやすいように工夫を行い、開かれた学校づくりの充実を図りたい

とされていることには大いに共感を覚えます。

### (33) 三里小学校区

○三里運動会はこれで最後

○中学生たちが考えたスローガンは、「三里 Beautiful World」

○9月18日に開催予定

○9月初めに台風12号が来襲。甚大な被害

○復旧作業のために当面は運動会どころではないと、延期決定

○10月30日に開催。途中から雨が降り出し中断

○残り種目を11月5日に行なう

この実践報告は涙なくして読むことはできませんでした。報告書には、

○今年の運動会実施は実に大変であった

と淡々と記されていますが、当時の様々な思いの錯綜はいかばかりかと十分に推測できます。しかし、そんな大変な中でも、

○公民館・小学校・中学校が連携し、地域住民が協力する

ことで運動会が開催できたと報告しています。運動会実施によって、子供たちの

○「三里大好き」との思いを高めることができた

ことは、本当に良かったと思います。

### (34) 東陽中学校区

○今年度は、新たに防災に関する取り組みを行なったそうですが、その実践は、

○公民館と連携しての防災学習

○2回の避難訓練

です。しかも、2回目の避難訓練は、

○公民館を利用している地域住民の方々も参加した訓練

だったそうで、長年にわたる学社融合の実践が大いに役立てられた実践であったことが分かります。この実践から、

○学校（教職員・生徒）と公民館（職員・利用者）が合同で行うことで、避難経路や避難方法などについて一定の共通理解を持って取り組むことができた

という成果が生み出されています。

避難訓練はその性格上生活に根ざしたものでなければならず、東陽中学校区で行われたような避難訓練が望ましいと思います。この実践は今後検討することでより現実的な、つまり日常生活に根ざした避難訓練を創出することになると思われ、今後の報告がとても楽しみです。

### (35) 明洋中学校区

この学区の実践報告で注目したことは、

○「明洋中学校区学社融合推進会議（明融会）」を定期的に関き、学校と公民館（中部・西部・芳養）のつながりをいっそう強化することができた

という部分です。その会議は、

○ 4月26日 第1回明融会 今年度の活動についての打合せ

○ 7月 8日 第2回明融会 学校・公民館の取組と今後の予定について

○ 9月13日 第3回明融会 学校・公民館の取組と今後の予定について

○ 11月14日 第4回明融会 学校・公民館の取組と今後の予定について

○ 1月26日 第5回明融会 学校・公民館の取組と今後の予定について

○ 3月16日 第6回明融会 今年度の取組の総括と反省

と、計画的、定期的に関かれています。この報告書で「防災訓練」の実践を報告していますが、学校と地域が一体となった防災訓練を行なうためには、このような組織と定期的な会議は必要不可欠であると思います。学社融合を進める組織としては、行事ごとに編成される実行委員会方式もありますが、学社融合を日常化するためには「明融会」のような常設された組織が望ましいと考えます。

### (36) 高雄中学校区

高雄中学校区においても組織的に学社融合を進めるための工夫が報告されています。

○全体の地域担当主任を配置

○各校区協議会・各公民館ごとに担当者を配置

○公民館主事等との連携を図るための組織を構築

これらはおそらく学校内部の組織的対応を記したものであろうかと思えます。学校がこのような組織的に対応してくださることは、学社融合を進める上で大変ありがたいことです。このような対応からは高雄中学校区において学社融合が着実に進展していることは十分に

推測できます。だからこそ、

○学校の実践が保護者や地域に理解されているかを検証する必要があると指摘しているのだと思います。この指摘に対応する手立てを考案していくことが、今後の田辺市の学社融合をさらに進展させる上で必要なことと考えます。

### **(37) 新庄中学校区**

報告には、

○平成23年度は、学社融合推進補助事業の指定を受け

○新庄地域共育コミュニティを立ち上げ

○これまでの取り組みを検証し

○継承しつつ発展

○子どもを中心として

○地域と学校が一体となって

○今まで以上に魅力ある地域をつくる

と、新庄中学校区における学社融合推進の構想が示されています。この実践における事業テーマを、

○「新庄3つの里づくり ― 防災・ふれ合い・学び合いを通して」

としていますが、テーマに示されたことは明らかに地域づくりであり、学校がかかわる実践とは到底思うことができないテーマ設定です。学校が持つ教育機能を活かした地域づくりの実践として、新庄中学校区における実践に今後注目していきたいと考えています。

### **(38) 上芳養中学校区**

○本年度は陶芸教室に加え、パッチワーク教室を行う

と、実践の広がりを報告しています。また、

○今年度は上芳養地域にある保育園・小学校・公民館・第二のぞみ園との話し合いの場をもち、連携を図り、交流を深めた

と、組織的な対応が進んでいることも報告されています。このような対応が進んだことは、公民館（地域）側が掲げる

○生涯学習の成果活用を提供し、地域の教育力の活性化を図る

という目標を達成する上で大いに効果的なことであると思います。

報告書にある

○得た体験や知識が、「各自の今後の生活の中で、必ず生きた体験として、どこかでつながる部分があって欲しい」願う主催者側との共通理解の上で取り組むことができた

という部分が特に印象に残りましたが、学社融合は学校と地域の思い、特に子どもへの思いの共有化がその出発点であることを再確認した次第です。

### **(39) 中芳養中学校区**

実践報告に圧倒されました。中学校でこんなにも多数の学社融合の授業に取り組んでいる実践例は目にしたことがありません。これらの実践が子どもにもたらした成果として、

○生徒の姿を地域の方々にご理解いただく手立てとなった

○より高い心の成長を図ることができた

○自分の気持ちを相手の方のようにして伝えるかを学ぶことができた

○ボランティア精神や働くことの大切さ、命や物を大切に作る心が育ってきた

- 相手をもてなす気持ちで活動できた
- 公民館を身近なものとして捉えてくれる様になった
- 地域をより深く知ることに繋がった

といったことを指摘されていますが、一つ一つ内容を詳しくお聞きしたら、もっと数多くの感動的な成果を教えていただけるのではないかと思います。

#### (40) 上秋津中学校区

上秋津中学校区の実践の詳細に触れないで申し訳ないと思うのですが、上秋津中学校区の報告には田辺市の学社融合の変化が顕著に記されているので、ここではそれについてふれさせていただきます。

- 上秋津小学校における「キッズあきつの塾」をさらに進め深め、地域に根ざす「あきつの塾」へとつなげる

学校の目標欄に記されたこの一文は、田辺市の学社融合の最近の変化を象徴するものであると考えます。この一文は、学校が学社融合の進展を、地域という横軸と、時間という縦軸で捉え出したことを物語っていると思うのです。学校に限ったことではありませんが、組織というものはどうしても組織内部の中だけで物事を観てしまいがちです。例えば、中学校であれば、小学校の取り組みはどうなっているかを観るべきなのですが、観ようとしてもなかなか観ることができない現状にあります。また、中学校で行っていることが地域のどんなことに繋がっているのかを観るべきなのですが、やはり観ることができない現状にあります。小学校を観る、地域を観るということは、教育の原点に立ち戻ることであるように思います。上秋津中学校区は、その原点に立つことを目標としていると考えられるのです。

田辺市の学社融合は、ここに来て、大きく、質的な変化を遂げようとしているのです。それを示しているのが、上秋津中学校区の実践なのです。上秋津中学校区の今後の取り組みに注目していきたいと思います。

#### (41) 秋津川中学校区

「秋津川ふるさとまつり」における授業公開と炭琴演奏の実践報告ですが、

- 例年になく授業を見て下さる方が多く、「少人数の授業がきめ細やかでとても良かったです」「先生との信頼関係が伺われました」等、少人数故、一人ひとりに目の行き届いた授業の良さをほめていただいた

と、授業公開では、地域イベントに併せて授業公開することが成果が大きいことを指摘しています。

また、全校生徒で取り組んだ炭琴演奏については、

- 合奏は、「涙そうそう」「島人ぬ宝」の2曲
- 生徒たちもずいぶん上達
- 炭琴サークルの方々からもほめていただいた
- 生徒たちも上達を実感
- 自信につながり
- 各自の責任感も高まった

と、大勢の人の前で発表したことの成果を報告しています。少人数の学校が地域イベントを上手に利用すれば教育効果を高めることができるということを示した実践です。

#### (42) 衣笠中学校区

この報告で目を引かれたことは、

○本校では、学校が抱える教育課題を積極的に家庭・地域に訴え

○課題を共有化し

○学校と地域が共に子育てに関わっていこうとする

○地盤が確立されている

という、実に望ましい地域（学校も含む）性です。そして、

○生徒と関わってくれる多くの人たちとの交流が一時的なものにならないように取組を系統立てたものになっている

という学校の高い教育的見地です。その結果として、

○地域の人たちとの体験活動を通して、生徒は好ましい人間関係のあり方を学び、人を思いやる豊かな心を身に付けつつある

ということです。しっかりと構築された学社融合のシステムがあれば、子どもたちは望ましい成長を遂げて行くことを示した報告です。

なお、報告に書かれた「地域の方のモデルによる授業の実践 — 美術科」は、興味を強く惹かれた実践です。地域の方の顔を描きながら、地域の方の皺に感じる人生を感じ取る生徒を思い描くと、とても奥深い実践であると思ったのでした。

#### (43) 長野中学校区

長野中学校区では、学社融合を、

○地域の方々と協力してふれあいながら活動を行なうということは、中学生に、地域への帰属感をいだかせるうえで大変有意義な取り組みである

○地域の文化を継承し心豊かな人間の育成にも、大変有意義である

と、中学生にとっての学社融合の意義と効果を評価しています。また、

○学校便りで活動を知ることよりも、直接学校での活動や生徒の様子を目にすることで、学校への理解も深まった

○若い中学生と触れあう機会を、みな喜んでくれている

と、地域側にとっての効果も記しています。このような捉え方に基づく学校の積極的な取り組みの結果、

○生徒たちはのびのびと活動し

○地域の一員として地域行事や公民館行事へも積極的に参加

○清掃活動・プルタブ回収などのボランティア活動も行っている

と、地域に生きる中学生の姿を見ることができていることを報告しています。中学生にとって、長野中学校は、自分たちと地域を結ぶ重要な機能を果たす存在となっているようです。

#### (44) 龍神中学校区

龍神中学校区の実践は、他の地区とは一味違った実践となっています。

○「学校だより（夢抱き）」の校区全戸（約1700戸）への配布

○ボランティア活動の推進

○地域行事への中学生の積極的な参加

などと、学校内部での地域の方々とふれあいだけでなく、中学生を積極的に地域に送り

出し、学校の囲いを越えた地域の人とのふれあいを推進しているのです。このような学校の仕掛けは、ある意味で、作られたふれあいではなく、生活的なふれあいを演出しようとしているように思います。学校の内外を通じた地域の方々とふれあいを演出する学校は、龍神地区に生きる子どもを育む上でとても重要な役割を果たしているのだらうと思います。

#### (45) 中辺路中学校区

「職場体験学習」の実践報告ですが、その実践の目的を、学校は、

- 勤労の貴さ・意義を学ぶ
- 将来の進路選択に生かす
- 社会に通用する礼儀やマナーを身につける
- 地域の課題や将来に目を向ける

としています。「職場体験学習」の目標に、「地域の課題や将来に目を向ける」掲げる実践は大変稀なもので、学社融合を進める田辺市の中学校だからこそ、この目標設定があるのではないだろうかと考えました。

一方、公民館（地域）は、

- 地域で働く方々と接することにより、地域の良さを知ってもらう
- 地域の方にとっても、学校を身近に感じもらう

を目標に掲げ、中学生が地域に出てくることを地域理解のチャンスとしようとしています。

実践報告に給食調理場で体験した中学生の感想が記されていますが、学校や公民館（地域）が掲げた目標が達成されていると同時に、自分達のために細やかな気遣いで働いている人たちに感謝する気持ちを中学生が抱いたことが読み取れます。中学生にとって、職場体験学習は想定以上の多くの成長をもたらすものになっていることが分かります。

来年度も5日間の実施を考えているそうですが、実践報告では、ぜひ「地域の課題や将来に目を向ける」という目標達成の過程をご紹介いただけたらありがたいと思います。

#### (46) 近野中学校区

「稲作・餅つき等体験学習」を報告していますが、さすが中学生の体験学習であると思いました。それは、

- 地域が抱える問題に気づく
  - 活性化のために自分たちもかかわれることを学ぶことができた
- と記されているからです。

残念ながら報告書では、子どもたちが気づいた「地域が抱える問題」とは何か、子どもたちが学んだ「活性化のために自分たちもかかわれること」とは何か記されていませんが、おそらく地域に住む一人としての気づきであったでしょうし、自分が何をすべきか、何ができるかという気づきであったと思います。このような中学生の気づきを明確化すると、今回の実践の意義はより深いものとなるような気がします。

この実践を経た中学生たちは、近野フェスティバルにおいて、

- 上記の体験を発表し
- 餅つき実演をして
- 参加者にふるまった

とのこと。中学生の気づきを行動へと移させる仕組みとして、地域イベントが活用された素晴らしい実践だと思えます。

#### (47) 大塔中学校区

「選択交流学習」と題されたこの実践報告は、

○移行期の3小学校1中学校の5・6・7（中学1）年生を対象

○異なる学校、異なる学年を縦割り

○地域の方をゲストティーチャーに

○地域の方と交流

○日本の文化に触れる

○コミュニケーション能力を向上

というもので、大変驚きました。ここにも、子どもの育ちを促す教育を、時間を縦軸として再構築しようという意図と、それを地域という横軸への広がりの中で成し遂げようとする田辺市の新たな教育的試みを感じました。

○地域の人に誉められ、学習意欲が向上した

○中学生と小学生とのつながりが深まった

○地域とのつながりを実感する

○地域の子どもを知り、子どもを育てる意識が向上

などの成果が記されていますが、これだけに留まらないさらにはたくさんの、そして大きな成果があったのではないかと思います。

#### (48) 三里中学校区

三里中学校区の報告に、思わずうなってしまった部分がありました。そこには、田辺市が追い求めてきた姿がありました。

○「子どもと地域のために」という学校と公民館の思いのもと、時間をかけて何度も話し合えたことは、お互いの意思疎通だけでなく信頼も深めた。

○コミュニケーションを重ねるごとに様々なアイデアが出され、新たな展望と具体的な展開を見いだせた。

○学校と公民館が信頼関係を深め、連携することは、教育活動に広がりを生む。

この通りだと思います。この発見が、本宮中学校へと引き継がれ、新たな本宮中学校区で生かされることを切に願います。

#### (49) 本宮中学校区

○昨年度で文部科学省委託による「学校支援地域本部事業」は終了となりましたが

○今年度は「本宮地域共育コミュニティ事業」として取り組むことになりました。

○本部長を公民館長にするなど組織は少し変わりましたが

○「学び合い、支え合い、高め合う学校と地域社会」というテーマは継承し

○新しいことにも積極的に挑戦しています

これを読ませていただいて、3年間の実践に関わらせて頂いた者として、とても嬉しく、心強く思いました。このような取り組み姿勢が、

○大水害の後に、子どもたちは自ら考え、ボランティアとして地域の清掃活動や老人の世話などを積極的に行った

というような地域に生きる子どもを育ててきたのだと思います。そして、そのことは、

○三年間学校支援本部事業に取り組んできた成果そのものである

ことは間違いのないことだと私も思います。更なる進展を期待します。

### 3 終わりに

今年度の実践報告も圧巻でした。終始どきどきしながら読みきりました。田辺市の実践にはなぜこんなにも心躍らされるのか。それは、田辺市の学社融合が、次々と新たな教育活動、新たな地域活動を生み出し続けているからです。

- 「応答性のある関係」「余韻のある交流」などと学社融合の理念が具体化されている
- 学社融合の推進組織の常設化が進み、それを機能させた実践が行われている。そのことにより、学社融合が組織的に、そして計画的に進められている
- 学社融合の推進基盤である「実践と研修を往復できるシステム」が地区ごとに主体的に整備されている
- 学校内部の推進体制が整備されている
- 学校の目的・目標を達成するための学社融合が行われている
- 学校が「地域の活性化」を目標に掲げている
- 学校が、地域の要求に応え、地域課題を取り込み、積極的にその課題を解決するための教育活動を展開している
- 学校の授業と地域の活動の融合が進められ、学校の授業や行事などの諸活動が地域の学びとして活用されている
- 学校情報の外部への発信が活発に行なわれている
- 幼稚園や学校が世代間を繋ぐジョイントの役割を果たしている
- 学校と地域の行動が、地域の連帯意識を高めている
- 幼稚園や学校の活動が地域活動化している
- 学社融合によって生み出された活動が、地域行事化し、地域にとって欠かせないものになっている
- 各種の機関や施設が融合した活動実践が進められている
- 子どもたちの地域活動への参加が奨励され、積極的に行われている

これらは、今年度の報告書から読み取った変化ですが、田辺市の変化の一部分に過ぎません。各園、各学校の実践を、時間をかけ詳細にわたって分析すれば、見いだせる変化は数知れないと思います。田辺市の教育活動、地域活動は前へ前へと大きく歩みを進めているのです。大切なことは、その変化を適切に評価し、次の変化を生むための糧にすることです。

さて、今年度の実践報告では、学校側の飛躍的な前進を強く感じました。学校側の理解と積極的な取り組みをととても嬉しく思う一方で、解決しなくてはならない課題も感じました。学社融合は、学校と地域を両輪として機能しています。片方の車輪だけが大きく成長してしまうと、脱輪する恐れがあります。したがって、田辺市における今後の課題としては、地域側（田辺市ではその中心としている公民館側）のさらなる成長を図る手立てを整えていくことがあると思います。学校だけに依存した学社融合の推進はありえません。地域（公民館）もその推進の主体とならなくてはなりません。学校だけを中心としない、地域（公民館）も積極的にかかわれるような体制を再検討する必要があるように思います。

次年度、地域（公民館）の顔が見える実践報告がなされることを期待します。

(2012. 03. 01)